

平成 1 9 年度研修事業の概要  
(各研修事業別個表)

# 平成19年度研修事業の概要 (各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長・教頭等の教職員に対する 学校管理研修
---

## 1. 教職員等中央研修

第1回 校長、教頭等研修 .....	1
第2回 校長、教頭等研修（非宿泊） .....	3
第3回 校長、教頭等研修 .....	5
第4回 校長、教頭等研修 .....	7
第5回 校長、教頭等研修 .....	9
第6回 校長、教頭等研修 .....	11
第1回 中堅教員研修 .....	13
第2回 中堅教員研修 .....	15
第3回 中堅教員研修 .....	17
第4回 中堅教員研修 .....	19
第5回 中堅教員研修 .....	21

## 2. 事務職員研修

小・中学校 .....	23
高等学校 .....	25

## 3. 教職員等海外派遣研修

英語教育コース：6ヶ月 .....	27
英語教育コース：2ヶ月 .....	28
国際理解教育コース：3ヶ月 .....	29

**② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者を養成するための研修**

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	31
第2回	33
2. 指導力向上指導者養成研修	35
3. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	37
4. 国語力向上指導者養成研修	
東部ブロック	39
西部ブロック	41
5. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	43
北海道・東北ブロック	45
関東・甲信越ブロック	47
東海・北陸ブロック	49
近畿ブロック	51
中国・四国ブロック	53
九州ブロック	55
6. 環境教育指導者養成研修	
東部ブロック	57
西部ブロック	59
7. 生徒指導指導者養成研修	61
8. 人権教育指導者養成研修	63
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	65
西部ブロック	67
10. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	69
関東・甲信越ブロック	71
東海・北陸ブロック	73
近畿・中国ブロック	75
四国・九州ブロック	77
11. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	79
再契約予定者研修会（A日程）	83
再契約予定者研修会（B日程）	85
12. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	87
日本語指導者用コース	89

13. 子育て支援指導者養成研修	91
14. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	93
中部ブロック	95
西部ブロック	97
15. 健康教育指導者養成研修	
東部ブロック・推進コース	99
東部ブロック・専門コース	101
西部ブロック・推進コース	103
西部ブロック・専門コース	105
16. 学校安全指導者養成研修	107
17. 食育指導者養成研修	
食育推進指導者コース	109
栄養教諭コース	111
18. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校評価と学校運営：A－1団	113
学校評価と学校運営：A－2団	114
学校評価と学校運営：A－3団	115
学校評価と学校運営：A－4団	116
キャリア教育：B－1団	117
キャリア教育：B－2団	118
小学校英語：C－1団	119
国語力・読解力：D－1団	120
国語力・読解力：D－2団	121
国語力・読解力：D－3団	122
伝統・文化の教育：E－1団	123
伝統・文化の教育：E－2団	124
伝統・文化の教育：E－3団	125
心身の健康教育：F－1団	126
心身の健康教育：F－2団	127
生徒指導、在り方・生き方指導：G－1団	128
生徒指導、在り方・生き方指導：G－2団	129
生徒指導、在り方・生き方指導：G－3団	130
学校等間の連携：H－1団	131
学校等間の連携：H－2団	132
理数系教育：I－1団	133
理数系教育：I－2団	134
理数系教育：I－3団	135
安全に関する教育：J－1団	136

### ③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業・理科教育教員派遣研修 .....	138
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1 .....	141
農業：A－2 .....	143
工業：B－1 .....	145
工業：B－2 .....	147
商業：C－1 .....	149
水産：D－1 .....	151
水産：D－2 .....	153
家庭：E－1 .....	155
家庭：E－2 .....	157
看護：F－1 .....	159
看護：F－2 .....	161
情報：G－1 .....	163
情報：G－2 .....	165
福祉：H－1 .....	167
福祉：H－2 .....	169
技術：I－1－1 .....	171
技術：I－1－2 .....	173
技術：I－2－1 .....	175
技術：I－2－2 .....	177
家庭：J－1 .....	179
家庭：J－2 .....	181
3. 産業教育実習助手研修	
農業 .....	183
工業 .....	185

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長・教頭等研修					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校校長・教頭 中学校校長・教頭					
開催期日	平成19年 6月28日（木）～平成19年 7月12日（木）			15日間		
受講人数	計画人数	250人	受講者数	153人	参加率	61.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	118 77.6	34 22.4	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○演習を取り入れると体験等を通して理解が図れるので良い。</p> <p>○内容が盛り沢山の割には時間が短く、十分に消化できない点もあった。</p> <p>○限られた時間の中に、たくさんの研修内容を準備して下さり大変だったと思います。1日の研修が終わったら、次の研修資料が配られ、息をつく間もなかったのが正直なところですが、終わってみたら、私たち管理職という立場にあるものを後押しして下さっている研修が組まれていたのだなと感謝の気持ちでいっぱいです。地域や自校の取り組みの中に還元していくことが何よりのお礼だなと思います。ありがとうございました。</p> <p>○演習は不可欠。「実践研究」や「演習準備」の時間は大変有意義である。もう少し長く時間をとれば、討議や情報交換をより充実したものにできると思う。</p> <p>○オリエンテーションが適切で、流れが分かりやすかった。</p> <p>○内容が豊富なため、もう少し時間が欲しい場面があった。実践研究は有意義であった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</p> <p>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</p> <p>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</p> <p>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</p> <p>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第1回校長・教頭等研修(第302回)

小・中学校 校長・教頭

平成19年6月28日(木)～平成19年7月12日(木)

第1週	6月25日(月)	6月26日(火)	6月27日(水)	6月28日(木)	6月29日(金)	6月30日(土)	7月1日(日)
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I		
午後2 14:15～15:30				★教育改革の動向	菱村幸彦		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究		
第2週	7月2日(月)	7月3日(火)	7月4日(水)	7月5日(木)	7月6日(金)	7月7日(土)	7月8日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 ★教育指導上の課題 (学習指導) 工藤文三	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 岩永雅也	9:15～15:30 教育法規 II 松崎 勝	9:15～11:45 研修講師となるための知識 技術	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 学校評価 小松郁夫			13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	7月9日(月)	7月10日(火)	7月11日(水)	7月12日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 ★学校組織マネジメント 木岡一明	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 ★リーダーとなるために 藤田 潔			
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式			
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 地方教育行政				

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修		
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受 講 対 象	東京、神奈川、埼玉、千葉、その他の小学校・中学校の教頭		
開 催 期 日	平成19年 8月 6日 (月) ~平成19年 8月10日 (金) 平成19年 8月16日 (木) ~平成19年 8月23日 (木)	13日間 (非宿泊)	
受 講 人 数	計画人数	50 人	受講者数 96 人 参加率 192.0%
開 催 場 所	ホテルフロラシオン青山(東京都港区)		

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	87 91.6	8 8.4	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○今回の講師をされた先生方は、全員次年度の講師として適任だと思います。</p> <p>○大変素晴らしい研修でした。参加させていただき感謝しております。今後の自分に夢と希望を持つことができました。自校の課題解決はもちろん、地区にこの研修の内容を広めていきます。</p> <p>○演習があることによって、より主体的に取り組めた。</p> <p>○講義だけでなく、演習がある方が、具体的に理解できて良い。ただ、時間が全体的に短い(事前協議、実際の演習)ので、もっとゆったりと時間があれば、もっと深く理解ができたと思う。</p> <p>○場所はもちろんのこと、超一流の講師の先生方が大変素晴らしいと感じています。</p> <p>○演習を通して、多くの先生方と触れ合う事ができた。できるだけ、演習を取り入れてほしいと思う。</p> <p>○会場の環境が素晴らしく、一日集中する事ができた。演習等でストレスや緊張を感じる場面でも落ち着いた会場で救われた思いがする。</p> <p>○研修担当の方のオリエンテーション、説明等がとても丁寧で、研修方法や内容を具体的にイメージする事ができ、とても良かった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</p> <p>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</p> <p>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</p> <p>○開催日程を前半、後半に分け、受講者自身が研修内容等を整理する時間を設けた。</p> <p>○平成18年度は東京開催の会場が3か所に分かれていたが、1か所とした。</p> <p>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</p> <p>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成19年度 教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修(304回)

小学校教頭・中学校教頭

平成19年8月 6日(月)～平成19年8月10日(金)

平成19年8月16日(木)～平成19年8月23日(木)

1週	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)	土	日
		オリエンテーション 9:30-10:45	演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45		
午前1	受付			学校経営の課題 (カリキュラムマネジメント)	学校経営の課題 (学習指導の充実)		
午前2	10:00-11:30 オリエン① 11:30-13:00 昼食・休憩	教育法規Ⅰ 坂田 仰 11:00-12:15	教育法規Ⅱ 清水幹裕 9:45-12:15	児島邦宏 9:45-11:45	北 俊夫 9:45-12:15		
午後1	13:00-13:30開講式 13:40-14:40 教育改革の推進	(午前の続き) 13:30-15:00	(午前の続き) 13:30-15:00	実践研究 (学校管理運営 演習へ向けて)	リーダーとな るために① 杵屋五司郎 13:30～14:50		
午後2	特別講義 15:00-16:30 金平敬之助	実践研究 15:15-16:30	実践研究 15:15-16:30	13:30-16:30	オリエンテーション 15:10-16:30		
2週	8月13日(月)	8月14日(火)	8月15日(水)	8月16日(木)	8月17日(金)	土	日
				演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45	自由研修	自由研修
午前1				リーダーとな るために② 柴田励司 9:45-11:45	危機管理 (株)シン 石川慶子 9:45-12:15		
午前2							
午後1				危機管理  (株)シン 石川慶子 13:00-16:30	(午前の続き) 13:30-16:30		
午後2							
3週	8月20日(月)	8月21日(火)	8月22日(水)	8月23日(木)			
	演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45	演習説明 9:30-9:45			
午前1	学校組織 マネジメント (株)マーサー	学校経営の課題 (生徒指導の充実)	学校管理運営演 習 (教育法規演習)	学校管理運営演 習 (教育法規演習)			
午前2	9:45-12:15	横山利弘 9:45-12:15	9:45-12:15	9:45-12:15			
午後1	(午前の続き) 13:30-16:30	実践研究 (学校管理運営 演習へ向けて)	(午前の続き) 13:30-16:30 班別演習	法規演習 13:30-14:30 まとめ講義 14:45-16:15 閉講式 16:15-16:30			
午後2		13:30-16:30	演習確認	閉講			

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校校長・教頭							
開催期日	平成19年 9月26日（水）～平成19年10月11日（木）				16日間			
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	156	人	参加率	86.7%
開催場所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	138	89.0	17	11.0	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○演習が多い研修に主体的に参加できて有益です。一方で、講義の中にも重要な内容が多いので、演習と講義のバランスよい研修が効果的です。今回はその点で、よく組み合わせていただいていると思います。</p> <p>○この期間としては内容の充実した研修を企画していただき、ありがとうございました。</p> <p>○自分を振り返ることもできたし、長期に渡り勉強だけに専念できたことに感謝したいです。</p> <p>○教育関係者だけでなく、いろいろな職業の方から話が聞け、参考になった。</p> <p>○どの講義も演習も素晴らしかったが、多くが時間不足であった。</p> <p>○受け取った情報や知識を自分なりに消化する時間が欲しかった。</p> <p>○気持ちよく研修できるよう配慮がなされ、有意義な研修ができたと思います。</p> <p>○長時間の研修ではあるが、各講義や演習等の組み方に変化があり、基本的・普遍的な内容から最近の課題に至るまで、よく工夫されていたと思う。講師の方々も素晴らしく、充実した研修であったと思う。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</p> <p>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</p> <p>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</p> <p>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</p> <p>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第3回校長・教頭等研修(第306回)

高等学校 校長・教頭

平成19年9月26日(水)～平成19年10月11日(木)

第1週	9月24日(月)	9月25日(火)	9月26日(水)	9月27日(木)	9月28日(金)	9月29日(土)	9月30日(日)
8:30～9:00				8:30～9:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30			9:30～9:50 受付	9:15～11:45 班別協議	9:15～15:30 教育法規Ⅱ		
午前2 10:30～11:45			10:00～11:45 オリエンテーション①		清水幹裕		
午後1 13:00～14:15			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 ★教育法規Ⅰ			
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 ★教育改革の動向	伊勢呂裕史			
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究 (学校管理運営演習)	15:45～17:00 実践研究		
第2週	10月1日(月)	10月2日(火)	10月3日(水)	10月4日(木)	10月5日(金)	10月6日(土)	10月7日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 小林正幸	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 工藤文三	9:15～17:00 学校組織マネジメント 浅野良一	9:15～11:45 研修講師	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 学校評価 天笠 茂		13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第3週	10月8日(月)	10月9日(火)	10月10日(水)	10月11日(木)			
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 班別協議			
午前1 9:15～10:30		9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 ★リーダーとなるために 佐藤安太			
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度				

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回校長・教頭等研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教頭 幼稚園長							
開 催 期 日	平成20年 1月16日（水）～平成20年 1月30日（水）				15日間			
受 講 人 数	計画人数	120	人	受講者数	103	人	参加率	85.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	90	11	0	0	2
		89.1	10.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験による実感は、より一層自分のものとなるのでよいと思う。</li> <li>○基礎を講義で学び、演習で試み、最後にまとめていただくという構成なので、演習からもたくさん学びを得ることができました。</li> <li>○今回、どの講師の方々も素晴らしく、これ以上の方は考えつきません。</li> <li>○どうしても小学校に主体が置かれてしまうのは仕方のないかもしれませんが、もう少し幼稚園のプログラムが増えてもよいのではないのでしょうか。連携の時代なのですから。</li> <li>○講義と演習については、両方とも必要だと思うし、そのバランスが大切だと思います。バランス的には今回の研修は適切だと思います。内容についてもいろいろと工夫していただき、とても勉強になりました。</li> <li>○講師により個性がありましたが、内容はすべて有意義で、感謝しています。もう1週間研修したかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</li> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第4回校長・教頭等研修(第309回)

小学校教頭・幼稚園園長

平成20年1月16日(水)～平成20年1月30日(水)

第1週	1月14日(月)	1月15日(火)	1月16日(水)	1月17日(木)	1月18日(金)	1月19日(土)	1月20日(日)
8:30～9:00				8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30			9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～15:30 教育法規Ⅱ		
午前2 10:30～11:45			10:00～11:45 オリエンテーション		清水幹裕		
午後1 13:00～14:15			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ			
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 教育改革の動向	伊勢呂裕史			
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	1月21日(月)	1月22日(火)	1月23日(水)	1月24日(木)	1月25日(金)	1月26日(土)	1月27日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 國分康孝	9:15～17:00 学校組織マネジメント 北神正行	【幼稚園長のみ】 9:15～15:30 教育指導上の課題 神長美津子	9:15～11:45 研修講師	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午前2 10:30～11:45			9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北俊夫				
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 学校評価 伯井美德	13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究				
第3週	1月28日(月)	1月29日(火)	1月30日(水)				
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 柴田励司				
午前2 10:30～11:45			11:00～11:20 閉講式				
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 地方教育行政制度					

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受講対象	中学校教頭 指導主事 センター指導主事							
開催期日	平成20年 2月 5日（火）～平成20年 2月20日（水）				16日間			
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	161	人	参加率	89.4%
開催場所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無回答
人数(人)	割合(%)	143	17	0	0	1
		89.4	10.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習を通して、受身的な研修にならず、他の受講生から多くの考え方や地域による違いを学ぶことができ、有意義であった。より多様な演習を今後も期待したい。</li> <li>○細かな配慮のもと、有意義な時間を過ごすことができました。研修を通して多くのことを学習しましたが、一番は自分自身を振り返ることができたことです。学校に戻って、生徒や地域等に還元していければと思っています。</li> <li>○どの研修講師の先生方も、もう一度聞いてみたいと思う講義をしていただき、大変勉強になりました。特に生徒指導上の事案や裁判に関わって来るような事案が珍しくなくなった時代において、演習をたくさん行えたことは有意義だったと感じています。</li> <li>○内容が豊富で、大変勉強になりました。研修期間もあると思いますが、じっくりと取り組める余裕があればと思います。</li> <li>○自分の現状の課題がいくつか見つけることができました。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</li> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第5回校長・教頭等研修(第310回)

中学校教頭・指導主事・センター指導主事

平成20年2月5日(火)～平成20年2月20日(水)

第1週	2月4日(月)	2月5日(火)	2月6日(水)	2月7日(木)	2月8日(金)	2月9日(土)	2月10日(日)
8:30～9:00			8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 松田素行		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション					
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30				
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	教育法規Ⅰ 坂田 仰				
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	2月11日(月)	2月12日(火)	2月13日(水)	2月14日(木)	2月15日(金)	2月16日(土)	2月17日(日)
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 清水静海	9:15～17:00 学校組織マネジメント 浅野良一	9:15～11:45 研修講師	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 学校評価 伯井美德		13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究					
第3週	2月18日(月)	2月19日(火)	2月20日(水)				
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 北城格太郎				
午前2 10:30～11:45			11:00～11:20 閉講式				
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 地方教育行政制度					

2月6日(水)17:00～18:00 特別講義「教員免許更新制について(文部科学省)」を実施

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第6回校長・教頭等研修					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校教頭 指導主事 センター指導主事					
開催期日	平成20年 2月21日（木）～平成20年 3月 6日（木）	15日間				
受講人数	計画人数	170 人	受講者数	104 人	参加率	61.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	92 90.2	10 9.8	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新の情報満載で、吟味された研修計画、素晴らしい講師陣や所員の方々にお会いできて、大変有意義な研修の毎日でした。毎日が感動でした。全国各地の方々とも充実した交流の時間をもつことができ、同じ教育に携わる者としてエネルギーをいただきました。</li> <li>○今回のように、今後の動向に対応したタイムリーな内容が、その都度設定されると受講者にとってありがたいと思います。</li> <li>○様々な具体的手法を教えていただき今後の業務に活用できる。</li> <li>○1つ1つの講義内容の密度が濃く短い時間の中でもったいない気がした。</li> <li>○演習は大変であるが、多くの考えを出したり聞いたりできてよい。時間的に余裕があればさらに情報交換ができるように思う。</li> <li>○ここでの研修内容及び人的ネットワークは何にも代え難いものを得た気持ちです。</li> <li>○きめ細かく研修生のことを考えて運営していただいていると感じました。講師の方々がこれだけ充実し、新しい課題についてまとめて講義を聞かせていただけることが中央研修の魅力です。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校管理運営演習の問題を事前に送付し、解答を持参するよう改善した。</li> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第6回校長・教頭等研修(第311回)

小学校教頭・指導主事・センター指導主事

平成20年2月21日(木)～平成20年3月6日(木)

第1週	2月18日(月)	2月19日(火)	2月20日(水)	2月21日(木)	2月22日(金)	2月23日(土)	2月24日(日)
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I 北神正行		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向			
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究		
第2週	2月25日(月)	2月26日(火)	2月27日(水)	2月28日(木)	2月29日(金)	3月1日(土)	3月2日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II 清水幹裕	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 嶋崎政男	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 清水静海	9:15～11:45 研修講師	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 学校評価 天笠 茂	13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	3月3日(月)	3月4日(火)	3月5日(水)	3月6日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント 木岡一明	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 木村政雄			
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 地方教育行政制度				

2月22日(金)17:00～18:00 特別講義「教員免許更新制について(文部科学省)」を実施

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	高等学校教員							
開 催 期 日	平成19年 5月 8日 (火) ~平成19年 6月 1日 (金)				25日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	155	人	参加率	86.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	119	33	0	0	3
		78.3	21.7	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○大変密度の濃い素晴らしい研修をありがとうございました。今後の教育活動にしっかりと生かして参ります。</li> <li>○演習を多く取り入れることで、効果的な研修となりました。</li> <li>○教科に関する研修がない。教科別に分かれての実践研究(授業方法・指導法・シラバス等)の時間があればよい。県にもよるが、今後新規採用教員が多くなってきたときの指導ノウハウなど、伝授方法も重要になってくるのではないのでしょうか。</li> <li>○演習は不可欠。「実践研究」や「演習準備」の時間は大変有意義である。もう少し長く時間をとれば、討議や情報交換をより充実したものにする。</li> <li>○理論がきちっとして、そして実践豊富な講師の先生はとてよかったです。</li> <li>○学校管理運営演習は、大変有意義でした。</li> <li>○全員で話し合う時間などもあるとよいのではないかと思います。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○選択講義後の実践研究については、各選択講義の内容を共有するための協議を行うよう改善した。</li> <li>○「リーダーとなるために」のコマを新設した。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第1回中堅教員研修(第301回)

高校教諭

平成19年5月8日(火)～平成19年6月1日(金)

第1週	5月8日(火)	5月9日(水)	5月10日(木)	5月11日(金)	5月12日(土)	5月13日(日)	
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修	
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:15～11:45 ★国際理解教育 佐藤郡衛			
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰英一					
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 北神正行		13:00～15:30 研修講師となるための 知識・技術			
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 ★教育改革の動向 森嶋昭伸						
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 演習打合せ	15:45～17:00 演習打合せ	15:45～17:00 実践研究			
第2週	5月14日(月)	5月15日(火)	5月16日(水)	5月17日(木)	5月18日(金)	5月19日(土)	5月20日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 ★生徒指導 菅野 純	9:15～11:45 生徒指導 石橋昭良	9:15～11:45 道德教育 藤永芳純	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導上の課題 下田博次	13:00～15:30 キャリア教育 鹿嶋研之助	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	5月21日(月)	5月22日(火)	5月23日(水)	5月24日(木)	5月25日(金)	5月26日(土)	5月27日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	9:15～15:30 総合的な学習 相澤秀夫	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 ボランティア教育 興梠 寛	9:15～15:30 学習指導 二井正浩	9:15～17:00 学校組織マネジメント (産業能率大学)		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	5月28日(月)	5月29日(火)	5月30日(水)	5月31日(木)	6月1日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 ★人権教育 森 実	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 古賀正一		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 上野一彦						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:45～17:00 地方教育行政制度			

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教員							
開 催 期 日	平成19年 7月17日（火）～平成19年 8月10日（金）				25日間			
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	176	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	150	23	0	0	3
		86.7	13.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○受け身の講義だけでなく、能動的な演習は、モチベーションをあげ、具体的な実践により役立つと感じた。</li> <li>○演習をすることにより、理解が深まりました。同じグループの先生たちとたくさんの情報を交換ができました。</li> <li>○いろいろな分野の研修ができ、とても有意義な時間をすごすことができました。本当にありがとうございました。</li> <li>○いろいろな講座を組んでいただけてとてもありがたいが、やや忙しいように思った。1日の講義や演習の内容を振り返る時間がとれなかった。</li> <li>○25日間のスケジュールや1週間のプログラムにメリハリがあり、課題意識が持続できよかった。</li> <li>○オリエンテーションが効果的に行われ、見通しを持つことができた点にとっても助かりました。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○選択講義後の実践研究については、各選択講義の内容を共有するための協議を行うよう改善した。</li> <li>○「リーダーとなるために」のコマを新設した。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第2回中堅教員研修(第303回)

小学校教諭

平成19年7月17日(火)～平成19年8月10日(金)

第1週	7月16日(月)	7月17日(火)	7月18日(水)	7月19日(木)	7月20日(金)	7月21日(土)	7月22日(日)
8:30～9:00	海の日		8:30～9:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～10:00 演習打ち合わせ③	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付	9:15～11:45 国際理解教育 森本 敏	9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水幹裕	10:15～11:45 教育行財政制度 窪田眞二		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①					
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 坂田 仰		13:00～15:30 道徳教育 小寺正一		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 ★教育改革の動向					
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 演習打ち合わせ①	15:45～17:00 演習打ち合わせ②	15:45～17:00 演習打ち合わせ④		
第2週	7月23日(月)	7月24日(火)	7月25日(水)	7月26日(木)	7月27日(金)	7月28日(土)	7月29日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 ★生徒指導 河村茂雄	9:15～11:45 生徒指導 國分康孝	9:15～11:45 研修講師	9:15～11:45 危機管理 飯野眞幸	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導 玉井邦夫	13:00～15:30 キャリア教育 鹿嶋研之助	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 演習打ち合わせ⑤	15:45～17:00 実践研究①	15:45～17:00 実践研究②				
第3週	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)	8月4日(土)	8月5日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 児島邦宏	9:15～15:30 ★総合的な学習 吉崎静夫	9:15～15:30 特色あるカリキュラム 編成(選択講義) 情報教育 小泉カ ボランティア教育 池田幸也	9:15～15:30 学習指導 河野庸介	9:15～17:00 学校組織マネジメント (産業能率大学)		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15			健康教育 野津有司				
午後2 14:15～15:30			★環境教育 高田 研				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 実践研究⑥			
第4週	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑦	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション⑧		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 有村久春	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 ★リーダーとなるために 淵上克義		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 中井 滋						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑦			15:30～17:00 地方教育行政制度			

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。		
受講対象	中学校教員		
開催期日	平成19年 8月14日（火）～平成19年 9月 7日（金）	25日間	
受講人数	計画人数 220 人	受講者数 137 人	参加率 62.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター		

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	120 89.6	14 10.4	0 0.0	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○多くの先生方と話し合ったり、素晴らしい講義・演習を通して、教員としての幅が広がったように思う。講義演習、また講師とも、この中央研修でしか学べないような話・内容であったと思う。長いと思った研修期間もあつという間に終わった気がする。学んだことを地域に還元できるように、さらに自分自身を磨いていきたい。</p> <p>○演習形式は実際に考え作業をすることによって理解できることも多く、また疑問点も見えてくるので、とても良い方法だと思う。また、様々な県の先生からいろいろなお話を伺うことができ、非常に有益であった。</p> <p>○大変内容の深い研修をスムーズに運営していただき、ありがとうございました。自主研修の時間を含め、とても実り多いものであり、今後地域に還元していきます。</p> <p>○パワーポイント等で説明される時には、表示される内容を印刷して配布して欲しい。学校や地域に還元することも一つの目的なので、書き写す時間を少なくし、講義の内容に集中できるとよいと思います。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</p> <p>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</p> <p>○選択講義後の実践研究については、各選択講義の内容を共有するための協議を行うよう改善した。</p> <p>○「リーダーとなるために」のコマを新設した。</p> <p>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</p> <p>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第3回中堅教員研修講座(第305回)

参加者: 中学校教諭

平成19年8月14日(月)～平成19年9月7日(金)

第1週	8月13日(月)	8月14日(火)	8月15日(水)	8月16日(木)	8月17日(金)	8月18日(土)	8月19日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備①	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水幹裕	9:15～11:45 国際理解教育 森本 敏		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 教育行財政制度 大桃敏行				
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 菱村幸彦		13:00～15:30 研修講師①		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 ★教育改革の動向					
		14:30～15:00写真					
午後3 15:45～17:00		15:15～16:45 ★特別講義 村上和雄	15:45～17:00 班別協議①	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究①		
第2週	8月20日(月)	8月21日(火)	8月22日(水)	8月23日(木)	8月24日(金)	8月25日(土)	8月26日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 演習準備②	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備④	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導 菅野 純	9:15～11:45 ★キャリア教育 三村隆男	9:15～11:45 道徳教育 七條正典	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導 下田博次	13:00～15:30 生徒指導 池島徳大	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④		まとめ		
第3週	8月27日(月)	8月28日(火)	8月29日(水)	8月30日(木)	8月31日(金)	9月1日(土)	9月2日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 実践研究⑦	8:30～9:00 演習準備⑦	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 天笠 茂	9:15～15:30 総合的な学習 嶋野道弘	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 竹野英敏 ボランティア教育 長沼 豊 ★健康教育 和唐正勝 環境教育 高田 研	9:15～15:30 学習指導 北 俊夫	9:15～17:00 学校組織マネジメント (産業能率大学)		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 実践研究⑥	15:45～17:00 班別協議③	15:45～16:30 実践研究⑧			
第4週	9月3日(月)	9月4日(火)	9月5日(水)	9月6日(木)	9月7日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備⑧	8:30～9:00 演習準備⑨	8:30～9:00 演習準備⑩	8:30～9:00 研修講師②		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 福田 弘	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:30 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 福地茂雄		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:30 閉講		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 玉井邦夫						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑨			15:45～17:00 地方教育行政制度			

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教員 中学校教員							
開 催 期 日	平成19年10月16日（火）～平成19年11月9日（金）				25日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	125	人	参加率	69.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	111	89.5	13	10.5	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義・演習の流れで、より内容が明確になりました。</li> <li>○演習を通して講義の理解が深まった。また、具体的な教育活動について貴重な情報交換の場であった。</li> <li>○講師の方々が第一線で活躍なさっていらっしゃる方ばかりなので、驚きました。</li> <li>○4週間の研修プログラムを体験してみて、素晴らしい内容だということを実感いたしました。</li> <li>○一流の講師陣、心に響く講話の数々に「さすが中央研修」という感を強く持ちました。</li> <li>○講義のみでなく演習が入ることで、他の先生方との情報交換ができ、有意義な研修になったと思います。これからも演習を取り入れた研修がよいと思います。</li> <li>○プログラム構成等についても大変参考になりました。</li> <li>○自校や地域での伝講等をする事を考えると、資料が揃っている講義は有難いと思う。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○選択講義後の実践研究については、各選択講義の内容を共有するための協議を行うよう改善した。</li> <li>○「リーダーとなるために」のコマを新設した。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第4回中堅教員研修(第307回)

小・中学校教諭

平成19年10月16日(火)～平成19年11月9日(金)

第1週	10月15日(月)	10月16日(火)	10月17日(水)	10月18日(木)	10月19日(金)	10月20日(土)	10月21日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備①	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:30～9:50 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水幹裕	9:15～11:45 国際理解教育 佐藤郡衛		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 教育行財政制度 窪田真二				
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 坂田 仰		13:00～15:30 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 ★教育改革の動向					
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 班別協議①	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究①		
第2週	10月22日(月)	10月23日(火)	10月24日(水)	10月25日(木)	10月26日(金)	10月27日(土)	10月28日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 演習準備②	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 演習準備⑤	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄	9:15～11:45 生徒指導 石隈利紀	9:15～11:45 ★道徳教育 柴原弘志	9:15～11:45 危機管理 飯野真幸	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導 森田洋司	13:00～15:30 キャリア教育 三村隆男	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④				
第3週	10月29日(月)	10月30日(火)	10月31日(水)	11月1日(木)	11月2日(金)	11月3日(土)	11月4日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧	8:30～9:00 演習準備⑨	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 ★カリキュラムマネジメント 安彦忠彦	9:15～15:30 総合的な学習 村川雅弘	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 堀田龍也 ボランティア教育 長沼豊 健康教育 川畑徹朗 環境教育 市川智史	9:15～15:30 ★学習指導 角屋重樹	9:15～17:00 学校組織マネジメント (産業能率大学)		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 実践研究⑥	15:45～17:00 班別協議③	15:45～17:00 実践研究⑦			
第4週	11月5日(月)	11月6日(火)	11月7日(水)	11月8日(木)	11月9日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:30 演習準備⑩	8:30～9:30 演習準備⑪	8:30～9:30 演習準備⑫	8:30～9:00 班別協議④		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 梅野正信	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 ★リーダーとなるために 鍵山秀三郎		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 花輪敏男						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究⑧			15:30～17:00 地方教育行財政制度			

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修					
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校教務主任 中学校教務主任 高等学校教務主任					
開催期日	平成19年11月19日（月）～平成19年12月14日（金）	26日間				
受講人数	計画人数	300人	受講者数	226人	参加率	75.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

\*全体計画人数2,050人、受講者数1,592人、参加率77.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	211	11	0	0	4
		95.0	5.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○今回の研修で大変有意義な講義・演習をしていただきました。心より感謝申し上げます。</li> <li>○今後もこのような研修を是非続けていただきたい。一人でも多くの教員がこのような研修の機会を得られることを望みます。</li> <li>○講義で学んだことを演習を通して確認したり、理解を深めたりすることができ、大変有意義であった。</li> <li>○実践的な内容は還元し易いため、大変ありがたい。</li> <li>○パワーポイントのスライドは配布資料として必ず欲しい。</li> <li>○演習を通して課題を深めたり、情報交換ができた、大変良かった。実際に行うことで研修後の還元がしやすい。</li> <li>○この1ヶ月の研修内容に大変満足している。敢えて言うのであれば、研修前に、この研修の価値を認識し、自己研修を積んでから参加すれば、もっと有意義に過ごせただろうと自己反省している。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○当センターホームページ上より、事前研修教材を視聴できるようにした。</li> <li>○事前課題レポートが十分に活用されるよう実践研究の進め方等を明確にした。</li> <li>○選択講義後の実践研究については、各選択講義の内容を共有するための協議を行うよう改善した。</li> <li>○「リーダーとなるために」のコマを新設した。</li> <li>○学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題、スクールコンプライアンスが研修の中心であることを明確に示すとともに、より一層、受講者のニーズ、レベルにあった内容とする。</li> <li>○事前課題レポートの活用方法等について一層工夫する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度教職員等中央研修  
第5回中堅教員研修(第308回)

(教務主任)小学校・中学校・高校教諭

平成19年11月19日(月)～平成19年12月14日(金)

第1週	11月19日(月)	11月20日(火)	11月21日(水)	11月22日(木)	11月23日(金)	11月24日(土)	11月25日(日)
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:15～11:45 国際理解教育 多田孝志			
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二					
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 菱村幸彦		13:00～15:30 研修講師となるための知識・技術			
午後2 14:15～15:30	★教育改革の動向						
午後3 15:45～17:00	オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第2週	11月26日(月)	11月27日(火)	11月28日(水)	11月29日(木)	11月30日(金)	12月1日(土)	12月2日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄	(小・中学校) 9:15～15:30 道徳教育 横山利弘	(小・中学校) キャリア教育 三村隆男	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45		(高校) 9:15～11:45 生徒指導 金澤純三	(高校) 道徳教育 七條正典				
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導 石橋昭良	(小・中学校) 生徒指導 玉井邦夫	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30			(高校) キャリア教育 菊池武烈				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	12月3日(月)	12月4日(火)	12月5日(水)	12月6日(木)	12月7日(金)	12月8日(土)	12月9日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント (小・中学校) 安彦忠彦	総合的な学習の時間 (小・中学校) 吉崎静夫	特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉カエ	9:15～15:30 学習指導 (小・中学校) 角屋重樹	9:15～17:00 学校組織マネジメント (産業能率大学)		
午前2 10:30～11:45	(高校) 蛭田政弘	(高校) 村川雅弘	ボランティア教育 興梠 寛	(高校) 二井正浩			
午後1 13:00～14:15			★健康教育 西岡伸紀				
午後2 14:15～15:30			環境教育 市川智史				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	12月10日(月)	12月11日(火)	12月12日(水)	12月13日(木)	12月14日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 森 実	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 ★リーダーとなるために 藤原佳代		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 ★特別支援教育 上野一彦						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			

## I 研修概要

研修名	事務職員研修（小・中学校）					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。					
受講対象	小学校及び中学校の幹部事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上の者で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者					
開催期日	平成20年1月28日（月）～平成20年2月1日（金）	5日間				
受講人数	計画人数	180人	受講者数	175人	参加率	97.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター					

\*全体計画人数360人、受講者数335人、参加率93.1%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	129	76.3	39	23.1	1	0.6	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国で同じ仕事をしている人たちの、生の声を聞け、とても刺激になった。</li> <li>○研修の方法について事前にやり方を示してくれるとより有意義だったと思う。</li> <li>○地方ではなかなか聞くことができない講師の講義や、素晴らしい実践をしている仲間との交流の機会を与えていただいたことに心から感謝している。</li> <li>○教育改革から組織マネジメントまで大変勉強になった。</li> <li>○もう少し若い層が受けても有意義だと思う。</li> <li>○学校経営に役立てたい。</li> <li>○班別に分かれての協議が大変有意義だった。</li> <li>○視野を広げる、全国の学校の実情を知るなど有意義な研修、交流ができた。</li> <li>○地域で受ける研修と比較して、講師の質が大変高く、大変勉強になった。</li> <li>○事例発表、危機管理についてよい講義を受けることができ、とても成果があった。</li> <li>○具体的な課題により、組織マネジメント研修で得た手法で改善策を考えるという作業が、自校での課題解決策を考えるきっかけとなりそうで、希望のある内容だった。</li> <li>○講義では有意義な情報も多く、グループごとの課題協議では自己の意識改革になった。</li> <li>○学校運営を支える学校事務職員として、特にマネジメント、学校評価での視野が広がった。</li> <li>○事務職員の自分の取り組みや考え方を考えるよい機会となった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校事務職員のキャリアを考慮し、必要とされている知識等を配慮した研修内容とした。</li> <li>○昨今の教育改革の動向を踏まえた事務長の役割について、検討できるような研修の実施。</li> <li>○平成21年度から移行期間に入る新学習指導要領にも対応した研修にする必要があるため、新学習指導要領実施における学校事務職員の役割について検討するコマを入れる必要がある。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 事務職員研修（小・中学校）日程表

1月28日（月）	9:00	10:30	12:00	12:40	13:00	14:30	14:40	15:50	16:00	17:00
	会場	教員研修センター（つくば）		受付	開講式	シオリエンテー	講義・演習① 「教育改革の流れと取組」 文部科学省初等中等教育局 審議官 前川 喜平 目的 教育改革の流れについて理解する。	休	講義・演習② 「財政制度について」 文部科学省初等中等教育局財務課 教育財政室長 勝山 浩司 目的 財政制度の現状及び課題について理解を深める。	休

1月29日（火）	9:00	10:30	11:40	12:40	13:40	14:40	15:40	16:00	17:00
	会場	教員研修センター（つくば）		休	講義・演習④ 「学校評価と運営の改善」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課学校評価室 室長補佐 尻玉 大輔 目的 学校評価の目的と方法について理解を深める。	実務事例発表 「特色ある学校運営の事例を知る」 目的 各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る。	休	課題協議② 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的 教育改革に係る学校運営における学校事務職員の役割を整理する。	

1月30日（水）	9:00	12:00	13:00	13:00	13:00	17:00
	会場	教員研修センター（つくば）		休	講義・演習⑤-2 「学校組織マネジメント」 国立教育政策研究所 主任研究官 加藤 崇英	休

1月31日（木）	9:00	12:00	13:00	13:00	17:00
	会場	教員研修センター（つくば）		休	課題協議③ 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的 課題検討をおとして、検討方法の一例を知るとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する。

2月1日（金）	9:00	11:20	11:30	12:00
	会場	教員研修センター（つくば）		休

2月1日（金）	9:00	11:20	11:30	12:00
	会場	教員研修センター（つくば）		閉講式

## I 研修概要

研 修 名	事務職員研修（高等学校）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。					
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校事務の改善充実の取組の中核的な役割が期待される者					
開 催 期 日	平成20年1月7日（月）～平成20年1月11日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	180 人	受講者数	160 人	参加率	88.9%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

\*全体計画人数360人、受講者数335人、参加率93.1%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	79 51.3	74 48.1	1 0.6	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○自校の課題を含め、班別に時間をかけて協議をできたことは、研修の大きな成果であった。</li> <li>○他県の状況を知ることができてよかった。</li> <li>○文部科学省の先生から直に話を聞くことができたことが貴重であった。</li> <li>○各地区の研修や日頃の職務の中では接することができない内容の講座がとても有意義だった。</li> <li>○今までやってきた仕事を、別の角度(視点)から検討してみようと思う。仕事に向う姿勢として、ターニングポイントになればと思う。</li> <li>○今回の研修で学んだ内容・成果を県に持ち帰り、事務長の職務に活かしたい。</li> <li>○演習関係が、知識習得というよりも課題解決方法を考えるといった点で有益だった。職場に戻ってぜひ活用したい。</li> <li>○研修内容については、講師の講話及び演習の進め方等分りやすく、親切丁寧に指導していただきありがたかった。</li> <li>○これまで自分の事務長としての立場で考え、行動してきたことの振り返りができた。</li> <li>○これまでの自分にはない発想や意識について自覚させられた。また他校(他都道府県)の状況も知ることができ、大いに参考になった。</li> <li>○各地区の研修や、日頃の職務の中では接することができない内容の講座がとても有意義だった。</li> <li>○講義・演習の内容をもう少し詳しく事前に連絡しておく方がスムーズに行くと思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務長のキャリアを考慮し、必要とされている知識等を配慮した研修内容とした。</li> <li>○昨今の教育改革の動向を踏まえた事務長の役割について、検討できるような研修の実施。</li> <li>○平成21年度から移行期間に入る新学習指導要領にも対応した研修にする必要があるため、新学習指導要領実施における学校事務職員の役割について検討するコマを入れる必要がある。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 事務職員研修（高等学校） 日程表

1月7日(月)	13:00	13:10	13:30	15:30	15:40	17:00
会場	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）		13:30	13:40	15:30	17:00
1月8日(火)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30	13:30
1月9日(水)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30	13:30
1月10日(木)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30	13:30
1月11日(金)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30	13:30

  

1月7日(月)	13:30	13:40	15:30	15:40	17:00
会場	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）		15:30	15:40	17:00
1月8日(火)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月9日(水)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月10日(木)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月11日(金)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30

  

1月7日(月)	13:30	13:40	15:30	15:40	17:00
会場	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）		15:30	15:40	17:00
1月8日(火)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月9日(水)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月10日(木)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30
1月11日(金)	9:00	10:00	10:10	11:30	12:30

※課題協議については、原則として以下に分類して実施

1. 特色ある学校の運営（普通科）
2. 特色ある学校の運営（専門学科）
3. 特色ある学校の運営（総合学科）
4. 特色ある学校の運営（特別支援学校）

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割を整理する。

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：研修内容を整理し、学校運営を支える事務長としての役割について理解する。

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割を整理する。

「学校運営を支える事務長の役割」

目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割を整理する。

## I 研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：6ヶ月）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任教長（園）長、教頭及び教諭 ○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者							
開催期日	別紙のとおり（30ページ参照）				別紙のとおり			
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	20	人	参加率	80.0%
開催場所	別紙のとおり（30ページ参照）							

\*全体計画人数100人、受講者数78人、参加率78.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	19	1	0	0	0
		95.0	5.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○2つの語学研修大学の研修内容の差が大きかったように思いました。ある程度内容をそろえた方が参加者のためにはよいのではないかと感じました。</p> <p>○この研修の参加者は正規の学生ではないが、研修先の大学においてテストやプレゼンの評価など、最終的な個人別の評価があるといいのではないかと思います。</p> <p>○外国の教育事情を理解する上で、現地での学校訪問を実施できたことが有意義であった。</p> <p>○この派遣研修の参加者だけのためのプログラムがあり、講師、講義内容の質が非常に高くとても充実していた。</p> <p>○小学生向けの英語授業に関するプログラムがあっても良かったのではないかと。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○帰国報告会、参加者アンケートでの改善点等の意見を派遣先大学に連絡し、プログラム内容等の修正を実施。</p> <p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする</p> <p>○事前研修会の内容を精選し、効率化を図る。（3日→2日）</p> <p>○英語活用能力と英語教授法の効果的・効率的な時間配分の検討</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（30ページ参照）

## I 研修概要

研 修 名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：2ヶ月）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任教（園）長、教頭及び教諭 ○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者							
開 催 期 日	別紙のとおり（30ページ参照）				別紙のとおり			
受 講 人 数	計画人数	50	人	受講者数	46	人	参加率	92.0%
開 催 場 所	別紙のとおり（30ページ参照）							

\*全体計画人数100人、受講者数78人、参加率78.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	37	4	0	0	3
		90.2	9.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○大学の授業では、多くの科目が準備してあり、幅広く学ぶチャンスがありました。反面、その分、1科目の時間が非常に少ないものもあった。2ヶ月しかないので、もう少し絞って厳選した方が深まると思いました。</p> <p>○カリキュラムもとても充実していて、密度の濃い研修でした。先生方も大変熱心で、学ぶべきものが多かったです。大学の職員の方々も含め、プログラムに関わって下さった全ての方が親身になって下さったので、大変ありがたかったです。</p> <p>○プログラムを大きく改善してくれていて、よい流れになっていた。授業も充実しており、学ぶ内容のバランスもよかったです。</p> <p>○英語能力の向上、英語指導の専門的技術、派遣先国の文化社会を知る等、各分野関連づけられた系統的な計画に基づいた素晴らしい授業だった。課題等、時には大変なこともあったが、力となる研修となった。</p> <p>○とても満足しています。ただ授業時数の振り分けが、もう少し英語教授法に多くあってもよかったですのではと思っています。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○帰国報告会、参加者アンケートでの改善点等の意見を派遣先大学に連絡し、プログラム内容等の修正を実施。</p> <p>○「助言指導研修講師となるために」の科目を新設した。</p> <p>○事前研修会の内容を精選し、効率化を図る。（3日→2日）</p> <p>○英語活用能力と英語教授法の効果的・効率的な時間配分の検討</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（30ページ参照）

## I 研修概要

研 修 名	教職員等海外派遣研修（国際理解教育コース：3ヶ月）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任教（園）長、教頭及び教諭 ○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者							
開 催 期 日	別紙のとおり（30ページ参照）				別紙のとおり			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	12	人	参加率	48.0%
開 催 場 所	別紙のとおり（30ページ参照）							

\*全体計画人数100人、受講者数78人、参加率78.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	9	2	1	0	0
		75.0	16.7	8.3	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○学校での研修ばかりではなく、現地のネイティブの方と交流を持ったり、自然体験をしたり、教育についての討論をするなど、様々なプログラムが組み立てられており、大変充実した研修となった。</p> <p>○研修の流れ①現地の教育事情を知る、②語学力を高める、③語学力を生かし教育活動に参加し理解を図る、④研修のまとめを行う、については非常にわかりやすくよかったと思う。</p> <p>○研修先国で3ヶ月間生活し、研修をすることで国際理解とは何かを身をもって体験することができました。</p> <p>○最初のオリエンテーションで模擬授業を行い、その後学校研修へと進んでいけたので実際の授業がスムーズに進み課題解決に役立った。</p> <p>○受け入れ先の担当官が、現地の教育システム、授業の内容、一人一人の課題を考えながらきめ細やかなサポートをしてくれ有意義な研修となった。</p> <p>○研修に必要な英語力と団員の英語力とに差があり、厳しい状況がありました。オリエンテーションの語学研修をもう少し長く行って欲しかったです。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○帰国報告会、参加者アンケートでの改善点等の意見を派遣先機関に連絡し、プログラム内容等の修正を実施。</p> <p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする</p> <p>○事前研修会の内容を精選し、効率化を図る。（3日→2日）</p> <p>○研修プログラム作成について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（30ページ参照）

## 平成19年度 教職員等海外派遣研修

### 英語教育コース：6か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
イギリス	エセックス大学	10	4/23-25 東京八重洲ホール (東京都中央区)	6/14 ~ 12/13	2/18 東京八重洲ホール (東京都中央区)
カナダ	オタワ大学	10		6/21 ~ 12/13	
計		20			

### 英語教育コース：2か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
イギリス	エクセター大学	9	5/14-16 弘済会館 (東京都千代田区)	7/7 ~ 9/3	11/21 オフィス東京 (東京都中央区)
	バーミンガム大学	10		7/20 ~ 9/17	
アメリカ	ワシントン大学	8		7/21 ~ 9/17	
	デンバー大学	9		7/22 ~ 9/18	
オーストラリア	ラ・トローブ大学	10		7/20 ~ 9/16	
計		46			

### 国際理解教育コース：3か月

派遣国	派遣州	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
アメリカ	ウィスコンシン州	6	7/11-13 東京八重洲ホール (東京都中央区)	9/19 ~ 12/16	2/18 東京八重洲ホール (東京都中央区)
オーストラリア	南オーストラリア州	6		9/25 ~ 12/22	
計		12			

## I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）		
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研 修 目 的	<p>学校の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教職員が個々の得意分野や持ち味を活かし、協働して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで学校教育の充実・改善を図ることが求められている。</p> <p>当センターでは、昨年度まで学校組織マネジメント研修について、文部科学省作成のモデルカリキュラムの内容を周知し、その指導方法について解説を行い、指導者の養成を行ってきた。今後第3期中期計画期間に於いては、各地域が指導者を育てる体制を確立し、それぞれの地域の教育施設や地域実態に沿った学校組織マネジメント研修カリキュラムを構築しそれを実施するための研修を新たに企画し提供していく。</p> <p>本年度標記研修は、各地域が自律し、戦略的に学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>		
受 講 対 象	<p>教育委員会事務局・教育事務所等で学校組織マネジメントの普及・充実の中心的立場にある管理主事、指導主事及び都道府県教育センター等で学校組織マネジメント研修の企画実施の中心的立場にある指導主事、研修主事等並びにこれに準ずる者</p> <p>ただし、今後、各地域において自ら指導者となって学校組織マネジメントの普及・充実に向けた活動を担うことを前提とし、かつ次のいずれかの条件を少なくとも1つは満たしていることとする。</p> <p>A:教育委員会事務局内で、学校組織マネジメントの普及・充実に関する企画を担当している者 B:学校組織マネジメント研修の指導経験を有する者 C:現在、教育センター等において学校組織マネジメント研修を企画及び実施する立場にある者</p> <p>※校長・教頭等で、教育委員会が推薦する者、または、上記の受講資格以外(国立大学法人、独立行政法人国立青少年教育振興機構、私立学校等)の教職員のうち、条件Bを満たしているものの参加も認める。</p>		
開 催 期 日	平成19年6月11日（月）～平成19年6月15日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 107 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数220人 受講者数226人 参加率102.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	50	52	0	0	4
		49.0	51.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○受講者のレディネスの状況や、演習の進み具合、理解度に応じ研修内容を変更されるなど、無理のない構成だったと思います。</p> <p>○期待通りの内容であった。特に、演習に際して講師の先生方から多くの示唆をいただき多くのコメントも受けたので、気づきの学習をすることができた。</p> <p>○段階をおって系統的に構成されていて、内容の理解がしやすかった。</p> <p>○演習中心の内容は大変良い。しかし、それぞれの県に帰って研修を担当する方が多いと思うので、テキストを用いて進め方に関わるノウハウやコツ、ポイントにもう少し重点をおいてもらいたかった。(実践演習の中で、それらを学ぶ意図であると思うが。)</p> <p>○学校組織マネジメントに基本形はないということだが、実施した研修会の例を何例かはじめに紹介していただくと、研修会の計画方法、進め方について、具体的なイメージをもって受講できたのではないかと思います。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○「各地域が自立し、戦略的に学校組織マネジメントを推進する」という観点から、研修の企画及び指導者育成に焦点化した。</p> <p>○標記研修の各都道府県におけるキーパーソンに絞り、少数精鋭による研修とするために受講対象者数を440人(3回実施)から220人(2回実施)とした。</p> <p>○モデルカリキュラムの研修内容を実際に学校で活かすための問題解決討議演習を導入した。</p> <p>○各都道府県における学校組織マネジメント研修の実態報告を事前課題とした。</p> <p>○研修会の事例の提供を充実する。</p> <p>○事前課題の様式を工夫する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程

平成19年6月11日(月)～15日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1日目 6月11日 (月)	10:00～10:15 開講式 10:15～10:35 趣旨説明	講義 研修のねらいと進め方・資料説明 講師 木岡 一明 研修における目標の設定 講師 浅野 良一	休憩	講義・演習 組織経営面の マネジメント 講師 浅野良一	休憩	講義・演習 自己成長面の マネジメント 講師 木岡一明	休憩	講義・演習 対人関係面の マネジメント 講師 木岡一明
2日目 6月12日 (火)	1日目の振り返り 質問に係る解説 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	休憩	講義・個人演習 演習の進め方 提出課題に基づく 事例分析 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 榎原禎宏 加藤崇英 雲尾 周	休憩	グループ演習 事例分析の報告・ 協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 榎原禎宏 加藤崇英 雲尾 周	グループ演習 一事例に係る課題の整理と解 決の方向性の検討 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 榎原禎宏 加藤崇英 雲尾 周	講義・演習 業務遂行面の マネジメント 講師 浅野良一
3日目 6月13日 (水)	全体発表 各グループからの報告(質疑を含む) 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周	休憩	休憩	全体発表 各グループからの報告 (午前の続き) 大野裕己(午後から指導 助言者の一人として参加)	休憩	個人演習 各事例の課題整理と解決策の検討 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周 榎原禎宏 加藤崇英	個人演習 各事例の課題整理と解決策に係るグループ協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周 榎原禎宏 加藤崇英	
4日目 6月14日 (木)	全体発表 各グループからの報告(質疑を含む) 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周 大野裕己	休憩	休憩	全体発表 各グループからの報 告(午前の続き)	休憩	グループ演習 各事例の課題整理と解決策に係るグループ協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周 大野裕己	グループ演習 各事例の課題整理と解決策に係るグループ協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾 周 大野裕己	
5日目 6月15日 (金)	個人演習・グループ演習 企画の検討・協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一	休憩	休憩	研修のまとめ 意見交換	閉講式			
講師・指導助言者 木岡 一明 (名城大学大学院主任教授) 浅野 良一 (兵庫教育大学大学院教授) 榎原 禎宏 (山梨大学教授) 雲尾 周 (新潟大学准教授) 加藤 崇英 (国立教育政策研究所高等教育研究部主任研究官) 大野 裕己 (大阪教育大学准教授)	パナリスト 木岡 一明 (名城大学大学院主任教授) 福川 裕史 (神奈川県相模原市立大沢小学校教頭) 松元 伸祥 (京都府総合教育センター指導主事) 千代西尾 祐司 (鳥取県智頭町立智頭中学校教諭) 篠原 真 (神奈川県相模原市教育委員会教育局学校教育指導主事)							

## I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	<p>学校の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教職員が個々の得意分野や持ち味を活かし、協働して学校経営に参画するなど、学校が組織として力を発揮することで学校教育の充実・改善を図ることが求められている。</p> <p>当センターでは、昨年度まで学校組織マネジメント研修について、文部科学省作成のモデルカリキュラムの内容を周知し、その指導方法について解説を行い、指導者の養成を行ってきた。今後第3期中期計画期間に於いては、各地域が指導者を育てる体制を確立し、それぞれの地域の教育施設や地域実態に沿った学校組織マネジメント研修カリキュラムを構築しそれを実施するための研修を新たに企画し提供していく。</p> <p>本年度標記研修は、各地域が自律し、戦略的に学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<p>教育委員会事務局・教育事務所等で学校組織マネジメントの普及・充実の中心的立場にある管理主事、指導主事及び都道府県教育センター等で学校組織マネジメント研修の企画実施の中心的立場にある指導主事、研修主事等並びにこれに準ずる者</p> <p>ただし、今後、各地域において自ら指導者となって学校組織マネジメントの普及・充実に向けた活動を担うことを前提とし、かつ次のいずれかの条件を少なくとも1つは満たしていることとする。</p> <p>A:教育委員会事務局内で、学校組織マネジメントの普及・充実に関する企画を担当している者</p> <p>B:学校組織マネジメント研修の指導経験を有する者</p> <p>C:現在、教育センター等において学校組織マネジメント研修を企画及び実施する立場にある者</p> <p>※校長・教頭等で、教育委員会が推薦する者、または、上記の受講資格以外(国立大学法人、独立行政法人国立青少年教育振興機構、私立学校等)の教職員のうち、条件Bを満たしているものの参加も認める。</p>							
開 催 期 日	平成19年9月10日（月）～平成19年9月14日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	119	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

※計画人数220人 受講者数226人 参加率102.7%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	74	68.5	34	31.5	0	0.0	0	0.0	6

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○受講者のニーズに合わせた柔軟な日程調整・選択性の任意の研修を取り入れてくださったこと・実践的な内容(演習と講義・解説のバランスがよかった)</p> <p>○素晴らしい講師陣に支えられて、グループ演習も満足いくものになりました。要所要所の助言が大変有難かったです。今後学校現場への支援のためのよき経験になりました。</p> <p>○演習中心だったので、実際にやってみることで研修を実施する際の受講者への指示・助言のポイントがよく分かった。演習の有効性も実感できた。</p> <p>○講師の方のアドバイスがまちまちで、混乱する場面が多かった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○「各地域が自立し、戦略的に学校組織マネジメントを推進する」という観点から、研修の企画及び指導者育成に焦点化した。</p> <p>○標記研修の各都道府県におけるキーパーソンに絞り、少数精鋭による研修とするために受講対象者数を440人(3回実施)から220人(2回実施)とした。</p> <p>○モデルカリキュラムの研修内容を実際に学校で活かすための問題解決討議演習を導入した。</p> <p>○各都道府県における学校組織マネジメント研修の実態報告を事前課題とした。</p> <p>○研修会の事例の提供を充実する。</p> <p>○事前課題の様式を工夫する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程

平成19年9月10日(月)～14日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

9:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1日目 9月10日 (月)	10:00～10:15 開講式 10:15～10:35 趣旨説明	講義 研修のねらいと進め方・資料説明 講師 木岡一明 研修における目標の設定 講師 浅野良一	休憩	個人・グループ演習 提出課題に基づく事例分析 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	個人・グループ演習 提出課題の整理 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	グループ演習 事例に係る課題の整理 講師 木岡一明 浅野良一	質問紙記入等
2日目 9月11日 (火)	1日目の振り返り 質問に係る解説 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	個人・グループ演習 提出課題の整理 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	個人・グループ演習 提出課題の整理 講師 木岡一明 浅野良一	個人演習 提出課題の整理 グループ演習 -事例に係る課題の整理と解決の方向性の検討 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾周 大野裕己 神原栞宏 加藤崇英 曾余田順子	休憩	個人演習 提出課題の整理 グループ演習 -事例に係る課題の整理と解決の方向性の検討 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾周 大野裕己 神原栞宏 加藤崇英 曾余田順子	質問紙記入等
3日目 9月12日 (水)	2日目の振り返り	講義 研修企画の基 本 講師 木岡一明 浅野良一	グループ発表 各グループの報告 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 加藤崇英 雲尾周 曾余田順子	グループ演習 -事例の問題分析 講師・指導助言者 加藤崇英 雲尾周 曾余田順子	休憩	グループ演習 -事例の問題分析 (午前の続き) 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	グループ演習 -事例の解決策の検討 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 雲尾周 大野裕己 神原栞宏 加藤崇英 曾余田順子	質問紙記入等
4日目 9月13日 (木)	3日目の振り返り	全体発表 各グループの報告 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 加藤崇英 雲尾周 曾余田順子	グループ発表 各グループの報告 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 加藤崇英 雲尾周 曾余田順子	グループ発表 各グループの報告 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一 加藤崇英 雲尾周 曾余田順子	休憩	講義・演習 組織経営面のマネジメント・自己成長面のマネジメント 対人関係面のマネジメント・業務遂行面のマネジメント 講師 木岡一明 浅野良一	休憩	講義・演習 組織経営面のマネジメント・自己成長面のマネジメント 対人関係面のマネジメント・業務遂行面のマネジメント 講師 木岡一明 浅野良一	質問紙記入等
5日目 9月14日 (金)	4日目の振り返り	個人演習・グループ演習 組織マネジメント研修によって学校の課題 解決を支援するための企画の検討・協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一	個人演習・グループ演習 組織マネジメント研修によって学校の課題 解決を支援するための企画の検討・協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一	個人演習・グループ演習 組織マネジメント研修によって学校の課題 解決を支援するための企画の検討・協議 講師・指導助言者 木岡一明 浅野良一	休憩	午前 の 続き まとめ	研 修 の ま と め	閉 講 式	質問紙記入等

講師・指導助言者  
木岡一明 (名城大学大学院主任教授)  
浅野良一 (兵庫教育大学大学院教授)  
神原栞宏 (山梨大学教授)  
雲尾周 (新潟大学准教授)  
加藤崇英 (国立教育政策研究所高等教育研究部主任研究官)  
大野裕己 (大阪教育大学准教授)  
曾余田浩史 (広島大学大学院准教授)  
曾余田順子 (プロ・コーチ (CPCC) , 福山大学非常勤講師)

パナリスト  
木岡一明 (名城大学大学院主任教授)  
福川裕史 (神奈川県相模原市立大沢小学校教頭)  
松元伸祥 (京都府総合教育センター指導主事)  
中田寛 (鳥取県教育センター指導主事)  
篠原真 (神奈川県相模原市教育委員会教育局学校教育指導主事)

## I 研修概要

研 修 名	指導力向上指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	指導力不足教員の判断基準、指導力の回復・向上のための研修プログラム等について、必要な知識等を修得させ、各都道府県等において指導力不足教員に対して継続的な指導・研修を円滑に実施するため、担当者の資質の向上を図る。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者					
開 催 期 日	平成19年9月10日（月）～平成19年9月12日（水）	3日間				
受 講 人 数	計画人数	110 人	受講者数	132 人	参加率	120.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター					

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	63 51.2	59 48.0	1 0.8	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ別協議を中心にした構成であったので、職場の性格上なかなか他県の情報に触れることができないので、本当に貴重な機会であった。</li> <li>○研究協議等を通じて、指導力不足教員の対応に関する他県の事例等を伺うことができ、また分限等について同様の課題を抱えていることが理解でき、大変有意義であった。中でも京都市教育委員会の取り組み事例は、様々な点で参考になった。</li> <li>○研修、人事管理それぞれの情報交換ができ、また研修と人事管理の交流もでき、大変有意義であった。</li> <li>○情報交換の時間をさらに増やしてほしい。</li> <li>○今年度初めて指導力不足教員の担当となった中で、文科省や他県の担当者と直接情報を交換したり、得たりすることができて大変有意義であった。法改正に伴い指導力不足教員に関する、認定基準等の整備を今後図らなければならないが、これを機にさらに情報交換を進めていきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導が不適切な教員を生み出さないような研修体制のあり方についての協議を取り入れた。</li> <li>○事例発表については、研修班、人事管理班とも京都市に発表を依頼したことで、最終日の両班混合のグループ協議や、研修後、班を越えた話し合いを行う場合に、京都市の事例を基に協議を深めることができた。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度指導力向上指導者養成研修日程表

9月10日 (月)	9:00	10:30	11:00	11:20	12:30	13:30	15:00	17:30
			受付	開講式	(講義) 教員の資質向上について 文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 ※研修、人事管理班 合同	昼 休 み	(研究協議1) 「指導が不適切な教員」の 現状と対応 *グループ別協議 (研究協議1) 人事管理班 「指導が不適切な教員」の 現状と対応 *グループ別協議	(講義・演習) 指導力等に課題のある教員の処遇 と法律問題・争訟問題等の対応 弁護士 松崎 勝 ※研修、人事管理班合同
9月11日 (火)	9:00	9:30	12:00	13:00	13:30	14:30	17:30	
		(研究協議2) 「指導が不適切な教員」に対応に関する事 例と課題解決を目指した研究協議 兵庫県教委 阪神北教育事務所 指導員 尾崎 人子 *グループ別協議 (研究協議2) 人事管理班 「指導が不適切な教員」の対応に関する事 例と課題解決を目指した研究協議 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎活志 *グループ別協議	発表 研究協議2での 協議内容報告 ※研修、人事管理班 合同	講義・演習 教員に対するメンタルヘルスマネジメント 教員研修センター 主任指導主事 遠山 勝 ※研修、人事管理班 合同	(研究協議3) 研修班 課題のある教員に対する研修内容や研修体制 の在り方 *グループ別協議 (研究協議3) 人事管理班 課題のある教員に対する人事管理上の対応と 学校支援体制の在り方 *グループ別協議	岐阜女子大学 教授 服部 晃 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎活志		
9月12日 (水)	9:00	9:30	11:15	12:00	12:15			
		(研究協議4) 研修・人事管理における「指導が不適切な教員」の対応に関する課題と解決を目指した研究協議 ※研修、人事管理班合同の グループ別協議	研修のまとめ 文部科学省 初等中等教育局 視学官 宮崎活志	閉講式				

## I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>児童生徒や保護者の要請、地域の実態等に即した特色ある学校づくりが求められる中、校長や教員には、学校の裁量を拡大した学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、教育課程の開発や経営(カリキュラム・マネジメント)に関する能力を養成することが重要である。</p> <p>このため、カリキュラム・マネジメントに関する意識の向上のための取組、学校における教育課程の自己点検・評価に関する手法等、特色ある教育課程編成を円滑に推進するために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<p>○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修及び「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」の講師等としての活動を行う予定である者</p>							
開 催 期 日	平成19年12月17日（月）～平成20年12月21日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	160	人	受講者数	175	人	参加率	109.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	141	81.5	31	17.9	1
				1	0.6	0
					0	0.0
						1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○中身の濃い、充実した研修であった。カリキュラム・マネジメントについての内容理解が深まった。また同時に、KJ法によるワークショップのやり方など、他の研修会でも活用できそうな方法を学んだことも大きな成果であった。</p> <p>○講師の人選がすばらしく、レベルが高かった。</p> <p>○異校種グループでの演習が設定されていたのが良かった。異校種間の交流ができ、小中連携を意識できた。</p> <p>○講義→演習→講義のサイクルで研修が行われたので、理論を理解し、定着を図るうえで非常に有意義であった。</p> <p>○学校全体のカリキュラムに関する研修だと思っていたら、総合的な学習の時間と校内研修が中心となっていたのが若干残念だった。</p> <p>○全国から様々な立場の受講者が集まり、一つのテーマで研修できたことは大きな宝となった。実はこれからが勝負だと思うので、研修で学んだことをきっかけとして、考え続けていきたい。</p> <p>○学校組織が共通理解を図り、行動のエネルギーを生み出すためにワークショップの手法がいかにも有効であるかよく理解できた。教務主任や研究主任を対象としたカリキュラム・マネジメントを生かす研修を地域で実施していく必要性を感じた。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○演習の時間を長めに設定し、受講者の協議や作業が充実するよう配慮した。</p> <p>○総合的な学習の時間が契機となってカリキュラム・マネジメントの観点が注目された背景も含めて、両者の関係が理解されるよう、カリマネの視点で総合を重点的に扱う時間を設けた(研修3日目)。</p> <p>○2日目、4日目の演習は、資料作成作業を広い演習室で一斉に行うようにする。(プレゼンは分科会形式で行う。)</p> <p>○演習用に、各班1台のパソコンを貸与するところを行いつつ、受講者にパソコンの持参を促し、演習の資料作成作業を効率よく進めることができるようにする。</p> <p>○講師の事前打ち合わせを開催し、各コマについてのセンター側の意図を明確に伝えるようにする。</p> <p>○総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメントの関係をより明確にするために、講義内容やタイトルの工夫を行う。</p> <p>○事例発表などに、学校現場の具体的な情報(目標の立て方やどこをどう工夫すれば取組が前進するのかなど)を盛り込む。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修

日程表

第1日目	10:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00	17:15	
12月17日 (月)	受付	開講式	課題協議1 「今、なぜカリキュラム・マネジメントなのか～基本と学校運営～」 東京学芸大学教授 児島邦宏 ◎目的：カリキュラム・マネジメントとは何かについて理解する。	昼休み	課題協議2 「今、なぜカリキュラム・マネジメントなのか～課題と期待～」 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎浩志 ◎目的：カリキュラム・マネジメントの課題を理解する。	休憩	課題協議3 「今、なぜカリキュラム・マネジメントなのか～点検・評価とその改善～」 京都大学大学院准教授 西岡加名恵 ◎目的：カリキュラムの点検・評価・改善方法について知識・方法を得る。	17:00	17:15	
第2日目	9:00	10:40	11:00	12:00	13:00	14:10	14:20	15:00	15:20	17:00
12月18日 (火)	課題協議4 「学校におけるカリキュラム・マネジメントの実際」 鳴門教育大学教授 村川雅弘	休憩	演習1 「学校におけるカリキュラム・マネジメントの実際」 鳴門教育大学教授 村川雅弘	昼休み	14:10	14:20	15:00	15:20	17:00	
◎目的：教職員の「カリキュラム・マネジメント」を高めるための校内研修・組織づくりについて知識・方法を得る。										
第3日目	9:00	10:00	10:15	11:45	13:00	15:15	15:30	17:00		
12月19日 (水)	課題協議5 「これからの総合的な学習の時間に求められること」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 田村学	事例発表 「総合的な学習の時間としてのカリキュラム開発による学校改革」 藍山立本高等学校教諭 赤山久幸 茨城県立常陸中学校教育課 加茂川くるみ 新潟県上越市立清田小学校教諭 泉真理	演習2 「総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム開発による学校改革」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 田村学	昼休み	13:00	15:15	15:30	17:00		
◎目的：学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、総合的な学習の時間の時間のカリキュラム編成とその適正な運用のためのマネジメントの方法について理解を深める。										
第4日目	9:00	9:15	12:00	13:00	16:00	17:00				
12月20日 (木)	演習の準備 「カリキュラム・マネジメント」 福岡教育大学講師 赤沢早人	演習3-1 「カリキュラム・マネジメントを展開するために」 福岡教育大学講師 赤沢早人	12:00	13:00	16:00	17:00				
◎目的：カリキュラム・マネジメントを展開するために、本研修成果の還元内容・方法について課題をもつ。										
第5日目	9:00	10:30	10:45	12:00	12:15					
12月21日 (金)	演習3-2 「カリキュラム・マネジメントを展開するために」 大阪教育大学副学長 長尾彰夫	演習3-3 「カリキュラム・マネジメントを展開するために」 大阪教育大学副学長 長尾彰夫	演習3-4 「カリキュラム・マネジメントを展開するために」 大阪教育大学副学長 長尾彰夫	12:00	12:15					
◎目的：カリキュラム・マネジメントを展開するための方策について理解を深める。										
部会発表										

## I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	<p>言葉の力は、人間の思考力や感受性を支え、コミュニケーションを円滑に行うための基盤であり、社会人にとって不可欠なものである。また、情報の獲得、思考、表現、課題探求など、学校教育における様々な教育活動の基本となる力でもある。このような言葉の力すなわち国語力の育成は、国語科はもとより各教科等を通じた指導の中で重視されることが求められている。</p> <p>本研修では、児童生徒の国語力向上を図るための内容・方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>		
受 講 対 象	<p>○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>		
開 催 期 日	平成19年9月19日（水）～平成19年9月21日（金）	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 218 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※全体計画人数440人、受講者数464人、参加率105.5%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	159	57	0	0	0
		73.6	26.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○この研修を通して、漠然としていた次の点が明らかに意識できた。①教育改革や教育課程の改善における国語力向上の位置づけ②国語科以外の教科での国語力向上(言語活動の充実)の在り方と意義の推進の具体化③学校全体で取り組む国語力向上(言語活動の充実)の在り方と推進の具体化</p> <p>○様々な校種、行政の方々との共同作業ができて非常に有意義だった。理念的なものだけでなく、実際にワークショップをすることで、より課題が見えてきた。今後もワークショップの充実を望む。</p> <p>○昨年度は、同じ職場の指導主事が本研修に参加してその成果を我々に還元してくれた。今年度は自分が参加することになり、とても楽しみであった。本研修で得たものを還元することが使命であると心得ているので、11月と1月に域内及び全県の指導主事に還元する機会もすでに設けている。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○受講者の立場によって、2つのコースを設定し、それぞれのコースの演習の内容を、参加者に合わせて異なるものとした。</p> <p>○特に「教科等関連付けコース」においては、国語科担当の受講者と他の教科担当の受講者がグループを作り、お互いの知見を提供しあって国語力向上を目指す指導案作りを行った。</p> <p>○研修成果を地域や学校において、すみやかに還元できるよう、児童生徒の国語力向上に取り組むための教員研修を企画・立案する演習を設定した。</p> <p>○模造紙を使用した班の発表方法について検討する。</p> <p>○研修プログラム作成の受講者説明資料について改善を図る。</p> <p>○演習の直前に講師との打合せを実施する。</p> <p>○研修の名称に「言語活動」の文言を入れたサブタイトルを付けたり、実施要項上に明記する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度 国語力向上指導者養成研修〔東部ブロック〕 日程表

1日目	9:30	10:00	10:45	12:00	13:00	13:45	14:00	17:00
9月19日 (水)	開講式	受付	<b>成果発表協議1</b> 「国語力向上に向けた教育の現状と課題について」 文部科学省初等中等教育局 田中孝一 主任視学官	休み つくは国際大学准教授 入部明子	<b>成果発表協議2</b> 「アメリカにおける母語教育」 つくは国際大学准教授 入部明子	<b>教科別部会</b> 「各教科等が担う国語力育成について」 ①国語初等部会 ②国語中等部会 ③社会初等部会 ④社会中等部会 ⑤算教・数学部会 ⑥理科部会 ⑦総合的な学習の時間部会 文部科学省初等中等教育局課程課(総合的な学習の時間担当・生活担当) 田村 学	休 田中 孝一 西辻 正副 加藤 寿朗 青柳 慎一 永田潤一郎 森本 信也	17:00
	<b>事例発表・質疑応答</b> 「国語力向上に向けた指導実践と課題」 さいたま市立大宮東小学校教諭 佐藤 大介 埼玉県立新大宮特別支援学校教諭 三藤あさみ 山梨県立甲府第一高等学校 齋藤 章	休 ◎目的：先進校の取組を知り、国語力向上に役立つ知識・方法を得る。	<b>コース別演習</b> 【学校全体でのカリキュラム作成コース】 ①初等第一分科会：山形大学講師 水戸部修治 ②初等第二分科会：奥州市立衣川小学校長 藤川ひとみ ③中等分科会：横浜国立大学教授 高木 展郎 藤岡町立第二中学校教頭 中島 聖巳	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 ①国語分科会：武庫川女子大学教授 市川 真文 ②社会分科会：鳥稻大学教授 加藤 寿朗 ③算・数分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(算数・数学担当) 長尾 篤志 ④理科分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(理科担当) 日置 光久 ⑤総合的な学習の時間部会：信州大学准教授 藤森 裕治	休 ◎目的：国語力向上を目指した各教科等の指導内容や時期の関連付けについて知識・方法を得る。	休 ◎目的：教科等ごとの特性を生かした国語力育成について理解する。	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 市川 真文 加藤 寿朗 長尾 篤志 日置 光久 藤森 裕治	17:00
9月20日 (木)	<b>事例発表・質疑応答</b> 「国語力向上に向けた指導実践と課題」 さいたま市立大宮東小学校教諭 佐藤 大介 埼玉県立新大宮特別支援学校教諭 三藤あさみ 山梨県立甲府第一高等学校 齋藤 章	休 ◎目的：先進校の取組を知り、国語力向上に役立つ知識・方法を得る。	<b>コース別演習</b> 【学校全体でのカリキュラム作成コース】 ①初等第一分科会：山形大学講師 水戸部修治 ②初等第二分科会：奥州市立衣川小学校長 藤川ひとみ ③中等分科会：横浜国立大学教授 高木 展郎 藤岡町立第二中学校教頭 中島 聖巳	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 ①国語分科会：武庫川女子大学教授 市川 真文 ②社会分科会：鳥稻大学教授 加藤 寿朗 ③算・数分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(算数・数学担当) 長尾 篤志 ④理科分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(理科担当) 日置 光久 ⑤総合的な学習の時間部会：信州大学准教授 藤森 裕治	休 ◎目的：国語力向上を目指した各教科等の指導内容や時期の関連付けについて知識・方法を得る。	休 ◎目的：教科等ごとの特性を生かした国語力育成について理解する。	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 市川 真文 加藤 寿朗 長尾 篤志 日置 光久 藤森 裕治	17:00
	<b>事例発表・質疑応答</b> 「国語力向上に向けた指導実践と課題」 さいたま市立大宮東小学校教諭 佐藤 大介 埼玉県立新大宮特別支援学校教諭 三藤あさみ 山梨県立甲府第一高等学校 齋藤 章	休 ◎目的：先進校の取組を知り、国語力向上に役立つ知識・方法を得る。	<b>コース別演習</b> 【学校全体でのカリキュラム作成コース】 ①初等第一分科会：山形大学講師 水戸部修治 ②初等第二分科会：奥州市立衣川小学校長 藤川ひとみ ③中等分科会：横浜国立大学教授 高木 展郎 藤岡町立第二中学校教頭 中島 聖巳	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 ①国語分科会：武庫川女子大学教授 市川 真文 ②社会分科会：鳥稻大学教授 加藤 寿朗 ③算・数分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(算数・数学担当) 長尾 篤志 ④理科分科会：文部科学省初等中等教育局課程課(理科担当) 日置 光久 ⑤総合的な学習の時間部会：信州大学准教授 藤森 裕治	休 ◎目的：国語力向上を目指した各教科等の指導内容や時期の関連付けについて知識・方法を得る。	休 ◎目的：教科等ごとの特性を生かした国語力育成について理解する。	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 市川 真文 加藤 寿朗 長尾 篤志 日置 光久 藤森 裕治	17:00
9月21日 (金)	<b>研究協議</b> 「学校教育全体における国語力向上の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局課程課(国語担当) 信州大学准教授 西辻 正副 藤森 裕治	休 ◎目的：学校教育全体における国語力向上について理解を深める。	<b>演習</b> 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局課程課(国語担当) 西辻 正副	休 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、学校や地域における研修案をまとめる。	休 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、学校や地域における研修案をまとめる。	休 ◎目的：国語力向上を目指した各教科等の指導内容や時期の関連付けについて知識・方法を得る。	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 市川 真文 加藤 寿朗 長尾 篤志 日置 光久 藤森 裕治	17:00
	<b>研究協議</b> 「学校教育全体における国語力向上の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局課程課(国語担当) 信州大学准教授 西辻 正副 藤森 裕治	休 ◎目的：学校教育全体における国語力向上について理解を深める。	<b>演習</b> 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局課程課(国語担当) 西辻 正副	休 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、学校や地域における研修案をまとめる。	休 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、学校や地域における研修案をまとめる。	休 ◎目的：国語力向上を目指した各教科等の指導内容や時期の関連付けについて知識・方法を得る。	休 ◎目的：国語力向上を学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。 【教科等関連演習コース】 市川 真文 加藤 寿朗 長尾 篤志 日置 光久 藤森 裕治	17:00

## I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>言葉の力は、人間の思考力や感受性を支え、コミュニケーションを円滑に行うための基盤であり、社会人にとって不可欠なものである。また、情報の獲得、思考、表現、課題探求など、学校教育における様々な教育活動の基本となる力でもある。このような言葉の力すなわち国語力の育成は、国語科はもとより各教科等を通じた指導の中で重視されることが求められている。</p> <p>本研修では、児童生徒の国語力向上を図るための内容・方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<p>○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭（特に研修主任等が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>							
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月22日（水）	3日間						
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	246	人	参加率	※
開 催 場 所	国立大学法人熊本大学							

※全体計画人数440人、受講者数464人、参加率105.5%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった		おおむね有意義だった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無回答
人数(人)	割合(%)	156	65.8	81	34.2	0	0.0	0	0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○「国語力」についてのイメージを持つことができた。国語力を向上させることを意識すれば討論型を増やし、自然とコミュニケーションの力も向上されてくるというイメージも持つことができた。</p> <p>○研修を受けたことにより、自分がいかに勉強不足であったかが分かった。</p> <p>○文部科学省の調査官や、第一線で活躍される講師陣から直接講義・指導を受けることができ刺激になった。教育をめぐる最新の情報が得られた。</p> <p>○「国語力」「読解力」「言語力」について整理することができた。</p> <p>○学校教育全体の現状と課題、課題解決に向けての取り組みを知ることができた。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○受講者の立場によって、2つのコースを設定し、それぞれのコースの演習の内容を、参加者に合わせて異なるものとした。</p> <p>○特に「教科等関連付けコース」においては、国語科担当の受講者と他の教科担当の受講者がグループを作り、お互いの知見を提供しあって国語力向上を目指す指導案作りを行った。</p> <p>○研修成果を地域や学校において、すみやかに還元できるよう、児童生徒の国語力向上に取り組むための教員研修を企画・立案する演習を設定した。</p> <p>○模造紙を使用した班の発表方法について検討する。</p> <p>○研修プログラム作成の受講者説明資料について改善を図る。</p> <p>○演習の直前に講師との打合せを実施する。</p> <p>○研修の名称に「言語活動」の文言を入れたサブタイトルを付けたり、実施要項上に明記する。</p> <p>○西部ブロック会場の環境について改善を図る。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、「道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成19年6月4日（月）～平成19年6月8日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	236	人	参加率	107.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	160	70.5	67	29.5	0	0.0	0	0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育について、体験活動、地域との連携、道徳の時間の充実、若者の感性等、様々な角度から勉強させていただき、大変有意義だった。</li> <li>○講師陣が充実しており、豊富な資料を基にした講義はとても有意義だった。</li> <li>○学校経営の視点からの話が多かったので、授業づくりなどに直接結びつく講義・演習を充実させて欲しい。</li> <li>○道徳教育におけるさまざまな貴重なお話をうかがい、大変有意義だった。また、各都道府県の先生方とも親しく交流することができ、今後このネットワークを大切にしながら、更に勉強を続けていきたいと思う。</li> <li>○今回の研修内容を県へ持ち帰り、本校の研修はもちろん、地域の先生方にも成果を普及させるとともに、道徳教育の推進校としての立場をよく自覚し頑張りたい。</li> <li>○道徳教育のあり方、考え方について確認し、さらに理解を深めることができた。また、道徳の時間の授業づくりや様々な課題についての取り組みなど、全国の実践を多く知り、考えを交流できたことは非常に意義深いものであった。</li> <li>○最先端の道徳教育を深く学ぶことができた。実際に指導案をつくり授業を行う中で意見交換し、協議等の内容を確認することができた。</li> <li>○教育現場で、道徳教育の実践を中心的な立場で任されている者にとって、生徒の実態に即した道徳教育の推進、体験活動などについて、身につけておかなければならない知識や方法等を具体的に習得する研修であった。</li> <li>○文部科学省の最新情報を得ることができ、教科調査官から講義をきけることが素晴らしい。</li> <li>○他県の様子について具体的に知ることができ、視野を広げることができた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○模擬授業の分科会数を増やし、1グループの発表時間を延長するとともに、協議時間及び指導助言の時間を確保した。</li> <li>○演習1において、話し合いの焦点を絞ることができるよう工夫するとともに、6名程度のバズグループに分けるなど、話し合いの内容が深まるよう改善する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）  
日程表

第1日目 6月4日 (月)	10:00 受付	10:30 開講式	11:50 昼休み	12:50 課題協議1 「道徳教育の現状と課題 (生命尊重、規範意識を含めて)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄	14:30 休憩	14:45 演習1 「道徳教育の問題点・課題－規範意識の育成－」	17:00
第2日目 6月5日 (火)	9:00 課題協議2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	10:40 休憩	10:55 課題協議3 「聖かなな心を育てるこれからの道徳教育」 兵庫教育大学 小寺正一 特任教授	12:35 昼休み	13:40 シンポジウム 「学校、家庭、地域社会の積極的な連携による道徳教育の推進に向けて」 ＜コーディネーター＞慶応大学准教授 鳥 恒生 ＜シゴシト＞兵庫教育大学特任教授 小寺正一 地域代表 和田真由美 栗東市立治田小学校校長 山本紳裕 小山市立須木中学校校長 柚木崎 俊郎 茨城県立日立北高等学校教諭 澤田 浩一	16:15 演習4-1 「学習指導要領の趣旨を生かした道徳の時間の充実への取組」	17:00
第3日目 6月6日 (水)	9:00 演習2 「学校全体で取り組む道徳教育（体験活動、心のノート）の生かし方検討）」 ＜指導助言者＞ 1班：福岡県教育センター主任指導主事 芳生修一 2班：京都市総合教育センター指導主事 大田和男 4班：和歌山県総合教育センター指導主事 近田浩治 7班：吉野ヶ里町立東背振中学校校長 志藤俊明 10班：石川県教育委員会指導主事 日向正志	10:30 休憩	12:00 昼休み	13:00 演習3 「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 3班：岡山市立西大寺小学校校長 大野光二 6班：東京都野区立第六中学校校長 齋藤直子 9班：東京都板橋区立第八小学校校長 馬場豊久雄 12班：広島市立牛田中学校校長 湯浅克廣	14:50 演習5 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 高1グループ：くらしき作陽大学教授 秋山博正 高3グループ：鳴門教育大学教授 兼松権郎	16:30 演習4-2 「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 ＜指導助言者＞ 第2分科会 大妻女子大学教授 生越 昭二 第3分科会 文教大大学講師 津田知充 第4分科会 文教大大学講師 豊岩正子 第5分科会 元帝京大学教授 牧野禎夫	17:00
第4日目 6月7日 (木)	9:00 演習3 「道徳の時間」について理解を深め、学習指導案作成等に生かす	10:30 休憩	12:00 昼休み	12:50 発表・講評	14:30 休憩	14:45 模範授業・協議 「具体的な道徳教育実践への取組方法等」 ＜指導助言者＞	17:00
第5日目 6月8日 (金)	9:00 課題協議4 「若者の感性」 ＜対談者＞ 財団法人国際教育映像協会理事 富山謙一 シンガーソングライター 大野靖之	10:30 休憩	11:50 昼休み	12:50 課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 谷田増幸	14:20 閉講式		

## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月22日（水）	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 110 人 参加率 ※
開 催 場 所	ウェディングプラザアラスカ（青森県青森市）		

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	67 60.9	42 38.2	1 0.9	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳そのものの意味や現状、課題、指導方法まで取り上げていただき大変勉強になった。</li> <li>○道徳教育の重要性を認識することができた。</li> <li>○全国的な見地からの全体講義、そしてグループごとに実態と課題・解決法について考える討議と、大変勉強になった。</li> <li>○演習形式の研修が多く、それぞれの地域性にあった取組みについて、詳しく情報を得ることができた。</li> <li>○各地域・学校の取組みを知り、再度、本校の取組み、自分自身の授業実践を見つめ直すことができ、課題が見えてきた。</li> <li>○講師の先生及び他校、他県の先生方と様々な情報交換をすることができ有意義であった。</li> <li>○これまで持っていた道徳教育のとらえ方について、再確認することができた。新しいとらえ方、方向性を知ることができた。</li> <li>○国レベルの課題・方向性について知ることができて有意義であった。</li> <li>○研修で得たことを、校内研修会や地区研修会等でさらに先生方に普及していきたい。</li> <li>○研修で学んだことを、今後の指導に役立てたい。</li> <li>○多くの先生方にこのような研修の機会があればと思う。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</li> <li>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度道徳教育指導者養成研修(北海道・東北ブロック)  
日程表

第1日目

8月20日 (月)	9:10	9:45	10:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
	受講	開講式	言葉は協義1 「道徳教育の現状と課題(生命尊重、規範意識を含めて)」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田 増幸	休み	演習1 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」 ◎目的：規範意識の育成のための教育について課題をもつ	休み	言葉は協義2 「豊かな「命のつながり」を育む道徳教育」 麗澤大学 教授 岩佐 信道	◎目的：道徳教育全般について理解を深める

第2日目

8月21日 (火)	9:00	9:45	10:00	12:15	13:25	15:25	15:40	17:00
	協義1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「学校全体で取り組む道徳教育(体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて)」	休み	演習3 「道徳教育の授業づくりと道徳教育の評価」	休み	発表・協義	発表	協義2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

第3日目

8月22日 (水)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15	15:45	16:00	17:00
	演習4 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題をもつ	言葉は協義3 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄	閉講式	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 奈良県立十津川高等学校 教諭 小川 雄二 他1名 (講師・指導助言者) 国立大学法政大学教授 林 泰成	演習2 「学校の教育活動全体を通して行う人間として、人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教育の展開」 材料研究 実践	演習3 「学校としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教育の展開」 国立大学法政大学教授 林 泰成	発表	協義2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）		
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受講対象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開催期日	平成19年8月8日（水）～平成19年8月10日（金）	3日間	
受講人数	計画人数	※ 人	受講者数 131 人 参加率 ※
開催場所	メルパルク長野（長野県長野市）		

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	82 65.6	42 33.6	1 0.8	0 0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○道徳についての最新の情報に触れることができ、これからの教育活動に大変有意義だった。</p> <p>○各県の先生方の優れた実践・学校経営など、学校教育活動全般を含めて情報交換できたことを財産としたい。</p> <p>○今の道徳教育の流れという、全体的な視点や授業での具体的な視点が良くわかり、自分が何をもっと学ばなくてはならないか、課題が明確になった。</p> <p>○調査官の話を直接聞くことができたことが感動である。文章ではない生の声で、最新の情報が提供されたことは有意義であった。</p> <p>○演習2・3で持ち寄った資料の協議テーマを絞る時間が欲しかった。</p> <p>○演習時間が多く、各学校・各都県の違いが分かり大いに参考になった。</p> <p>○こういう研修会に出られる教職員は幸せである。この研修会が直接現場一人一人の教員が聞く機会があれば、もっと日本は変わる、生徒が変われると思う。子どもの存在は何よりも大切であるから、このことを今更ながら強く思い、研修の大切さを再確認した。</p> <p>○先進的な道徳への取組みに触れることができ、とても有意義。現在学校で取り組んでいる活動も意識を変えていけば、道徳性の向上につながると感じた。先生方との意見交換が、今後の学校での教育活動をする際の参考になり、大きな収穫があった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</p> <p>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度道徳教育指導者養成研修(関東・甲信越ブロック)

日程表

第1日目

8月8日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
	開講式	演習1 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習2 「道徳教育の現状と課題ー規範意識の育成ー」	演習3 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	発表・協議	発表・協議	発表・協議
受付	講義1 「道徳教育の現状と課題 (生命尊重、規範意識を含めて)」 文科科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田増幸 ◎目的：全国的な視点から道徳教育の現状と課題について理解する	講義2 「学校全体で取り組む道徳教育 (体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて)」	講義3 「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」	講義4 「豊かな心を育む道徳教育」 昭和女子大学教授 押谷由夫 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	発表・協議	発表・協議	発表・協議

第2日目

8月9日 (木)	9:00	10:00	10:15	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	協義1 「中央研修で学んだこと」と	協義2 「学校全体で取り組む道徳教育 (体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて)」	協義3 「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」	協義4 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	協義5 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	協義6 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	協義7 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	協義8 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」
高部会	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 (講師・指導助言者) 国立大学法人鳴門教育大学教授 兼松健郎	演習1 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	演習4 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習5 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習6 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習7 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」

第3日目

8月10日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15
	演習4 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題をもつ	演習5 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習6 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習7 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」	演習8 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」
高部会	発表・協議	発表・協議	発表・協議	発表・協議	発表・協議

## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成19年8月8日（水）～平成19年8月10日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	111	人	参加率	※
開 催 場 所	石川県地場産業振興センター							

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	55	54	1	0	0
		50.0	49.1	0.9	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の濃い講義と豊富な参考資料をいただき、そして他県の方々との有意義な情報交換ができ有意義な研修となった。</li> <li>○演習でのレポートについての話し合いで、実践例を具体的に教えてもらい参考になりました。</li> <li>○道徳の広範囲な内容を研修でき有意義だった。</li> <li>○ブロック別にこのような内容の濃い研修を、出張しやすい長期休業中に開催してもらうことはとてもありがたい。また、参加された先生方の意識の高さ・向上心等に強い刺激を受けることができた。</li> <li>○道徳教育の考え方や規範意識の考え方、また学校教育の中で道徳心を養う事例・心のノートの扱い、年間計画のあり方等、普段自分が気にも留めずにいたことを改めて教えてもらい、道徳について見直すいい機会となった。</li> <li>○さまざまな学校の取組みの様子や、これからの道徳教育の方向性がわかり、とても有意義な研修であった。</li> <li>○生命尊重・規範意識等、今日的課題を踏まえて、教育基本法の改正と道徳教育が今後担う役割について、認識を深めることができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</li> <li>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 道德教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）

日程表

第1日目 8月8日 (水)	9:45	9:50	10:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
	受付	開講式	結果発表 「道德教育の現状と課題（生命尊重、規範意識を含めて）」 文部科学省初等中等教育局課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する	昼休み	演習1 「道德教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」 文部科学省初等中等教育局課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：規範意識の育成のための教育について課題をもつ	休憩	結果発表 「豊かな心を育む道德授業」 大阪教育大学 教授 藤永 芳純 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	

第2日目 8月9日 (木)	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	協義1 「中央研修で学んだこと」と	演習2 「学校全体で取り組む道德教育（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」	休憩	演習3 「道德の授業づくりと道德教育の評価」	昼休み	休憩	発表・協義	
◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る								
8月9日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	15:45	16:00	17:00
	協義1 「高等学校における人間としての在り方生き方の在り方生き方に関する教育について」	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 熊本県立荒尾高等学校 教諭 本田 雄二 (講師・指導助言者) くらしき作陽大学教授 秋山 博正	休憩	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	発表・協義	
◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る								

第3日目 8月10日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15
	演習4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	休憩	結果発表3 「研修講師となるために」 香川大学 教授 七條 正典 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	

## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（近畿ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成20年1月23日（水）～平成20年1月25日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	119	人	参加率	※
開 催 場 所	ルビノ京都堀川							

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	73	63.5	41	35.7	1	0.9	0	0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な事から、全体計画やカリキュラムについて、教材について、多くの先生方から学ぶことができた。また、色々な立場の方からお話を聞いたり、具体的な話を聞くことができ、とても有意義であった。</li> <li>○現場での問題意識や疑問のいくつかを分かった。また同じように実践をつみ上げておられる先生方と話し合い、大いに学ぶことができた。</li> <li>○規範意識の問題について、もっと焦点を絞った講義が聞きたい。</li> <li>○道徳教育について、全国的な視点から現状や課題等について学んだり、他府県の先生方から多様な考え方や充実した実践等について直接学ぶ機会が今までなく、改めて道徳教育について深く考えることができ、大変充実した研修であった。この学びを今後市の教育へ普及還元に生かし、道徳教育の充実への一歩と勤めていきたい。</li> <li>○敬遠しがちだったり、敷居が高いと思っていた道徳教育だが、現在の教育活動の中でも、意識を変えるだけでやっている部分もあると知れた。</li> <li>○大変多くを学べました。新学習指導要領のポイントはいまいちピンとこなかったが、「授業の中で」「学校の中で」と言った具体的な話が各地域・各立場から聞けて視野が広がるような思いがした。</li> <li>○高校における道徳教育の視点や指導計画の作成方法がわかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</li> <li>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 道德教育指導者養成研修（近畿ブロック）  
基 本 日 程 表

第1日目	9:45	10:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
1月23日 (水)	受講	開講式	講義1 「道德教育の現状と課題(生命尊重、規範意識を含めて)」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する	演習1 「道德教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 ◎目的：規範意識の育成のための教育について課題をもつ	休憩	講義2 「道德授業の「もと」とその方法」 滅徳大学 名誉教授 新宮 弘織 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	
	休	休	休	休	休		

第2日目	9:00	10:00	10:15	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
小・中部会 1月24日 (木)	協義1 「中央研修で学んだこと」 ※小学校A部会 B部会 中学校A部会 B部会 (報告者) 小学校A部会 亀岡市立東別院小学校 教諭 高橋 博博 中学校A部会 福知山市立大江中学校 教諭 大槻 美由記 (指導助言者) 神戸市教育委員会指導課 指導主事 樋口 鉄哉 中学校A部会 大阪府教育委員会小中学校課 指導主事 喜多 一友 ◎目的：テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「学校全体で取り組む道德教育(体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて)」 ※小学校A部会 小学校B部会 中学校A部会 中学校B部会 小学校A部会 京都市立東別院小学校 教諭 高橋 博博 中学校A部会 福知山市立大江中学校 教諭 大槻 美由記 小学校B部会 神戸市教育委員会指導課 指導主事 樋口 鉄哉 中学校B部会 大阪府総合教育センター 研究主事 岡田 敏子 ◎目的：テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休	休	演習3 「道德の授業づくりと道德教育の評価」 ※小学校A部会 小学校B部会 中学校A部会 中学校B部会 小学校B部会 岩出市立上岩出小学校 教諭 菊澤 博子 中学校B部会 京都市丹後教育局 指導主事 川戸 智同行 小学校B部会 京都市総合教育センター 研究主事 岡田 敏子 ◎目的：テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休憩	発表・協義 ※小学校A部会 小学校B部会 中学校A部会 中学校B部会	
	高部会	協義1 「高等学校における人間としての在り方生き方について」 (講師・指導助言者) 宮城県教育庁 主幹 片岡 実 (事例発表者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 (事例発表者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (講師・指導助言者) 宮城県教育庁 主幹 片岡 実 (事例発表者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 (事例発表者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休	休	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 (助言者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 (助言者) 奈良県立十津川高等学校 教諭 小川 雄二 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (助言者) 京都府立久美浜高等学校 教諭 坂東 美紀 (助言者) 奈良県立十津川高等学校 教諭 小川 雄二 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとこの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る

第3日目	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15	
1月25日 (金)	演習4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	協義3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式			

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（中国・四国ブロック）		
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受講対象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者		
開催期日	平成19年8月22日（水）～平成19年8月24日（金）	3日間	
受講人数	計画人数	※ 人	受講者数 140 人 参加率 ※
開催場所	ホテルマリンパレスさぬき		

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

\*道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	62 44.9	75 54.3	1 0.7	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○道徳の現状と課題及び特別活動との関連、校内における推進体制の在り方や授業づくりの視点に立った具体的事例など、道徳教育を様々な角度から学ぶことができ有意義であった。</p> <p>○他県の方との交流により、地域により異なる取組みを知ることができ、今後の実践へのヒントを得ることができた。</p> <p>○道徳教育について理解を深めることができたとともに、各県、地域の実態、またそれぞれのよさを生かした実践や取組みの様子を聞くことができて、大変よかった。</p> <p>○今回できたネットワークを生かして、今後さらに取組みを進めていくとともに、地域の学校に還元していきたい。</p> <p>○道徳に対する捉え方として、今まで行ってきたことの確認とともに、新たな視点を得ることができ、これまでの実践をもう一度見直し、今後の実践につなげていく多くのものをいただいた。本件集で学んだことを学校に持ち帰り、広く伝えていきたい。</p> <p>○演習協議は、個々の取組状況の説明を聞くことが中心で、あまり協議を深めることができなかった。</p> <p>○地方にいるとなかなか入ってこない情報を聞くことができて、とても刺激を受けた。理論と具体例の両方がバランスよくあって良かった。</p> <p>○課題協議の時間も演習の時間も非常に短く感じられた。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</p> <p>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 道徳教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）

日 程 表

第1日目 8月22日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
	受付	開講式	道徳教育の現状と課題（生命尊重、規範意識を含めて） 京都市下京中学校長 柴原弘志 ◎目的：全国的な視点から道徳教育の現状と課題について理解する	休み	演習1 「道徳教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」 ◎目的：規範意識の育成のための教育について課題をもつ	休憩	結果発表 「実践活動や体験活動を通じた道徳教育 特別活動の取組を中心に」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める

第2日目 8月23日 (木)	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	協談 「中央研修で学んだこと」と	演習1 「学校全体で取り組む道徳教育（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 ◎目的：テーマごととの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休憩	演習2 「学校としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 石川県立金沢錦丘高等学校 教諭 瀧 陽一郎 (講師・指導助言者) 国立大学法人鳴門教育大学 教授 兼松 健郎	休み	演習3 「道徳の授業づくりと道徳教育の評価」 ◎目的：道徳教育全般について知識・方法を得る	休憩	発表

第3日目 8月24日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15	15:45	16:00	17:00
	演習4 「道徳教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 (事例発表者) 石川県立金沢錦丘高等学校 教諭 瀧 陽一郎 (講師・指導助言者) 国立大学法人鳴門教育大学 教授 兼松 健郎	演習2 「学校の教育活動全体を通じて「人間としての在り方生き方に関する教育の展開による道徳教育の充実」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の教材研究について」	発表	発表	休憩	協議2 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

## I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、児童生徒の実態に即した道徳教育の推進、社会奉仕体験活動の活用等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成19年10月10日（水）～平成19年10月12日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	179	人	参加率	※
開 催 場 所	熊本テルサ（熊本県熊本市）							

※ブロック別指導者養成研修： 計画人数660人 受講人数790人 参加率119.7%

※道徳教育指導者養成研修 全体計画人数880人、受講者数1,026人、参加率116.6%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	128	73.6	46	26.4	0	0.0	0	0.0	3

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○高等学校における道徳教育の視点、課題をあらためてあたえてもらい大変有意義だった。</p> <p>○高等学校では道徳の授業がないため、日常道徳教育についての意識が不足しており、徳育必要性が分かっても具体的な取組みがなかった。今回の研修でそのヒントを得ることができた。</p> <p>○最新の情勢についてもお話をいただき、今後に生かしていきたいと思いました。演習についても各県の色々な取組みが聞けて、とても参考になりました。貴重な機会をいただき、学校に帰ってから、ぜひ活用するとともに、地域にも広げていきたいと思った。</p> <p>○それぞれの実践では（特に演習1、2）は、広がりすぎて互いの報告を聞き合う時間になってしまった。そこから持ち帰って実践を…と思うものは残念ながら見出せなかった。</p> <p>○演習2・3のような班別協議も有意義ではあるが、講和を聞く機会はほとんどないので、班別協議の時間を短くして、先生方の話をもっと長くしてほしいと思った。</p> <p>○道徳のこれまでのイメージや自分の指導方法を変えるよい機会となった。たくさんの協議・演習を通して、実情や実践内容、また意見交換ができたことは、自分にとって財産となり、今後この研修を生かした教育活動に取り組んでいかなければならないと思った。</p> <p>○文部科学省の最新の道徳教育の情報や、他校の実践が聞けて有意義だった。グループでの話し合いも有効だが、授業のVTR等を見て、どのように指導するか、という具体的な指導方法の話し合い等も行われても良かったのではないと思う。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○高等学校部会の協議内容が高まるよう、助言者を依頼した。</p> <p>○小グループにおける協議内容の焦点化をはかることができるよう、事前課題やグルーピングの工夫をする。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 道德教育指導者養成研修（九州ブロック）  
基本日程表

第1日目 10月10日 (水)	9:45	9:30	12:00	13:10	15:15	15:30	17:00
	受付	開講式	演習1 「道德教育の現状と課題(生命尊重、規範意識を含めて)」 関西学院大学 教授 横山 利弘 ◎目的：全国的な視点から道德教育の現状と課題について理解する	昼休み	演習1 「道德教育の問題点・課題ー規範意識の育成ー」 関西学院大学 教授 横山 利弘 ◎目的：規範意識の育成のための教育について課題をもつ	休憩 「豊かな心を育む道德教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	演習2 「豊かな心を育む道德教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：道德教育全般について理解を深める

第2日目 10月11日 (木)	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	協談1 「中央研修で学んだこと」 ※小学校部会 中学校部会 ※(指導助言者・発表者)小A：鹿本教育事務所 指導主事 鈴木 聖一 中A：宇城教育事務所 指導主事 鈴木 聖一 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	協談2 「学校全体で取り組む道德教育(体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて)」 ※小学校A部会 小学校B部会 小学校C部会 中学校A部会 中学校B部会 ※(指導助言者・発表者)小A：鹿本教育事務所 指導主事 鹿瀬 智 中A：宇城教育事務所 指導主事 鈴木 聖一 中B：阿蘇教育事務所 指導主事 古庄 昌勝 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習3 「道德の授業づくりと道德教育の評価」 ※小学校A部会 小学校B部会 小学校C部会 中学校A部会 中学校B部会 指導主事 平本 亮一 小C：芦北教育事務所 指導主事 福島 恵次	昼休み	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 小学校A部会 小学校B部会 小学校C部会 中学校A部会 中学校B部会 指導主事 平本 亮一 小C：芦北教育事務所 指導主事 福島 恵次	休憩	発表・協談	発表・協談 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育について」

第3日目 10月12日 (金)	9:00	10:00	10:15	12:00	12:15
	協談4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	演習4 「道德教育の充実に向けて」 ◎目的：本研修を振り返り、還元内容・方法等について課題を持つ	演習5 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 小学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 小学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 人間としての在り方生き方に関する教育について

## I 研修概要

研修名	環境教育指導者養成研修（東部ブロック）		
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研修目的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事等に対し、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関連する環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の習得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等がおこなわれるようにする。		
受講対象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開催期日	平成19年10月9日（火）～平成19年10月12日（金）	4日間	
受講人数	計画人数	※ 人	受講者数 62 人 参加率 ※
開催場所	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立磐梯青少年交流の家		

※計画人数 110名 受講者数110名 参加率100.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	47 78.3	13 21.7	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○ESDや環境教育の全体像から具体的実践まで、さまざまな視点から学べたことが非常に有意義であった。</p> <p>○今回の研修会は、内容の面はもちろん、研修の手法としても学ぶべき点が数多くあった。また、校種を超えた交流や情報交換ができたことも大変有意義であったと思う。</p> <p>○環境教育について、学ぶ側面だけでなく伝える側面についての内容もあり、大変内容の濃いものだった。</p> <p>○プログラム内容が豊富すぎて、時間不足により未消化な部分があった。</p> <p>○様々な体験的なトレーニングは分かり易くて良かった。環境教育の指導法や考え方、取りませ方や、その他いろいろ普段の指導場面のみならず、普段の生活に役立つことが多かった。</p> <p>○環境教育の考え方、指導法、そして新しい人間関係、すべてが自分の次のステップにつながるものになった。</p> <p>○今後研修を進める上で今回の内容を十分に活かしたい。</p> <p>○他の研修と違い、“自らが学んでいる”という感じで、学ぶことの楽しさがわかった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○前年度は、この研修の目的や流れが全く分かっていない受講者が多かったため、研修初日に受講者の目的意識をはっきりさせ、何をするのかを説明し、共通認識をもつ時間を設定した。</p> <p>○研修で習得した内容を整理させ、受講者に指導者として何を伝えるのか、どのように伝えるのかを考えさせるため、内容の振り返りとまとめの時間の充実を図った。</p> <p>○次年度は平成21年度から移行期間に入る新学習指導要領にも対応した研修にする必要があるため、全体講義で新学習指導要領について話をし、新学習指導要領に対応した具体的な事例発表を行うことも考えられる。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度 環境教育指導者養成研修 東部ブロック

◎印は講義等の目的

第1日目

10月9日 (火)	12:00	12:30	13:30	14:20	14:30	15:30	16:40	17:30
	受付	開講式	講義 「研修の進め方について」	休憩	講義 「学校教育における環境教育の位置づけ」 国立教育政策研究所 調査官 光久 日置	休憩	全体協議 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 立教大学大学院 教授 阿部 治	
								◎ 環境教育からESDへの国際的な動きについて学び、視野を広げる。

第2日目

10月10日 (水)	8:30	10:20	10:45	12:15	13:15	17:00
		移動・休憩	事例発表 ・小学校分科会 土ヶ谷小学校 ・中学校分科会 横浜市立明健中学校 ・高等学校分科会 郡山市立明健中学校 北海道上川高等学校	昼休み	フィールドワーク ※各会場の特色を活用した演習	
			◎ ESDに対する基本的な理解を踏まえ、わが国の取組について理解を深め、特に学校と外部機関との連携の方策について理解を深める。			

第3日目

10月11日 (木)	8:30	12:15	13:15	17:00
		ワークショップ「体験による学び」 NP0法人 くすの木自然館専務理事 浜本 奈鼓 国立教育政策研究所教育課程研究センター 五島 政一 基礎研究部 総括研究員 山本 幹彦 NP0法人 当別エコロジカルコミュニティー 代表理事 藤 佐竹 美恵子 長崎県立西陵高等学校 教諭 山本 幹彦 福岡県立東葉高等学校 教諭 藤 佐竹 美恵子	昼休み	ワークショップ (続き) 小学校分科会 中学校分科会 高等学校分科会
				◎ 体験学習の手法と学習指導の効果的な展開について学ぶ。

第4日目

10月12日 (金)	8:30	11:15	11:30	12:00
		全体研究協議 「研修のふりかえりとまとめ」 長崎県立西陵高等学校 教諭 藤 修 福岡県立東葉高等学校 教諭 佐竹 美恵子	休憩	閉講式
				◎ 本研修の成果等について協議し、今後の還元方策と環境教育に取り組むために必要な事項を整理する。

## I 研修概要

研 修 名	環境教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事等に対し、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関連する環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の習得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等がおこなわれるようにする。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成19年10月23日（火）～平成19年10月26日（金）	4日間						
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	48	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立吉備青少年自然の家							

※計画人数 110名 受講者数110名 参加率100.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	34	75.6	11	24.4	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○新しい言葉・考え方、理論、そしてそれに基づいた実践。両者がうまく融合したプログラムで、有意義だった。</p> <p>○教育の流れ、身近な自然からのアプローチ、研修企画の手法について多くを学ぶことができた。</p> <p>○盛りだくさんの内容で時間をもっとかけて学びたかった。</p> <p>○国の施政としての環境教育がつかめて、大いに参考になった。体験的環境教育、ESDについてもっと研修を深め、先進校や先進地を実際に見て、担当者と語る事をやってみたいと思った。</p> <p>○世界の動きや文科省の方向性を教えてもらった後、実践に生かせるものを教えてもらったのでよく分かった。実践できそう。</p> <p>○研修会を企画運営する立場となった時、どのようなことが必要か、よい勉強になった。</p> <p>○ESD教育、環境教育についての最先端の情報を数多く提示くださり、大変勉強になった。内容的な面はもちろん、研修の組み立て方についての工夫についても触れていただき、教職員研修を手がけている立場としても大変参考になった。</p> <p>○ワークショップ、フィールドワークの時間をもう少し増やしてほしい。</p> <p>○大変有意義な研修で、知識からワークショップまで幅広く学べた研修だった。</p> <p>○研修内容・方法また自然に囲まれた素晴らしい研修環境、とても有意義な研修だった。今後の教育活動に生かしていきたい。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○前年度は、この研修の目的や流れが全く分かっていない受講者が多かったため、研修初日に受講者の目的意識をはっきりさせ、何をするのかを説明し、共通認識をもつ時間を設定した。</p> <p>○研修で習得した内容を整理させ、受講者に指導者として何を伝えるのか、どのように伝えるのかを考えさせるため、内容の振り返りとまとめの時間の充実を図った。</p> <p>○次年度は平成21年度から移行期間に入る新学習指導要領にも対応した研修にする必要があるため、全体講義で新学習指導要領について話をし、新学習指導要領に対応した具体的な事例発表を行うことも考えられる。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成19年6月11日（月）～平成19年6月26日（火）				16日間			
受 講 人 数	計画人数	110	人	受講者数	124	人	参加率	112.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった		おおむね有意義だった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無回答
人数(人)	割合(%)	108	89.3	13	10.7	0	0.0	0	0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○とても充実した内容で研修全体から学べる統一感のある研修でした。現場でこの内容をしっかり生かすとともに、還元をしっかりとやりたいと思います。</p> <p>○内容も豊富、講師陣もすばらしい。時間が短く感じられた。</p> <p>○計画的に組まれていて、大変有難いと思いました。</p> <p>○内容盛りだくさんで、概ね有意義な研修をすることができましたが、少し消化不良のところもあります。短い期間で難しいかもしれませんが、もう少し内容を精選してもよいかと思ひます。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○課題討議の討議テーマを示し話し合いの充実を図ったり、進行パターンを数種類提示し、受講者が技法を選択しながら討議できるように見直した。</p> <p>○生徒指導に含まれる様々な内容（問題行動、法、学級集団づくり、不登校、いじめ等）について、系統立てて研修が行えるようプログラム等を見直した。</p> <p>○研修内容が重複しないよう、講師との打合せを十分に行う。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

＜日程と講座内容＞

期	日	曜	8:30	9:30	9:45	12:15	13:30	16:00	16:15	17:00	
1	6月11日	月	9:30～9:50 受付	10:00～10:30 開講式	★生徒指導の在り方と規範意識の醸成(10:45～12:15) 初中局児童生徒課長 木岡保雅		★生徒指導と心の教育 関西学院大学教授 横山利弘			オリエンテーション①	
2	6月12日	火	班別協議①	現代社会と子どもの問題行動 放送大学教授 岩永雅也			生徒指導と法 国立教育政策研究所名誉所員 菱村幸彦			オリエンテーション②	
3	6月13日	水	班別協議②	生徒指導と危機管理 群馬県立高崎女子高等学校長 飯野真幸			教師にできる対立問題(暴力行為等)への介入方策 奈良教育大学准教授 池島徳大			オリエンテーション③	
4	6月14日	木	課題討議①	生徒指導事例研究(1) 1班 琉球大学教授 平田幹夫 2班 文教大学教授 柳生和男 3班 昭和学院短期大学教授 松田素行 4班 奈良教育大学准教授 池島徳大 5班 東海女子大学教授 花井正樹 6班 広島国際大学准教授 今村裕			生徒指導事例研究(2) 1班 琉球大学教授 平田幹夫 2班 文教大学教授 柳生和男 3班 昭和学院短期大学教授 松田素行 4班 奈良教育大学准教授 池島徳大 5班 東海女子大学教授 花井正樹 6班 広島国際大学准教授 今村裕			課題討議②	
5	6月15日	金	課題討議③ 8:30～9:00	生徒指導事例研究(3) (9:00～12:15) 1班 琉球大学教授 平田幹夫 2班 文教大学教授 柳生和男 3班 昭和学院短期大学教授 松田素行 4班 奈良教育大学准教授 池島徳大 5班 東海女子大学教授 花井正樹 6班 広島国際大学准教授 今村裕			生徒指導事例研究(4) (~15:15) 1班 琉球大学教授 平田幹夫 2班 文教大学教授 柳生和男 3班 昭和学院短期大学教授 松田素行 4班 奈良教育大学准教授 池島徳大 5班 東海女子大学教授 花井正樹 6班 広島国際大学准教授 今村裕		生徒指導体制の在り方 初中局視学官 森嶋昭伸 (15:30～17:00)		
6	6月16日	土	自由研修				自由研修				
7	6月17日	日	自由研修				自由研修				
8	6月18日	月	研修講師となるための知識・技術①	★望ましい学級集団づくり(ソーシャルスキルトレーニング) 都留文科大学大学院教授 河村茂雄			望ましい学級集団づくり(ソーシャルスキルトレーニング) 都留文科大学大学院教授 河村茂雄			オリエンテーション④	
9	6月19日	火	研修講師となるための知識・技術②	★児童虐待の理解と対応 山梨大学准教授 玉井邦夫			★子どもの変化に対応できるチーム援助の在り方 筑波大学教授 石隈利紀 ☆インターネット、携帯電話等による有害情報への対応と指導 群馬大学教授 下田博次			研修講師となるための知識・技術③	
10	6月20日	水	課題討議④	ブリーフカウニングを生かした問題行動への対応 広島大学准教授 栗原慎二			☆犯罪被害者支援の現状と学校の役割 (社)被害者支援都民センター事務局長 大久保恵美子 ☆非行問題の理解と指導 警視庁少年育成課副参事 石橋昭良			課題討議⑤	
11	6月21日	木	課題討議⑥	不登校への対応(小・中)(1) 東京学芸大学教授 小林正幸 不登校への対応(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井肇			不登校への対応(小・中)(2) 東京学芸大学教授 小林正幸 不登校と訪問相談の実際(高) 開善塾教育相談研究所長 金澤純三			課題討議⑦	
12	6月22日	金	課題討議⑧	★いじめ問題への対応(小・中)(1) 昭和学院短期大学教授 松田素行 いじめ問題への対応(高)(1) 早稲田大学教授 菅野純			いじめ問題への対応(小・中)(2) 昭和学院短期大学教授 松田素行 いじめ問題への対応(高)(2) 早稲田大学教授 菅野純			課題討議⑨	
13	6月23日	土	自由研修				自由研修				
14	6月24日	日	自由研修				自由研修				
15	6月25日	月	課題討議⑩	学校と関係機関との連携を図るための具体策 立川市立立川第一中学校長 嶋崎政男			軽度発達障害と生徒指導 山形県立上山高等養護学校長 花輪敏男			研修講師となるための知識・技術④	
16	6月26日	火	課題討議⑪	教師の協働体制による生徒指導(9:45～11:15) 閉講式 コラムニスト 金平敬之助		11:30～11:50					

☆は選択講義

## I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者））							
開 催 期 日	平成19年10月24（水）～平成19年10月26日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	110	人	受講者数	129	人	参加率	117.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数（人）	割合（%）	75	60.5	49	39.5	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の人権教育の動向について、新たな情報を得ることができた。</li> <li>○実践的な研修を深めることができ有意義だった。人権教育について更に推進していこうという意欲が高まった。</li> <li>○3校の事例発表を通して、「あるべき姿」を示してもらえたことにより、方向性がはっきりした。演習でこれが一層深められ、明確になったこともよかった。</li> <li>○全国の先生と情報交換でき、様々な様子を伺うことができよかったと思う。</li> <li>○これからの人権教育の目指す方向性を改めて確認することができた。</li> <li>○自分で作った資料を発表して、これから活用できる資料をグループ全員で作らうことはとても有意義だった。</li> <li>○演習は有意義であったが、人権教育の個別の課題に対して取組の実践があったらよかったと思う。</li> <li>○日々の研修の中に、この研修で学んだことを活かしていきたいと思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○第三次とりまとめを資料として配布するとともに、講義の中に盛り込んだ。</li> <li>○事例発表を学校種ごとに依頼した。</li> <li>○演習に「学級経営、生徒指導」の部会を追加し、内容を充実させるとともに、グループ発表や3日目の全体発表の方法について改善を図った。</li> <li>○行政説明のよりわかりやすい説明の工夫（概念図を使用して説明するなど）</li> <li>○成果物の還元についてのPRおよび前面に行う。</li> <li>○演習の進め方について、グループリーダーとの前日打合わせを実施する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度人権教育指導者養成研修 日程表

日時：平成19年10月24日(水)～平成19年10月26日(金)

会場：独立行政法人 教員研修センター

第1日目	9:45	10:15	11:15	12:30	13:40	15:30	15:45	17:00
10月24日 (水)	受付	開講式	課題協議 「国内外の動きと学校における人権教育-「人権教育のための世界計画」等-」 筑波大学大学院 教授 福田 弘	休み	事例発表 「人権教育推進上の課題と改善策等について-「人権教育の指導方法等の在り方について(第2次とりまとめ)」を踏まえて-」 大阪府立松原高等学校校長 易 寿也 荒川区立第一中学校校長 蛭田 明 山形県飯豊町立第一小学校校長 布施 清	休憩	事例協議 「人権教育推進上の課題と改善策等について-「人権教育の指導方法等の在り方について(第2次とりまとめ)」を踏まえて-」	
第2日目	9:00	9:20	9:30	12:00	13:00	15:30	15:45	17:00
10月25日 (木)	演習の進め方について 休憩	演習1 「学校における人権教育の改善・充実について-「人権教育の指導方法等の在り方について(第2次とりまとめ)」を踏まえて-」(課題) A 効果的な研修プログラムや啓発資料等について B 学校としての組織的な取組(例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等)と関係機関等との連携について C 人権尊重の理念の理解と体得を旨とした指導内容・方法の工夫について(例：授業案、年間指導計画等) D 人権尊重の精神に立つ学級経営と生徒指導について(例：実践プログラム、指導計画等)	演習2 「学校における人権教育の改善・充実について-「人権教育の指導方法等の在り方について(第2次とりまとめ)」を踏まえて-」(課題) A 効果的な研修プログラムや啓発資料等について B 学校としての組織的な取組(例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等)と関係機関等との連携について C 人権尊重の理念の理解と体得を旨とした指導内容・方法の工夫について(例：授業案、年間指導計画等) D 人権尊重の精神に立つ学級経営と生徒指導について(例：実践プログラム、指導計画等)	休み	演習3 「研修を生かした人権教育の充実を図る方策」 休憩	休憩	グループ発表・協議	
第3日目	9:00	11:30	11:45	12:45	13:00			
10月26日 (金)	全体発表・協議・まとめ(演習の活かし方)	休憩	演習3 「研修を生かした人権教育の充実を図る方策」 休憩	閉講式				
			【指導助言者】 文部科学省初等中等教育局視学官 森嶋 昭伸					

【指導助言者】  
A:大阪府教育委員会市町村教育室児童生徒支援課長 菅原 寛 B(小中):山形県飯豊町立第一小学校校長 布施 清 (高):大阪府立松原高等学校校長 易 寿也  
C:東京都教職員研修センター企画課長 伊東 哲 D:昭和专业短期大学教授 松田 素行

## I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）				
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ				
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリアカウンセリング等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。				
受講対象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者				
開催期日	平成19年6月18日（月）～平成19年6月22日（金）			5日間	
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	122
				人	参加率
					※
開催場所	タイム24（東京都江東区青海2-45）				

※全体計画人数220人、受講者数231人、参加率105.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	85	70.8	35	29.2	0
				0	0.0	0
						0
						2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○自校においてキャリア教育プログラムを作成し、校内研修も実施してきたが、まだまだ勉強不足であったと気づいた。キャリア教育について改めて確認できた事項が多かった。</p> <p>○研修前の事前課題の提出と、それに関して色々な参考文献を読むことが本研修のスタートラインであったと研修後に理解できた。研修手法についても学ぶことができ、演習を取り入れることによって、参加型の研修を行っていく必要を感じた。</p> <p>○研修によって学んだことを、実際に現場において進めていくには様々な課題があり、どのように還元すればよいかはまだ不安がある。</p> <p>○異校種間の交流ができ、小中高の連携を意識できるようになった。また、もっと広い視野でキャリア教育を考えようと思えるようになった。様々な実践を参考にし、自校や地域について考えていきたい。</p> <p>○今回の研修の成果を自分だけのものとせず、内容を十分にまとめ整理して、必ず伝えられるような方策を持ちたい。</p> <p>○研修を受講して、様々な講義や演習がとても勉強になったが、まだまだ自分の理解は足りないと感じる。研修の資料を参考に、さらに勉強していくとともに、キャリア教育の意義を伝えていきたい。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○前年度までは基礎コース（5日間）と応用コース（3日間）に分けて実施していたが、本年度は5日間だけの研修とし、基礎的な内容を割愛して研修全体のレベルアップを図った。</p> <p>○受講者の交通手段に配慮し、東京都内の会場を使用した。</p> <p>○研修を6月中に実施し、学期末の繁忙期に重ならないよう工夫する。</p> <p>○会場環境の改善（広めの全体会場を手配する、映像機器を充実させる等）。</p> <p>○事前提出課題の軽減について工夫し、受講者の負担を減らす。</p> <p>○講師事前打合せ会を開催し、研修の流れや内容について講師への周知の徹底を図り、講義内容の重複などを避ける。</p> <p>○研修で学んだことを地域や学校で還元する方策について、受講者の考えを整理し、方向性を得られるような事例発表や協議について充実を図る。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 キャリア教育指導者養成研修〔東部ブロック〕

日程表

6月18日 (月)	10:00	10:30	12:10	13:15	14:15	14:30	17:00
	開講式 「キャリア教育の意義と背景」 文部科学省生涯学習政策課指導官 宮下和己	受付	昼休み	事例発表 「キャリア教育の実践と課題」 熊本県教育委員会課長 大野寛武	休憩	演習1 「キャリア教育を推進するための課題とその解決方策（連携を中心として）」 東京都教育委員会課長 山本周一 元千歳立大学高等学教科 池田英乘 東京都立中央高等学校 六反園留美 東京都立中央高等学校 遠山純子	休憩 演習1 「キャリア教育を推進するための課題とその解決方策（連携を中心として）」 東京都教育委員会課長 山本周一 元千歳立大学高等学教科 池田英乘 東京都立中央高等学校 六反園留美 東京都立中央高等学校 遠山純子

6月19日 (火)	9:00	10:15	10:30	11:50	13:00	15:15	15:30	17:00
	結果協議1 「企業と学校の連携のために」 (池田 埼玉県生涯学習政策課指導官 野上武利)	休憩	結果協議2 「キャリア教育の中核を担う教員の資質・能力」 専門学級長 三川俊樹	昼休み	演習2 「各学校段階の進路を踏まえたキャリア教育の改善」 文部科学省生涯学習政策課指導官 三川俊樹 埼玉県立中央高等学校 池田英乘 元千歳立大学高等学教科 池田英乘	休憩	結果協議3 「各学校におけるキャリア教育の進め方（キャリア教育の評価を含めて）」 埼玉大学学術部長 藤田晃之	休憩 結果協議3 「各学校におけるキャリア教育の進め方（キャリア教育の評価を含めて）」 埼玉大学学術部長 藤田晃之

6月20日 (水)	9:00	10:20	10:40	12:10	13:10	14:50	15:10	17:00
	結果協議4 「キャリア・カウンセリングの意義と位置づけ」 (池田 埼玉県生涯学習政策課指導官 渡辺三枝子)	休憩	結果協議5・演習 「キャリア・カウンセリングの基礎I」 職大生涯学習課 渡辺三枝子	昼休み	演習3 「コミュニケーションスキルの向上」 元千歳立大学高等学教科 内田雅顕 東京都立中央高等学校 本城博二 東京都立中央高等学校 杉森共和	休憩	演習4 「キャリア・カウンセリングの基礎II」 元千歳立大学高等学教科 内田雅顕 東京都立中央高等学校 本城博二 東京都立中央高等学校 杉森共和	休憩 演習4 「キャリア・カウンセリングの基礎II」 元千歳立大学高等学教科 内田雅顕 東京都立中央高等学校 本城博二 東京都立中央高等学校 杉森共和

6月21日 (木)	9:00	9:50	10:30	12:00	13:00	15:30	15:50	17:00
	結果協議6 「体験活動を中心としたキャリア教育プログラムの開発」 (池田 埼玉県生涯学習政策課指導官 藤川喜久男 元千歳立大学高等学教科 池田英乘)	受付	演習5 「体験活動を中心としたキャリア教育プログラムの開発」 埼玉県生涯学習政策課指導官 藤川喜久男 元千歳立大学高等学教科 池田英乘	昼休み	部会発表	休憩	全体発表・講評	休憩 全体発表・講評

6月22日 (金)	9:00	10:15	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	結果協議7 「キャリア教育を展開するために」 (池田 埼玉県生涯学習政策課指導官 鹿嶋研之助)	休憩	演習6 「キャリア教育の充実のためのプログラムの作成」 埼玉県生涯学習政策課指導官 鹿嶋研之助 元千歳立大学高等学教科 藤田晃之 埼玉県立中央高等学校 藤川喜久男	昼休み	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習政策課指導官 鹿嶋研之助 元千歳立大学高等学教科 藤田晃之 埼玉県立中央高等学校 藤川喜久男	閉講式	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習政策課指導官 鹿嶋研之助 元千歳立大学高等学教科 藤田晃之 埼玉県立中央高等学校 藤川喜久男	閉講式

## I 研修概要

研 修 名	キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリアカウンセリング等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成19年7月2日（月）～平成19年7月6日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	109	人	参加率	※
開 催 場 所	エル・おおさか（大阪府大阪市中央区北浜東3-14）							

※全体計画人数220人、受講者数231人、参加率105.0%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	69	34	1	0	1
		66.3	32.7	1.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○講義や演習が計画的に配置されていたので、段階的に学んでいくことができた。特に1日目の「キャリア教育の意義と背景」については、改めて確認することができ、有意義であった。演習では、受講者自身の「4領域8能力」を高めることにつながったと思う。</p> <p>○他県、他校種の受講者と互いの実践について交流できたことが大変有意義だった。</p> <p>○評価に関する講義をもっと詳しく聞きたかった。</p> <p>○自分自身が経験、知識不足であったが充実した資料を用いた講義、各地域の先生方と行った演習を通して多くのことを学ぶことができた。研修で学んだことを自校に持ち帰って役立てたい。</p> <p>○キャリア教育に関する基本的な理解はほぼできたように感じる。ただ、忙しい学校に帰り、研修成果をどう活かして行くかが課題である。また、自己研修を続けるにしても、指導を受けられる肩が近くにいないのが困る点である。</p> <p>○前半の校種を超えたグループ研修では、改めて小中高の連携、とりわけ中高の連携の重要性を痛感した。後半の校種別グループ研修では、同じ課題をグループで共有する中で、現実的なプログラムを開発することができ、とても充実していた。何か一つでも二つでも、現場に還元していきたい。</p> <p>○18年度までの基礎コースと応用コースが統合されて、タイトなスケジュールの中で、すべての講義・演習等をこなしたという感じがした。特にキャリア教育のプログラム開発のコマはもっと時間がほしかった。コミュニケーションスキルの演習のあとにプログラム開発の演習が組まれていたので、充実した協議や検討ができたように思う。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○前年度までは基礎コース（5日間）と応用コース（3日間）に分けて実施していたが、本年度は5日間だけの研修とし、基礎的な内容を割愛して研修全体のレベルアップを図った。</p> <p>○受講者の交通手段に配慮し、大阪市内の会場を使用した。</p> <p>○研修を6月中に実施し、学期末の繁忙期に重ならないよう工夫する。</p> <p>○会場環境の改善（広めの全体会場を手配する、映像機器を充実させる等）。</p> <p>○事前提出課題の軽減について工夫し、受講者の負担を減らす。</p> <p>○講師事前打ち合せ会を開催し、研修の流れや内容について講師への周知の徹底を図り、講義内容の重複などを避ける。</p> <p>○研修で学んだことを地域や学校で還元する方策について、受講者の考えを整理し、方向性を得られるような事例発表や協議について充実を図る。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度キャリア教育指導者養成研修〔西部ブロック〕

日程表

7月2日 (月)	10:00	10:30	12:10	13:15	14:15	14:30	17:00
	受付	閉講式 「キャリア教育の意義と背景」 文部科学省生涯学習政策局生涯学習課 宮下和己	屋休 み	事例発表 「キャリア教育の実践と課題」 近畿大学 北脇泰久	休憩	演習1 「キャリア教育を推進するための課題とその解決方策（連携を中心として）」 三重県立津高高等学校 西山博 元子県立大羽高等学校 池田英乘 京都府立宇治高等学校 橋本雅子 富山県総合教育センター 谷内口まゆみ	課題発表・講評
	◎目的：本研修の全体像（キャリア教育が求められた背景、国の施策、本研修の意義）について理解する		◎目的：キャリア教育の先進的な取組の中から役立つ知識・方法を得る		◎目的：連携の課題とその解決方策について理解を深める		

7月3日 (火)	9:00	10:15	10:30	11:50	13:00	15:15	15:30	17:00
	成果協談1 「企業と学校の連携のために」 有馬啓祐	休憩	成果協談2 「キャリア教育の中核を担う教員の資質・能力」 近畿大学 三川俊樹	屋休 み	演習2 「各学校段階の進路を踏まえたキャリア教育の改善」 文部科学省生涯学習政策局生涯学習課 宮下和己 近畿大学 三川俊樹 元子県立大羽高等学校 池田英乘	休憩	成果協談3 「各学校におけるキャリア教育の進め方（キャリア教育の評価を含めて）」 福井県 川崎友嗣	
	◎目的：連携に当たり企業が学校に求めることについて理解する		◎目的：キャリア教育の中核を担う教員としての資質・能力や保護者、企業等との調整力等について理解する		◎目的：各学校段階の進路を踏まえたキャリア教育の改善について理解を深める		◎目的：各学校におけるキャリア教育の進め方の進め方について理解する	

7月4日 (水)	9:00	10:20	10:40	12:10	13:10	14:50	15:10	17:00
	成果協談4 「キャリア・カウンセンシングの意義と位置づけ」 渡辺三枝子	休憩	成果協談5・演習 「キャリア・カウンセンシングの基礎Ⅰ」 近畿大学 三川俊樹	屋休 み	演習3 「コミュニケーションスキルの向上」 元子県立大羽高等学校 内田雅頭 京都府立宇治高等学校 本城眞二 京都府立宇治高等学校 杉森共和	休憩	演習4 「キャリア・カウンセンシングの基礎Ⅱ」 元子県立大羽高等学校 内田雅頭 京都府立宇治高等学校 本城眞二 京都府立宇治高等学校 杉森共和	
	◎目的：キャリア・カウンセンシングの意義と位置づけについて理解する		◎目的：キャリア・カウンセンシングに必要な情報提供（適性、職種）と接し方について理解する		◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルについて理解する		◎目的：ビデオ、逐語録を使用した演習をおおとして、キャリア・カウンセンシングの理を解を深める	

7月5日 (木)	9:00	9:50	10:30	12:00	13:00	15:30	15:50	17:00
	成果協談6 「体験活動を中心としたキャリア教育プログラムの開発」 埼玉県立上山中学校 藤川喜久男 元子県立大羽高等学校 池田英乘	休憩	成果協談7 「キャリア教育の充実のためのプログラムの作成」 近畿大学 鹿嶋研之助	屋休 み	演習5 「体験活動を中心としたキャリア教育プログラムの開発」 近畿大学 鹿嶋研之助	部会発表	課題全体発表・講評	
	◎目的：体験活動の意義とそれを自己理解やキャリア教育に生かすことの重要性について理解する		◎目的：各自が還元プログラムをまとめる		◎目的：体験活動とこの事前事後指導を含めた指導計画を作成し、キャリア教育の具体的な計画や実践について理解する		藤川喜久男 池田英乘 丹羽広光 辻本堅二	

7月6日 (金)	9:00	10:15	10:30	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	成果協談7 「キャリア教育を展開するために」 近畿大学 鹿嶋研之助	休憩	成果協談8 「キャリア教育の充実のためのプログラムの作成」 近畿大学 鹿嶋研之助	屋休 み	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省生涯学習政策局生涯学習課 宮下和己 近畿大学 鹿嶋研之助 近畿大学 三川俊樹 元子県立大羽高等学校 池田英乘	閉講式		
	◎目的：本研修成果の還元内容・方策について課題をもつ		◎目的：各自が還元プログラムをまとめる		◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるためのまとめを行う			

## I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	小学校英語教育を担当する指導主事等に対し、小学校における英語活動等国際理解活動を円滑に実施するために研修の意義や役割、校内研修運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、上記目的を踏まえた役割を担う予定である者とする。		
開 催 期 日	平成19年10月15日（月）～平成19年10月19日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 50 人 参加率 ※
開 催 場 所	東北自治研修所		

※全体計画人数220人、受講者数293人、参加率133.2%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	35 71.4	14 28.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○小学校英語についての最新の情報を得ることができ、また、指導の在り方や指導方法について学ぶことができ、大変有意義であった。理論面・実践面のバランスがとれており、良かったと思う。研修施設もすばらしい施設でコンピュータ等も使用でき、快適であった。</p> <p>○意識・意欲の高まる研修でした。ありがとうございました。</p> <p>○大変勉強になる、そして今後の取り組むべき姿が見えた5日間でした。充実した研修でした。理論研修から演習まで、多くのことを学ぶことができました。今後の取組に大きく生かしていきたいと感じています。また、様々なネットワーク作りもできたこと、有意義な5日間でした。職場で、地域で一步が踏み出せるよう力を尽くしていきたいと思います。</p> <p>○小学校段階における外国語活動の基本理念や在り方、また活動の具体・研修のあり方や留意点等の最新の情報に触れることができ、大変刺激になった。</p> <p>○これからの小学校外国語活動に対して、不安等かかえておりましたが、講師の先生方の貴重なご講義や演習等により、少しずつ解消された気がします。大事なものは、各県にもどってから、学校現場に対してどう降ろしていくかということだと思います。関係者との連携を保ちながら県としても頑張りたいと思う。</p> <p>○T・Tが充実していたが、現状は担任単独で授業することが多いと思う。その点もふまえて今後も充実した研修をお願いします。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学習指導要領が告示され、英語ノート等の完成後、より実際の教材に則った内容で研修を構築する。</p> <p>○国際教育課の行政説明は実施しない。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）

日程表

第1日目

10月15日 (月)	12:30 13:00 13:40	15:10 15:30	17:00
	開講式	課題協議1 「小学校における英語活動等国際理解活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	課題協議2 「小学校における英語活動等国際理解活動の基本理念と言語習得理論等」 琉球大学教授 大城 賢

第2日目

10月16日 (火)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議3 「地方自治体における小学校英語研修とその課題・体制の構築」 ※意見交換（課題） 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	課題協議4 「小学校における国際理解活動の在り方」 筑波大学大学院准教授 卯城 祐司	休み	課題協議5 「研修における発音等音声指導の在り方」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	

第3日目

10月17日 (水)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議7 「小学校英語における様々なコミュニケーション活動等」 北海道教育大学教授 髙谷 隆一	事例発表 「学校経営の視点で捉えた小学校英語・校内研修の実際」 岩手県一関市立一関小学校 校長 岩淵 実 教諭 澤野 尚子 ※意見交換（課題）	休み	演習1 「TTTでのコミュニケーション活動1」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 河内長野市立高向小学校教諭	演習2 「TTTでのコミュニケーション活動2」 直山 木綿子 梅本 龍多 ※2グループ	ALT Matthew Hirakawa ALT Joanna Wakefield

第4日目

10月18日 (木)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	演習3 「様々な英語活動1（歌・チャント等の利用）」 京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習4 「様々な英語活動2（国際理解活動等の在り方）」 京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	休み	演習5 「マイクローティング（指導案作成）」 京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習6 「マイクローティング（指導案作成、発表の準備）」 京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	

第5日目

10月19日 (金)	9:00	11:00 11:15	12:30
	発表 A グループ 菅 正隆・直山 木綿子 B グループ 兼重 昇・梅本 龍多	指導助言、講評 菅 正隆・直山 木綿子 兼重 昇・梅本 龍多	閉講式

## I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	小学校英語教育を担当する指導主事等に対し、小学校における英語活動等国際理解活動を円滑に実施するために研修の意義や役割、校内研修運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、上記目的を踏まえた役割を担う予定である者とする。		
開 催 期 日	平成19年10月22日（月）～平成19年10月26日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 60 人 参加率 ※
開 催 場 所	埼玉会館		

※全体計画人数220人、受講者数293人、参加率133.2%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	45 83.3	9 16.7	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○内容が盛り沢山で、終日の研修が一週間ということでハードであったが、その分理念・実践的手法まで詳細に学ぶことができた。勤務校でもさっそく校内研修会で内容を説明し、日々の授業へ反映させていくとともに、地区の推進者の一人として活躍し全体の指導技術を向上させていきたい。</p> <p>○方法論はもちろんのこと、どのように1つ1つの活動を意義づけていくかということがわかった。また国際理解活動としての英語活動のポイント、児童に負担をかけることなくコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度をどのように養成するかについて理解を深めた。</p> <p>○地元にもどり、多くの先生方に伝えるべきこと、考えていただくこと等を知ることができ、さらにしっかりと、しかし、楽しみながら子どもたちや先生方、ALTその他の関係の方達と授業を作り上げていこうという励みとなりました。</p> <p>○小学校英語活動の本質、「コミュニケーションを通してことばの力をつける」ということが、よく理解でき、大変有意義な研修だったと思います。</p> <p>○中学校英語の教授以外の経験がないものにとっては小学校英語のもつ意味、活動のあり方、現場へのアプローチ、指導助言の仕方について理解できた。</p> <p>○全体的によく練られた計画でした。大学教授の内容については精選できるものもあると思います。演習が大変役に立ちました。指導主事も「体験」が必要なことを痛感しました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学習指導要領が告示され、英語ノート等の完成後、より実際の教材に則った内容で研修を構築する。</p> <p>○国際教育課の行政説明は実施しない。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）

日程表

第1日目	10月22日 (月)	9:00	10:30	12:15	13:30	15:10	15:30	17:00
		開講式	受付	開講式	休憩	課題協議2 「小学校における英語活動等国際理解活動の の基本理念と言語習得理論等」	休憩	
		文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	琉球大学教授 大城 賢	琉球大学教授 大城 賢	

第2日目	10月23日 (火)	9:00	10:30	12:15	13:30	15:00	15:20	17:00
		課題協議3 「地方自治体における小学校英語 研修とその課題・体制の構 築」 ※意見交換（課題）	課題協議4 「小学校における国際理解活動の在 り方」	昼 休 み	課題協議5 「研修における発音音声指導の在り方」	休憩	課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」	
		文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	筑波大学院准教授 卯城 祐司		灘中・高等学校 Peter Ferguson	灘中・高等学校 Peter Ferguson	灘中・高等学校 Peter Ferguson	

第3日目	10月24日 (水)	9:00	10:30	12:15	13:30	15:00	15:20	17:00
		課題協議7 「小学校英語における様々なコ ミュニケーション活動等」	事例発表 「学校経営の視点で捉えた小学校英 語・校内研修の実際」	昼 休 み	演習1 「TTTでのコミュニケーション活動1」	休憩	演習2 「TTTでのコミュニケーション活動2」	
		上智大学教授 吉田 研作	さいたま市立常盤小学校校長 後藤 武 ※意見交換（課題）		京都市教育委員会学校指導課指導主事 河内長野市立高向小学校教諭	直山 木綿子 梅本 龍多	ALT Matthew Hirakawa ALT Steven Wong	

第4日目	10月25日 (木)	9:00	10:30	12:15	13:30	15:00	15:20	17:00
		演習3 「様々な英語活動1（歌・チャ ットの利用）」	演習4 「様々な英語活動2（国際理解活動 等の在り方）」	昼 休 み	演習5 「マイクローテイング（指導案作成）」	休憩	演習6 「マイクローテイング（指導案作成、発 表の準備）」	
		兼重昇 ※班単位	京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 嶋門教育大学准教授 兼重昇		京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 嶋門教育大学准教授 兼重昇		京都市教育委員会学校指導課 指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 嶋門教育大学准教授 兼重昇	※班単位

第5日目	10月26日 (金)	9:00	11:00	11:15	12:30			
		発表 Aグループ 蛭田 勲・直山 木綿子 Bグループ 兼重昇・梅本 龍多	指導助言、講評 蛭田 勲・直山 木綿子 兼重昇・梅本 龍多	閉 講 式				

## I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	小学校英語教育を担当する指導主事等に対し、小学校における英語活動等国際理解活動を円滑に実施するために研修の意義や役割、校内研修運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、上記目的を踏まえた役割を担う予定である者とする。		
開 催 期 日	平成19年11月12日（月）～平成19年11月16日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 36 人 参加率 ※
開 催 場 所	ルブラ王山		

※全体計画人数220人、受講者数293人、参加率133.2%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	26 72.2	10 27.8	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○小学校の教員で英語も話せず、授業もした経験もないなかでの参加であった。発声やクラスルームイングリッシュではとても不安になったが、研修を終えてなんとかやれそうな感じが持てた。自分の意識が変わってきたのがわかった。</p> <p>○これまでいろいろな情報が飛び交っていましたが、集中して研修したことにより、外国語活動のイメージが見えてきました。この研修の課題協議をどのようにつないで、本県が目ざす子どもの育成に向けて、どのように研修をおろしていくか、じっくり検討していきたいと思えます。</p> <p>○小学校未経験者、中学英語のみの人、小学校教員では少しずつニーズが違う部分がありますが、いっしょでよかった面、別個に詳しくしてほしい面があるかもしれません。県として研修を行うためにとても有意義なことを学びました。ありがとうございました。</p> <p>○最新の確かな情報が聞けてよかった。来年度の中核教員研修の準備が進められる。指導助言をするときにも大変役立つ視点が得られた。</p> <p>○中学英語とは違った視点で、あらためて小学校の英語活動への理解を深めることができた。特に今後、地域内での研修会等を通して広めていきたい。小学校の先生方の過度な心配や不安をまずとりのぞき、担任でしかできないことを伝えていきたい。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学習指導要領が告示され、英語ノート等の完成後、より実際の教材に則った内容で研修を構築する。</p> <p>○国際教育課の行政説明は実施しない。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）

日程表

第1日目	11月12日 (月)	12:30 13:00 13:40	15:10 15:30	17:00
		受付	開講式	休憩
			<b>課題協議1</b> 「小学校における英語活動等国際理解活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	<b>課題協議2</b> 「小学校における英語活動等国際理解活動の基本理念と言語習得理論等」 琉球大学教授 大城 賢

第2日目	11月13日 (火)	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
		休憩	昼休み	休憩	休憩	休憩
		<b>課題協議3</b> 「地方自治体における小学校英語研修とその課題・体制の構築」 ※意見交換（課題） 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	<b>課題協議4</b> 「小学校における国際理解活動の在り方」 筑波大学大学院准教授 卯城 祐司	<b>課題協議5</b> 「研修における発音等音声指導の在り方」 ブリテイッシュ・カウンシル シニア・ティーチャー・アカデミック Chantal Hemmi	<b>課題協議6</b> 「クラスルームイングリッシュ」 ブリテイッシュ・カウンシル シニア・ティーチャー・アカデミック Chantal Hemmi	

第3日目	11月14日 (水)	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
		休憩	昼休み	休憩	休憩	休憩
		<b>課題協議7</b> 「小学校英語における様々なコミュニケーション活動等」 静岡大学教授 白畑 知彦	<b>事例発表</b> 「学校経営の視点で捉えた小学校英語・校内研修の実践」 大阪府吹田市立千里たけみ小学校長 前田 都 ※意見交換（課題）	<b>演習1</b> 「TTTでのコミュニケーション活動1」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 河内長野市立高向小学校教諭 直山 木綿子 梅本 龍多 ※2グループ	<b>演習2</b> 「TTTでのコミュニケーション活動2」 ALTI Matthew Hirakawa ALTI Steven Wong	

第4日目	11月15日 (木)	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
		休憩	昼休み	休憩	休憩	休憩
		<b>演習3</b> 「様々な英語活動1（歌・チャット等の利用）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 教員研修センター主幹 森 秀夫	<b>演習4</b> 「様々な英語活動2（国際理解活動等の在り方）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 教員研修センター主幹 森 秀夫	<b>演習5</b> 「マイクロティーチング（指導案作成）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 教員研修センター主幹 森 秀夫	<b>演習6</b> 「マイクロティーチング（指導案作成、発表の準備）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 教員研修センター主幹 森 秀夫	

第5日目	11月16日 (金)	9:00	11:00 11:15	12:30		
		発表 Aグループ 蛭田 勲・直山 木綿子 Bグループ 兼重 昇・梅本 龍多	休憩	閉講式		
			<b>指導助言、講評</b> 蛭田 勲・直山 木綿子 兼重 昇・梅本 龍多			

## I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿・中国ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	小学校英語教育を担当する指導主事等に対し、小学校における英語活動等国際理解活動を円滑に実施するために研修の意義や役割、校内研修運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、上記目的を踏まえた役割を担う予定である者とする。		
開 催 期 日	平成19年11月5日（月）～平成19年11月9日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 75 人 参加率 ※
開 催 場 所	大阪府教育センター		

※全体計画人数220人、受講者数293人、参加率133.2%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	60 81.1	14 18.9	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○理論的背景から実践的な面まで、研修成果を還元しやすくする工夫をして頂き、とても有意義でした。</li> <li>○小学校における英語活動等の意識、あり方から具体の授業における指導・助言法まで、体系的に学べたので大変有意義だった。</li> <li>○特に自分たちで指導案をたて、15分間授業をする中で、難しさや、指導の留意点の実感できた。また、指導助言のポイントもとてもよくわかり、今後に生かせる重要な研修となった。来年度以降、先生方の研修会の企画・運営に全力を注ぎたい。</li> <li>○5日間は始まるまでは長いと思ったが、やはり5日間は必要であるし、5日ぐらいいなかったなら達成感がえられないように思った。</li> <li>○4日目の午後の指導案作成につきましては、少し時間が短いように思いました。もう少し時間がございましたら、余裕をもって取り組み、作成できたように思います。他につきましては全て、今後の取組に役立つ、意義のある研修であったと思います。ありがとうございました。</li> <li>○今後、地域で中核教員研修を実施していくための、外国語活動にかかる理論と実践にとどまらず、指導助言のあり方等を視野に入れて研修ができ有意義でした。すばらしい講師の先生方に感謝します。</li> <li>○行政説明・理論・実践等で、より深く理解する事ができた。また、今後当県での研修を、どのように運営すべきか見通しを持てた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領が告示され、英語ノート等の完成後、より実際の教材に則った内容で研修を構築する。</li> <li>○国際教育課の行政説明は実施しない。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿・中国ブロック）

日程表

第1日目

11月5日 (月)	12:30 13:00 13:40	15:10 15:30	17:00
	開講式	課題協議1 「小学校における英語活動等国際理解活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	課題協議2 「小学校における英語活動等国際理解活動の基本理念と言語習得理論等」 琉球大学教授 大城 賢

第2日目

11月6日 (火)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議3 「地方自治体における小学校英語研修とその課題・体制の構築」※意見交換（課題） 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅 正隆	課題協議4 「小学校における国際理解活動の在り方」 筑波大学院准教授 卯城 祐司	昼休み	課題協議5 「研修における発音等音声指導の在り方」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	

第3日目

11月7日 (水)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議7 「小学校英語における様々なコミュニケーション活動等」 兵庫教育大学准教授 吉田 蓮弘	事例発表 「学校経営の視点で捉えた小学校英語・校内研修の実践」 大阪府吹田市立千里たけみ小学校長 前田 都 ※意見交換（課題）	昼休み	演習1 「TTTでのコミュニケーション活動1」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 河内長野市立高向小学校教諭 直山 木綿子 梅本 龍多 ※2グループ	演習2 「TTTでのコミュニケーション活動2」 ALTI Matthew Hirakawa ALTI Michael Crawford	

第4日目

11月8日 (木)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	演習3 「様々な英語活動1（歌・チャント等の利用）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習4 「様々な英語活動2（国際理解活動等の在り方）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	昼休み	演習5 「マイクローティング（指導案作成）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習6 「マイクローティング（指導案作成、発表の準備）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	

第5日目

11月9日 (金)	9:00	11:00 11:15	12:30
発表 Aグループ 菅 正隆・直山 木綿子 Bグループ 兼重 昇・梅本 龍多	指導助言、講評 菅 正隆・直山 木綿子 兼重 昇・梅本 龍多	閉講式	

## I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（四国・九州ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ		
研 修 目 的	小学校英語教育を担当する指導主事等に対し、小学校における英語活動等国際理解活動を円滑に実施するために研修の意義や役割、校内研修運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、上記目的を踏まえた役割を担う予定である者とする。		
開 催 期 日	平成19年12月3日（月）～平成19年12月7日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 72 人 参加率 ※
開 催 場 所	福岡県教育センター		

※全体計画人数220人、受講者数293人、参加率133.2%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	68 94.4	4 5.6	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○とても有意義でした。各講義も大変勉強になりましたが、後半の指導案作成・模擬授業もとても勉強になりました。それと、同じ志の各県の小学校教諭との情報交換できたことが、とてもよかったです。</p> <p>○理論から実践まで幅広い内容で、大変有意義な研修でした。この楽しさを伝えていきたいと思っています。</p> <p>○基本理念から具体的な指導方法、これからの課題までかなり見えてきたことがよかったです。コミュニケーションがありながら研修でき楽しむこともできました。研修のあり方も英語活動の理論・理念が入っています。</p> <p>○小学校英語活動の理念から各具体論まで用意され、その必要性・重要性を深く認識することができました。本当にありがとうございました。</p> <p>○理論から実践的な演習まで網羅された研修で、大変参考になりました。早速英語活動の指導助言をすることになっていますが、すぐに活用させていただけます。そのくらい即効性のある研修内容でした。ありがとうございます。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学習指導要領が告示され、英語ノート等の完成後、より実際の教材に則った内容で研修を構築する。</p> <p>○国際教育課の行政説明は実施しない。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（四国・九州ブロック）

日程表

第1日目

12月3日 (月)	12:30 13:00 13:40	15:10 15:30	17:00
	開講式	課題協議1 「小学校における英語活動等国際理解活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	課題協議2 「小学校における英語活動等国際理解活動の基本概念と言語習得理論等」 琉球大学教授 大城 賢

第2日目

12月4日 (火)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議3 「地方自治体における小学校英語研修とその課題・体制の構築」 ※意見交換（課題） 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 菅正隆	課題協議4 「小学校における国際理解活動の在り方」 筑波大学大学院准教授 卯城 祐司	休み	課題協議5 「研修における発音等音声指導の在り方」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」 灘中・高等学校 Peter Ferguson	

第3日目

12月5日 (水)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	課題協議7 「小学校英語における様々なコミュニケーション活動等」 鹿児島純心大学教授 影浦 攻	事例発表 「学校経営の視点で捉えた小学校英語・校内研修の実際」 大牟田市立明治小学校長 安田 昌則 ※意見交換（課題）	休み	演習1 「TTTでのコミュニケーション活動1」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 河内長野市立高向小学校教諭	演習2 「TTTでのコミュニケーション活動2」 直山 木綿子 梅本 龍多 ALT Matthew Hirakawa ALT Ryan Fujii ※2グループ	

第4日目

12月6日 (木)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	演習3 「様々な英語活動1（歌・チャット等の利用）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習4 「様々な英語活動2（国際理解活動等の在り方）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	休み	演習5 「マイクローティング（指導案作成）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	演習6 「マイクローティング（指導案作成、発表の準備）」 京都市教育委員会学校指導課指導主事 直山 木綿子 河内長野市立高向小学校教諭 梅本 龍多 鳴門教育大学准教授 兼重 昇 ※班単位	

第5日目

12月7日 (金)	9:00	11:00 11:15	12:30
発表 Aグループ 菅正隆・直山 木綿子 Bグループ 蛭田 勲・梅本 龍多	休憩	指導助言、講評 菅正隆・直山 木綿子 蛭田 勲・梅本 龍多	閉講式

## I 研修概要

研 修 名	平成19年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)							
担 当 課 係	教育課題研修課教育課題第二グループ							
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。							
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムに招致した外国語指導助手（ALT）							
開 催 期 日	(4月期) 平成19年4月12日（木）			1日間				
	(A日程) 平成19年7月30日（月）～平成19年7月31日（火）			2日間				
	(B日程) 平成19年8月6日（月）～平成19年8月7日（火）			2日間				
	(第2次) 平成19年8月23日（木）			1日間				
受 講 人 数	4月期計画人数	10	人	受講者数	7	人	参加率	70.0%
	A日程計画人数	1000	人	受講者数	1,041	人	参加率	104.1%
	B日程計画人数	900	人	受講者数	868	人	参加率	96.4%
	第2次計画人数	90	人	受講者数	105	人	参加率	116.7%
開 催 場 所	ルポール麹町（4月期） 京王プラザホテル（A日程、B日程、第2次）							

\*全体計画人数3,900人、受講者数3,722人、参加率95.4%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	175	58.7	113	37.9	9	3.0	1	0.3	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本での生活についてもっと聞きたかった。</li> <li>○他の分科会も参加したかった。</li> <li>○全体を通して情報が多すぎ。2日しかないので要点だけを簡潔に教えてほしい。</li> <li>○チームティーチングのデモンストレーションは大変参考になった。新しいアイデアを得られてよかった。</li> <li>○アクティブな授業に感心した。もっと聞きたかったが時間が足りなかった。</li> <li>○私の役割がなんとなく掴めた。配属先の学校でも真似したい。</li> <li>○授業で使う手作りの小道具がよかった。でも自分ひとりで作るのは大変だとおもう。回りの先生に助けをもらいながら実践したいと思う。</li> <li>○パネルディスカッションでは、日本の教育現状についてイメージを与えてもらった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校英語に関する分科会等の設定にあたっては、クリアと十分話し合い検討し、2日間に分けて小学校のALT用と中学校、高校のALTに分けて実施する等の工夫をした。</li> <li>○高校生のボランティアはあまり成果が見られなかったため、募集しなかった。</li> <li>○パネルディスカッションでは、時間的なことも考慮し、パネラーを厳選し充実させた。</li> <li>○受講者減が予想されるが、分科会は減らしながらも講師や内容の充実を図っていく。</li> <li>○講師の選定にあたっては、早めに候補を絞り、事前打合せを十分行っていく。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション4月期)

文部科学省分科会に係る日程表

平成19年4月12日(木)

会場:ルポール麴町

10:30	<b>開 会</b>
10:40	
11:00	<p>新規来日者自己紹介(中国語6名、韓国語1名)</p> <p><b>【行政説明】</b></p> <p>「日本の学校教育制度と外国語教育の現状等」          講師: 文部科学省初等中等教育局          国際教育課国際理解教育専門官          都築 智</p> <p>「外国語指導助手の役割とティーム・ティーチングの基本的な考え方」          講師: 文部科学省初等中等教育局          国際教育課          池長 嘉晴</p> <p>※必要に応じ、潮田講師・スー助手(中国語)、黒澤講師(韓国語)による逐次通訳</p>
11:55	<b>昼 食</b>
12:50	<p><b>【講 義】</b></p> <p>[中国語]「日本における中国語教育の現状について」          講師・指導助言: 神奈川県立外語短期大学附属高等学校 教諭          潮田 康之</p> <p>指導助言(助手): 神奈川県立外語短期大学附属高等学校 非常勤講師          スー・ミンリ</p> <p>[韓国語]「日本における韓国語教育の現状について」          講師・指導助言: 関東国際高等学校 教諭          黒澤 真爾</p>
14:00	<p><b>【指導助言等】</b></p> <p>「先輩ALTからの体験談・指導助言」 [中国語] 指導助言者: 陳 芳(先輩ALT)</p> <p>・授業、教材、JTLとのティーム・ティーチング [韓国語] 指導助言者: 鄭 然旭(先輩ALT)</p> <p>・JTL等の教職員との人間関係、生徒との関係</p> <p>・学校における授業以外の活動状況等</p> <p>・学校以外の地域社会との関わり方及び活動状況</p> <p>・日本の生活習慣(生活一般)等</p> <p>・質疑応答</p> <p>・意見交換</p> <p>※必要に応じ、適宜潮田講師、スー助手、黒澤講師も指導助言等を行う。</p>
15:00	<b>休 憩</b>
15:10	<p><b>CIR・ALT合同分科会</b></p> <p>「国別ミーティング」 [中国語] 指導助言者: 陳 芳(先輩ALT)</p> <p>・CIRとALTが合同で、国別に意見交換 [韓国語] 指導助言者: 鄭 然旭(先輩ALT)</p> <p>※必要に応じ、適宜潮田講師、スー助手、黒澤講師も指導助言等を行う。</p>
16:10	

平成19年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーションAB) スケジュール

A日程	B日程	時間	内容					
7/28(土)	8/4(土)		TOA集合 受け入れ準備					
7/29(日)	8/5(日)		新規招致者来日、ホテルチェックイン					
7/30(月)	8/6(月)	10:00 - 11:00	団体別ミーティング ※取りまとめ団体ごとにTOAが各JETの配置先や職務内容等を説明		TOA			
		11:00 - 11:15	開会式		司会:PC			
		11:15 - 11:40	JETプログラム概要説明		PC			
		11:40 - 11:45	AJET紹介		AJET代表			
		12:00 - 13:00	昼食					
				<b>ALT</b>		<b>CIR</b>		
		13:00 - 13:30	文部科学省基調講演 「日本における英語教育」	MEXT	13:00 - 13:05	日程説明	PC	
		13:30 - 13:40	休憩		13:10 - 13:40	総務省基調講演	PC,TOA	
		13:40 - 15:00	パネルプレゼンテーション 「日本の英語教育とALTの役割について」	MEXT	13:40 - 13:50	休憩		
		15:40 - 16:25	小学校訪問活動① 模擬授業 ※中・高配置予定ALT対象	MEXT	13:50 - 14:40	職場別ミーティング		
		16:35 - 17:20	小学校訪問活動② TT模擬演習 ※中・高配置予定ALT対象		14:45 - 15:30	CIR模擬演習		
15:15 - 18:00	PA就任予定者会議、仏語フォーラム(A日程)、独語フォーラム(B日程)、AJET分科会、AJETバザール等			PC,TOA, AJET				
18:30 - 20:00	JETプログラム歓迎レセプション			司会:PC				
7/31(火)	8/7(火)			<b>ALT</b>		<b>CIR</b>		
		09:00 - 10:20	分科会①(小学校1、中学校4、高等学校4、フランス語1)模擬授業 ※フランス語はA日程のみ	MEXT	09:00 - 10:00	CIR分科会1		
		10:20 - 10:35	休憩		10:10 - 11:00	CIR分科会2		
		10:35 - 11:55	分科会①(小学校1、中学校4、高等学校4、フランス語1)TT模擬演習 ※フランス語はA日程のみ		11:10 - 12:00	CIR分科会3		
		12:00 - 13:00	昼食					
		13:15 - 14:00	CLAIR分科会及び県別ミーティング				PC,TOA, 外部講師(2名)	
		14:15 - 15:00	CLAIR分科会及び県別ミーティング					
		15:15 - 16:00	CLAIR分科会及び県別ミーティング					
		16:15 - 17:00	CLAIR分科会及び県別ミーティング					
		18:00 - 20:00	取団への出発準備(荷物の詰め替え、発送等)					
夜	大使館歓迎イベント(実施大使館等調整中)							
8/1(水)	8/8(水)	各取団による	取りまとめ団体へ出発					

平成19年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション2次) スケジュール

	時間	内容			
8/21 (火)	16:00	TOA集合 受け入れ準備			
8/22 (水)	随時	新規招致者来日、ホテルチェックイン			
8/23 (木)	10:00-10:15	開会式			
		ALT	CIR		SEA
	10:20-10:50	日程説明等	10:20-10:50	日程説明等	10:30-10:50 全体説明
					10:50-11:10 参加者自己紹介
	10:50-12:20	TOAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ	10:50-12:30	TOAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ	11:10-11:30 アイスブレイク
					11:30-12:00 SEAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ1
	12:20-12:30	AJET紹介			12:00-12:30 SEAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ2
	12:30-13:30	昼食			
	13:30-13:45	文部科学省歓迎挨拶	13:30-14:15	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝと ｺﾓﾆｹｰｼﾞｵﾝ	13:30-13:45 アイスブレイク
	13:45-14:15	基調講演			13:45-14:15 SEAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ3
			14:15-14:30	休憩	14:15-14:45 SEAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ4
	14:15-14:25	休憩	14:30-15:15	職場別ミーティング	14:45-15:00 AJET紹介/質疑応答
					15:00-15:15 休憩
	14:25-15:25	ワークショップ I	15:15-16:15	CIRロールプレイ	15:15-15:45 SEAﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼﾞｵﾝ5
	15:25-15:35	休憩			15:45-16:15 自由討論/質疑応答
15:35-16:30	ワークショップ II	16:15-16:30	AJET紹介/質疑応答	16:15-16:40 休憩	
16:40-17:10	取りまとめ団体別ミーティング				
18:30-20:00	JETプログラム歓迎レセプション				
8/24 (金)	取団別	取りまとめ団体へ出発			

## I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修（外国語指導助手再契約予定者研修会）[A日程]				
担 当 課 係	教育課題研修課教育課題第二グループ				
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。				
受 講 対 象	平成19年度に再契約を予定している外国語指導助手（ALT）のうち、再契約が1回目の者とする。				
開 催 期 日	平成19年5月28日（月）～5月29日（火）			2日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	823人
				参加率	※
開 催 場 所	神戸ポートピアホテル				

\*全体計画人数3,900人、受講者数3,722人、参加率95.4%

※計画人数(AB日程合計) 1900人 受講者数 1701人 参加率 89.5%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	128	312	44	6	0
		26.1	63.7	9.0	1.2	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○本研修で得たものを授業で活かしたいが、日本人担当者の理解が得られるか不安。本研修会に日本人担当者や各団体の代表者の参加も求めたい。</li> <li>○ティームティーチングは具体的な授業のイメージが湧いてきてとても参考になった。</li> <li>○日本での生活に不安があったが、サポートが充実していることがわかり少し不安が安らいだ。</li> <li>○講師のアイデアに感心した。</li> <li>○特別支援学校で教えるALTに対するセッションがほしかった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○再契約予定者研修会と都道府県主催の中間研修との内容上の差がないため、それぞれの位置づけの明確化を図った。</li> <li>○外部講師を本格的に導入し、より専門的な研修の場と位置づけた。</li> <li>○従来の講義形式中心のプログラムを見直し、セミナー形式の参加型プログラムを多く取り入れることによって、参加者のモチベーションをより高められるようにした。</li> <li>○ALTのためのセミナーの講師選定にあたっては、今年度評価の高かった講師を中心に、早めに講師を依頼し事前の打合せを十分に行う。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成19年度外国語指導助手研修(再契約A日程) スケジュール

会 場 神戸ポートピアホテル

対象者 西日本のALT

5月28日(月)		
12:00 - 13:30	受付	偕楽 (本館B1階)
14:00 - 14:15	開会式	
14:15 - 14:30	日程説明 事務連絡	ポートピアホール (南館1階)
14:30 - 15:30	文科省 説明	
15:45 - 16:45	ステイブ・ウォーナー (財)自治体国際化協会プログラムコーディネーター	9つのテーマから 参加者が任意選択
17:00 - 18:00	文部科学省初等中等教育局国際教育課 国際理解教育専門官 都築 智	
18:15 - 19:15	クリア ALTワークショップ①	
18:15 - 19:15	クリア ALTワークショップ②	
18:15 - 19:15	クリアコーナー (任意参加)	生田 (本館B1階)
18:15 - 20:15	(財)自治体国際化協会 プログラムコーディネーター	
18:15 - 20:15	AJET、PSGミーティング (任意参加)	北野、菊水 (本館B1階)

5月29日(火)		
07:00 - 08:30	朝食	大輪田 (南館1階)
09:30 - 10:40	文科省 ALTプレゼンテーション	ポートピアホール (南館1階)
11:00 - 12:30	「職場の人間関係について」 東海大学教育開発研究所 専任講師ピーター コリンズ	
12:30 - 13:30	クリア ALTグループディスカッション	9つのテーマから 参加者が任意選択
14:00 - 17:00	昼食	大輪田 (南館1階)
14:00 - 17:00	文科省 ALTセミナー	9つのテーマから 参加者が任意選択

## I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修（外国語指導助手再契約予定者研修会）[B日程]				
担 当 課 係	教育課題研修課教育課題第二グループ				
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手（ALT）に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。				
受 講 対 象	平成19年度に再契約を予定している外国語指導助手（ALT）のうち、再契約が1回目の者とする				
開 催 期 日	平成19年6月 4日（月）～6月 5日（火）	2日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	878人 参加率 ※
開 催 場 所	京王プラザホテル				

\*全体計画人数3,900人、受講者数3,722人、参加率95.4%

※計画人数(AB日程合計) 1900人 受講者数 1701人 参加率 89.5%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	127 30.0	261 61.6	33 7.8	3 0.7	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○本研修で得たものを授業で活かしたいが、日本人担当者の理解が得られるか不安。本研修会に日本人担当者や各団体の代表者の参加も求めたい。</p> <p>○ティームティーチングは具体的な授業のイメージが湧いてきてとても参考になった。</p> <p>○日本での生活に不安があったが、サポートが充実していることがわかり少し不安が安らいだ。</p> <p>○講師のアイデアに感心した。</p> <p>○特別支援学校で教えるALTに対するセッションがほしかった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○再契約予定者研修会と都道府県主催の中間研修との内容上の差がないため、それぞれの位置づけの明確化を図った。</p> <p>○外部講師を本格的に導入し、より専門的な研修の場と位置づけた。</p> <p>○従来の講義形式中心のプログラムを見直し、セミナー形式の参加型プログラムを多く取り入れることによって、参加者のモチベーションをより高められるようにした。</p> <p>○ALTのためのセミナーの講師選定にあたっては、今年度評価の高かった講師を中心に、早めに講師を依頼し事前の打合せを十分に行う。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成19年度外国語指導助手研修(再契約B日程) スケジュール

会 場 京王プラザホテル  
対象者 東日本のALT

6月4日(月)		
12:00 - 13:30	受付	花 (本館4階)
14:00 - 14:15	開会式	コンコर्ट・ホールルーム (本館5階)
14:15 - 14:30	日程説明 事務連絡 ジェイソン・ボニツキー (財)自治体国際化協会プログラムコーディネーター	
14:30 - 15:30	文科省 説明 文部科学省初等中等教育局国際教育課 国際理解教育専門官 都築 智	
15:45 - 16:45	クレア ALTワークショップ①	9つのテーマから 参加者が任意選択
17:00 - 18:00	クレア ALTワークショップ②	
18:00 - 19:00	クレアコーナー (任意参加) (財)自治体国際化協会 プログラムコーディネーター	花 (本館4階)

6月5日(火)		
07:00 - 08:30	朝食	コンコर्ट (本館5階) 扇 (南館4階)
09:30 - 10:40	文科省 ALTプレゼンテーション 「職場の人間関係について」 東海大学教育開発研究所 専任講師ピーター コリンズ	花 (本館4階)
11:00 - 12:30	クレア ALTグループディスカッション	9つのテーマから 参加者が任意選択
12:30 - 13:30	昼食	コンコर्ट (本館5階) 扇 (南館4階)
14:00 - 17:00	文科省 ALTセミナー	9つのテーマから 参加者が任意選択
18:00 - 20:00	AJET、国別、地域別ミーティング (任意参加)	

## I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 【管理者用コース】					
担 当 課 係	教育課題研修課教育課題第二グループ					
研 修 目 的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を還元できる者。					
開 催 期 日	平成19年8月27日（月）～平成19年8月28日（火）				2日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	58	人 参加率 ※
開 催 場 所	ホテルフロラシオン青山					

※【日本語指導者用コース含】計画人数 110人 受講者数 189人 参加率 171.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	30	25	0	0	0
		54.5	45.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○全国レベルでの情報を得たことは大変有意義だった。自分の市の状態を客観的につかんで、自分が行政の立場から具体的な戦略を考えることが必要であることがわかった。</p> <p>○管理職研修を含めて、教師の意識を高め指針を示すこのような研修は大変有意義だと思う。今後とも継続を望む。ここで学習したことの還元・普及を、他の参加者とともに行っていきたい。</p> <p>○講義の時間が多かった。それぞれの話は大変よかったが、こういった研修会では情報交換や演習などをもっと取り入れていただきたい。</p> <p>○外国人児童生徒の文化的背景について、もっと他の国のことも理解したい。</p> <p>○班の構成が「市」「事務所」「県」の指導主事であり、直面している実態も大きく異なるため、話し合いがなかなか深まらなかった。</p> <p>○外国人の文化的背景では、中国とブラジルの両方の話を聞きたかった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○班別演習は、事前調査により、少数在籍、多数在籍校や集住、分散地区等、受講者の地域の実態を把握し、班編成を行った。</p> <p>○班別演習1は単なる情報交換だけで終わるのではなく、課題解決のための指導・助言できる専門家を講師として導入し、課題解決の糸口を模索できるようにした。</p> <p>○初日の演習と第2日の演習を連動させ、協議をより深められるようにした。</p> <p>○班別演習1は、日本語指導者コースと共通コースであったが、協議内容は異なるので、最初からコース毎に分けて実施する。</p> <p>○班別演習1と2の講師が一部異なっていたため、より効果的な演習とするため同じ講師とする。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修  
日 程 表

第1日目

8月27日 (月)	10:00	10:30	11:00	12:00	13:15	14:45	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	両コース共通 <b>課題協議1</b> 「外国人児童生徒教育全般 ～外国人児童生徒の受入れ体 制～」  東京学芸大学国際教育センター 教授 佐藤 郡衛	昼 食	両コース共通 <b>課題協議2</b> 「外国人児童生徒の文化的背景について」  ・ブラジルコース 上智大学 非常勤講師 コウ・ドス・サントス・ジニア ・中国コース 国際文化フォーラム 楊 鳳秋	休 憩	両コース共通 <b>班別演習1</b> 「各地域における取組についての情報交 換」  国立大学法人東京学芸大学 准教授 臼井 智美 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	

第2日目

8月28日 (火)	9:00	11:30	12:45	14:15	14:30	16:30	17:00
	両コース共通 <b>課題協議3</b> 「子どもの第2言語の習得について」  トロント大学  名誉教授 中島和子	管理者用コース <b>課題協議4</b> 「受入れ体制の整備について～管理者としての 役割～」  集住：豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 分散：兵庫県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 樋口 正和	管理者用コース <b>班別演習2</b> 「関係機関と連携した外国人児童生徒 受入れ体制の構築について」  国立大学法人東京学芸大学 准教授 臼井 智美 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 兵庫県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 樋口 正和 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	日本語指導者用コース <b>課題協議4</b> 「日本語指導とは何か（語彙、文法指導等）」 東京外国語大学 教授 小林 幸江 教科指導実践コース <b>課題協議4</b> 「JSLカリキュラムとは何か～基本的考え 方～（小学校編と中学校編）」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久	日本語指導者用コース <b>班別演習2</b> 「年少者の日本語指導で、工夫が必要なもの」 波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久  <b>教科指導実践コース</b> <b>班別演習2</b> 「JSLカリキュラムについて～基本的考え方～」  国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫	閉 講 式	

第3日目

8月29日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:15	17:00
	日本語初期指導コース <b>課題協議6</b> 「指導案作成と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立立筈小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	休 憩	<b>班別演習2</b> 「指導案作成1と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立立筈小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	昼 食	<b>班別演習3</b> 「指導案作成2と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立立筈小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	<b>班別演習4</b> 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成2）」  国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫

第4日目

8月30日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:15	14:45	15:00	15:30
	日本語初期指導コース <b>課題協議7</b> 「JSLカリキュラムとは何か ～基本的考え方～（小学校編と 中学校編）」 波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久	休 憩	日本語指導者両コース共通 <b>研究協議1</b> 「日本語指導のための教材について」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中 学 校 教諭 赤羽 寿夫	昼 食	日本語指導者両コース共通 <b>研究協議2</b> 質疑応答  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子 国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫	休 憩	閉 講 式	備 用

## I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 【日本語指導者用コース】		
担 当 課 係	教育課題研修課教育課題第二グループ		
研 修 目 的	国際化の進展に伴い、外国人児童生徒の増加及び在留の長期化により帰国児童生徒においても日本語指導が必要な児童生徒が増加していることを踏まえ、学校全体での外国人児童生徒の受入れ、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を還元できる者。		
開 催 期 日	平成19年8月27日（月）～平成19年8月30日（木）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 131 人 参加率 ※
開 催 場 所	ホテルフロラシオン青山		

※【管理者用コース含】計画人数 110人 受講者数 189人 参加率171.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	80 63.0	45 35.4	2 1.6	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語指導に対して、基本的な知識から実践する際の注意事項、また教科指導まで広い範囲で学習できてよかった。</li> <li>○外国人児童生徒の動向等、今後についての準備ができる情報がありがたかった。</li> <li>○指導法・教材等の情報・知識を身につけ、指導案の書き方など具体的に演習することができ、有意義な4日間だった。</li> <li>○全国の他地域の日本語指導の現状・様子がわかり良かった。指導の制度・体制・方式なども様々な形があり、自地域のシステムの改善へのヒントが得られた。</li> <li>○指導案を作り上げる中で、JSLカリキュラムについて具体的に理解することができた。理論を学習した上で、他校の先生方と交流しあいながら情報交換や授業づくりができたのは有意義だった。</li> <li>○高校における外国人生徒の指導についてもテーマ設定してほしい。特に国語の高校の教科内容の実践について具体的に考える場を設けて頂ければ国語科のJSLについてもより理解が深まると思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習にあたっては、日本語初期指導コースと教科指導実践コース毎に、指導・助言者の事前打ち合わせを行い、共通理解を図った。特に、JSLカリキュラムの理解にあたっては、イラスト等を加えて講義したり、事例で提示するなどの工夫を図った。</li> <li>○班別演習1の時間を多く確保したり、専門家の講師を位置づけたりして、取組についての情報交換だけでなく、課題解決への糸口を探る時間とした。</li> <li>○JSLカリキュラムの専門家である民間の外部講師を、4日間の日本語指導者用コースの研修内容のコーディネーターとして位置づけ、日本語指導の理解をより深められるような内容とした。</li> <li>○実施時期の検討（8月末から7月下旬か8月上旬の実施）。</li> <li>○研究協議1「日本語指導のために教材について」の内容の充実。（講師による自作教材の説明、受講者の学校種による班編成の工夫等）</li> <li>○受講資格のさらなる明示。（留学生を受け入れている学校や外国人児童生徒が在籍していない学校の参加が見られた。）</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修  
日 程 表

第1日目

8月27日 (月)	10:00	10:30	11:00	12:00	13:15	14:45	15:00	17:00
		受 付	開 講 式	両コース共通 <b>課題協議1</b> 「外国人児童生徒教育全般 ～外国人児童生徒の受入れ体 制～」  東京学芸大学国際教育センター 教授 佐藤 郡衛	昼 食	両コース共通 <b>課題協議2</b> 「外国人児童生徒の文化的背景について」  ・ブラジルコース 上智大学 非常勤講師 コウ・ドス・サント・ジウス ・中国コース 国際文化フォーラム 楊 鳳秋	休 憩	両コース共通 <b>班別演習1</b> 「各地域における取組についての情報交 換」  国立大学法人東京学芸大学 准教授 臼井 智美 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子

第2日目

8月28日 (火)	9:00	11:30	12:45	14:15	14:30	16:30	17:00
	両コース共通 <b>課題協議3</b> 「子どもの第2言語の習得について」  トロント大学  名誉教授 中島和子	管理者用コース <b>課題協議4</b> 「受入れ体制の整備について～管理者としての 役割～」  集住：豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 分散：兵庫県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 樋口 正和	管理者用コース <b>班別演習2</b> 「関係機関と連携した外国人児童生徒 受入れ体制の構築について」  国立大学法人東京学芸大学 准教授 臼井 智美 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 兵庫県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 樋口 正和 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子	閉 講 式	日本語指導者用コース 日本語初期指導コース <b>課題協議4</b> 「日本語指導とは何か（語彙、文法指導等）」 東京外国語大学 教授 小林 幸江 教科指導実践コース <b>課題協議4</b> 「JSLカリキュラムとは何か～基本的考え 方～（小学校編と中学校編）」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久	日本語指導者用コース 日本語初期指導コース <b>課題協議5</b> 「年少者の日本語指導で、工夫が必要なもの」 波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 教科指導実践コース <b>班別演習2</b> 「JSLカリキュラムについて～基本的考え方～」  国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫	

第3日目

8月29日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:15	17:00
	日本語初期指導コース <b>課題協議6</b> 「指導案作成と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立筭小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	休 憩	<b>班別演習2</b> 「指導案作成1と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立筭小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	昼 食	<b>班別演習3</b> 「指導案作成2と模擬授業」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 静岡大学 講師 矢崎 満夫 港区立筭小学校 教諭 花島 健司 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子	
	教科指導実践コース <b>班別演習3</b> 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成1と模擬授業）」 国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫				<b>班別演習4</b> 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成2）」  国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 教諭 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫	

第4日目

8月30日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:15	14:45	15:00	15:30
	日本語初期指導コース <b>課題協議7</b> 「JSLカリキュラムとは何か ～基本的考え方～（小学校編と 中学校編）」 波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久	休 憩	日本語指導者両コース共通 <b>研究協議1</b> 「日本語指導のための教材について」  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中 学 校 教諭 赤羽 寿夫	昼 食	日本語指導者両コース共通 <b>研究協議2</b> 質疑応答  波多野ファミリスクール 主管 大蔵 守久 江戸川区立葛西中学校 教諭 小川 郁子 国語：広島市立東浄小学校 非常勤講師 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 難・数：愛知県小牧市立小牧小学校 教諭 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫	休 憩	閉 講 式	
	教科指導実践コース <b>班別演習5</b> 「JSLカリキュラムの実践（教 科志向型の模擬授業）」 国語：広島市立東浄小学校 須藤 とみゑ 甲府市立琢美小学校 今澤 悌 京都教育大学附属桃山 中 学 校 佐々木 稔 社会：神戸市立本山第二小学校 村山 勇 難・数：愛知県小牧市立小牧小 学 校 佐藤 和吉 理科：東京学芸大学附属大泉中 学 校 赤羽 寿夫					備		

## I 研修概要

研 修 名	子育て支援指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	認定こども園（幼稚園）において子育て支援を推進するため、各都道府県等の指導主事等に対し、子育て支援の実施方法、子育て相談に関する手法等について、必要な知識を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の企画・立案や各園への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ○地方公共団体において認定こども園等の指導・助言を行う者。 ○幼稚園・保育所の教職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	60	人	受講者数	54	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	34	18	0	0	1
		65.4	34.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○事前にレポート提出をしていたため、自分の地域の実態をしっかりと把握した上で受講でき、研修を深めることができた。</p> <p>○行政・幼稚園・保育所と様々な職種の方々との協議ができ、大変参考となった。幼保一体化につながる取組みであると思う。</p> <p>○自分自身が行ってきた子育て支援活動の反省と今後の取り組みについて大変参考になった。発達障害の理解や相談業務についても大変わかりやすく、且つ参考となることが多く、10月に実施する認可外施設の研修に活用したい。</p> <p>○認定こども園の現状と課題についての内容をもっと知りたかった。</p> <p>○様々な立場の人達が集まり、いろいろな意見を聞かせていただいたことが、大変有意義でした。講義の内容もどれも充実したものでした。</p> <p>○たくさんの子育て支援の実際について知ることができ、とても有意義でした。また、いろいろな県の方と知り合い、いろいろな話ができただけでも嬉しいことでした。今後このネットワークを生かして継続的に他県の様子を知りたいと思います。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○講義内容の重複が少なくなるよう、講師との事前打ち合わせを充実させる。</p> <p>○子育て支援の指導者としての資質を向上できるよう、受講者の経歴・担当業務内容を考慮した演習内容、グルーピングを工夫する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 子育て支援指導者養成研修日程

8月6日(月)	10:30	11:00	11:30	12:30	13:30	17:00
		受付	開講式	トオリエーション	講義・演習① 「認定こども園(幼稚園)の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 田河慶太郎 〇目的: 全国的な視点から認定こども園や幼稚園の課題について理解する。	昼食
					班別協議 「子育て支援に関する班別協議」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官 湯川秀樹 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 子育て支援指導官 横松伸二 〇目的: 各地域の子育て支援の現状について課題をもつ	
<b>会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)</b>						

8月7日(火)	9:00	11:00	11:10	12:30	13:30	17:00
		受付	講義・演習② 「認定こども園(幼稚園)における子育て支援事業の内容と展開方法」 品川区立二葉すこやか園長 大竹節子 事例発表: 品川区立第一日野幼稚園副園長 渡辺桂子 〇目的: 認定こども園や幼稚園における子育て支援の先進的事例を知る。	講義・演習③ 「保護者やNPOから見た子育て支援」 株式会社日本総合研究所 主任研究員 池本美香 〇目的: 保護者のニーズや疑問で行われている子育て支援の実例を知る。	昼食	講義・演習④ 「子育て支援事業の現状と課題」 淑徳大学総合福祉学部 教授 柏女霊峰 〇目的: 認定こども園や幼稚園における子育て支援の制度的・位置的な位置づけを確認するとともに、保育所等の福祉部局で実施している子育て支援の現状や専門機関との連携方策等を学ぶ。
<b>会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)</b>						

8月8日(水)	9:00	12:00	13:00	17:00
		受付	講義・演習⑤-1 「子どもの発達とその支援」 山階学園短期大学 専任講師 安藤智子 〇目的: 子どもの発達に影響を与える親子関係などの問題点について理解を深め、子育てを支援する者のかかわり方を知る。	講義・演習⑤-2 「子どもの発達とその支援」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育研修情報部研究員 柳澤 亜希子 〇目的: 発達障害に関する知識、課題、対応方法等について知識を得る。
<b>会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)</b>				

8月9日(木)	9:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:00
		受付	講義・演習⑥ 「相談による支援」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 指導助言 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 森下 葉子 東京学芸大学・白梅学園大学教員養成GP フィールドコーディネーター 青木 聡子 〇目的: 子育て支援事業における相談事業の重要性を認識し、相談者との信頼関係の確立方法等について知識・方法を得る。	講義・演習⑥ 「相談による支援」	休憩	講義・演習⑦ 「研修計画の立て方」 独立行政法人教員研修センター 主任指導主事 森田 泰司 〇目的: 研修の企画・立案・実施方法の知識を得る。
<b>会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)</b>						

8月10日(金)	9:00	12:00		
		受付	講義・演習⑧ 「研修を生かした子育て支援の充実を図る方策」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長 小田 豊 〇目的: 各地域において必要となる研修内容をまとめる。	閉講式
<b>会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)</b>				

講義・演習⑤-1「子どもの発達とその支援」については、インターネット配信する講義で事前研修を実施する  
事前研修講師: 白梅学園大学長 無藤 隆

## I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ○武道などの演習においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。		
開 催 期 日	平成19年5月22日（火）～平成19年5月25日（金）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 313 人 参加率 ※
開 催 場 所	いわて県民情報交流センター、岩手県営体育館ほか		

※計画人数 830人 受講者数 908人 参加率 109.4%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった		おおむね有意義だった		あまり意義がなかった		全く無意義だった		無回答
人数(人)	割合(%)	225	84.6	41	15.4	0	0.0	0	0.0	10

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○講師の先生がととてもすばらしかったです。また、運営委員の方々や施設など、受講者にとってすばらしい環境の中、研修させていただきました。</p> <p>○今回の研修を通して、実際体験する事により学んだ事が多かった様に思います。自分の引き出しも増え、自信を持って学校で実施したいと考えます。</p> <p>○2人の講師の先生が、実技と指導と評価の一体化について大変分かりやすく指導してくださった。実技のポイント説明を受け、何度も繰り返して取り組むことで、「分かる」「できる」実感をもつことができた。</p> <p>○体ほぐしの活用の仕方についても（気付き、調整、交流）などのねらいを明確にする必要がある。たのしいだけでなく、児童にはっきりとした学習成果を実感できるような教材を工夫する必要がある。</p> <p>○講師のわかりやすい御指導とすばらしい示範、そしてできない（つまずきの）姿も具体的に見せていただきよかったです。実際に自分で動きながらなので改めて感じたり、考えたりすることができました。</p> <p>○指導者の先生方のきめ細やかなご指導、多くの都道府県の先生方との協議・実践は勉強になることばかりでした。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○各班とも、大学の教員と卓越した指導実践を有する指導主事等の2名体制で研修を実施した。</p> <p>○学習指導要領の改正に伴う新学習指導要領を踏まえつつ、子どもの体力を向上させるための取組についての演習を取り入れることを検討する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程一覧（東部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:30	17:00
	開講式		全体会	班別演習	
5月22日 (火)	受付		「教育課程に関する動向とこれからの体育学習」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議・指導助言 ①「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の工夫」 ②「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の工夫」 ③「運動の意欲を高めるための学習指導の工夫」について ④作成を通して明らかにした課題等	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月23日 (水)	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼・休	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月24日 (木)	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」	昼・休	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」	

	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00
5月25日 (金)	班別演習・協議	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	昼・休	演習・協議 「研修講師となるために③」
					閉講式

## I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（中部ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ○武道などの演習においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。		
開 催 期 日	平成19年5月15日（火）～平成19年5月18日（金）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 331 人 参加率 ※
開 催 場 所	和歌山県民文化会館、和歌山市立市民体育館ほか		

※計画人数 830人 受講者数 908人 参加率 109.4%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	215	76	2	0	5
		73.4	25.9	0.7	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○講師の先生方には親切、丁寧に御指導いただき、大変わかりやすく有難かったです。ありがとうございました。</p> <p>○講師の先生方には、今、私たちに求められているもの、大切なものをまとめてわかりやすく説明していただけました。本当ありがとうございました。特に具体的な指導法やポイントを教えていただき、すぐにも使えと、うれしく思っております。</p> <p>○各種目の技術向上の講習会でなく、あくまで体ほぐしをはじめとする四本柱を中心としたものであるの、参加した先生方の実践例を具体的にきいたり、作り出していく作業を中心にしたらもっと有意義になったのでは。特に講師の先生のお一人が種目に全く素人というのは、とても良かった。専門でない新鮮な意見や考え、見方が必要。</p> <p>○学校ですぐに役立つ実践例をたくさん学べました。系統性をふまえて、目指す所を明確にすることで、そこに到達するまでにいろいろな手立てが必要になってくるということがわかりました。</p> <p>○小学生の指導経験のない私にとっては、指導のポイントを明確に提示してもらい、展開についてもわかりやすく大変ためになりました。高校生の授業と違い、ゲーム内での工夫がより重要であり、また高校生で体育嫌いの生徒には役に立つことが多く発見できました。</p> <p>○指導と評価の一体化の考え方について良く理解でき、実技においても興味・関心を持たせる体づくり運動について実践を通して身につけることができた。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○各班とも、大学の教員と卓越した指導実践を有する指導主事等の2名体制で研修を実施した。</p> <p>○学習指導要領の改正に伴う新学習指導要領を踏まえつつ、子どもの体力を向上させるための取組についての演習を取り入れることを検討する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程一覧（中部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:30	17:00
	開講式		研究会		班別演習
5月15日 (火)	受付		「教育課程に関する動向とこれからの体育学習」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官		研究協議・指導助言 ①「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の工夫」 ②「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の工夫」 ③「運動の意欲を高めるための学習指導の工夫」について ④作成を通して明らかにした課題等

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月16日 (水)	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼・休	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」	

	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月17日 (木)	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」	昼・休	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」	

	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00
5月18日 (金)	班別演習・協議	演習・協議 「研修講師となるために①」	演習・協議 「研修講師となるために②」	昼・休	演習・協議 「研修講師となるために③」
					閉講式

## I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	<p>各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。</p> <p>そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。</p>		
受 講 対 象	<p>○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p> <p>○武道などの演習においては、中学校、高等学校及び中等教育学校の部活動指導者を含むことができる。</p>		
開 催 期 日	平成19年5月8日（火）～平成19年5月11日（金）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 264 人 参加率 ※
開 催 場 所	岡山衛生会館、岡山県総合グラウンドほか		

※計画人数 830人 受講者数 908人 参加率 109.4%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	182	80.5	44	19.5	0	0.0	0	0.0	9

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○発想の転換ができ、新しい世界が広がった。まだまだ技術研修時間があればと思った。大学の最先端の内容がわかり、大変良かった。</p> <p>○体ほぐしの趣旨を、どのように学習に生かしていけばよいかについても、具体的に教えていただいたので今後活かしていきたい。</p> <p>○様々なアイデアや運動を教えていただいたので、とても勉強になりました。</p> <p>○ゲームとして楽しく運動する中で、体を動かすことの良さを感じてくれることを大切にすることが、結果として体力を高めることになると考えれば良いということが明確になりました。</p> <p>○子供達の現状をしっかり見定め、どのように、どんな体力を向上させていけばよいのか、またそのためにどのような指導課程を組んで、どのような手立てが必要となってくるのかを、理論と実技の両輪から研修することができたので、大変有意義でした。本研修の内容について、地域に戻り多くの教職員に伝えていきたいと思えます。</p> <p>○指導と評価の一体化をテーマにした研修も含まれており、即実践に役立つ内容であった。研修参加者の実態に合わせた内容を組み立てていただき、実技指導のポイントを多数習得できた。</p> <p>○これまでの事を生かすために、このようなスタイルの研修はとてもありがたかった。多くの資料も、色々なアイデアが盛り込まれていて役立つと思う。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○各班とも、大学の教員と卓越した指導実践を有する指導主事等の2名体制で研修を実施した。</p> <p>○学習指導要領の改正に伴う新学習指導要領を踏まえつつ、子どもの体力を向上させるための取組についての演習を取り入れることを検討する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程一覧（西部ブロック）

5月8日 (火)	12:00 12:30 12:50		13:30		17:00	
	受付	開講式	全体会 「教育課程に関する動向とこれからの体育学習」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	班別演習	研究協議・指導助言 ①「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の工夫」 ②「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の工夫」 ③「運動の意欲を高めるための学習指導の工夫」について ④作成を通して明らかになった課題等	
5月9日 (水)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方①」	演習・実技 「体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方②」	昼休	食憩	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」	演習・実技 「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」
5月10日 (木)	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」	演習・実技 「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」	昼休	食憩	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」	演習・実技 「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」
5月11日 (金)	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00	
	班別演習・協議	演習・協議 「研修講師となるために①」	昼休	食憩	演習・協議 「研修講師となるために③」	閉講式

## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：推進コース）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成19年11月12日（月）～平成19年11月14日（水）	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 89 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数 330人 受講者数 356人 参加率 107.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	42 53.8	34 43.6	2 2.6	0 0.0	5

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○演習のグループ編成は、校種や学校規模などに配慮されていて協議しやすいと思いました。また職種が養教のほかにも教諭・教頭等様々であり、お互いの立場を知り合うのに大変良かったです。</p> <p>○保健主事のコースに参加しました。このコースは今回が初めてということでしたが、保健主事がミドルリーダーとしてどういう働きをするかを考え、整理することが出来るプログラムになっておりました。また講師の先生方の助言も適切で、理解しやすいものでした。グループワークの課題が、初はわかりづらかったところがありますが、初めから与えず考えさせてから与えるという仕掛けがあったように感じています。</p> <p>○子供のメンタルヘルスの対応には養護教諭に任せきりにしないで、計画的にチームを作って支援していくのが大切だという思いをもてたことが大きい。演習も即現場で実践できるものを身につけたとの自信も生まれ、大変有意義であったと思います。</p> <p>○各班に分かれての事例研究では、各県の先生方の課題資料を基に指導案作り・模擬授業と大変有意義であった。また短い時間でしたが、各講座の話しを聞き情報を共有できたのも良かった。保健学習についてよく理解できました。</p> <p>○研修内容も大変充実しておりました。また一般の先生や指導主事の先生方と研修ができ、とても有意義でした。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校保健活動の組織マネジメントの演習を取り入れた。</p> <p>○メンタルヘルスへの対応の理解が図られるコマを設定した。</p> <p>○学校保健活動の組織マネジメントの内容の更なる充実を図る。</p> <p>○保健学習だけではなく、保健指導と保健学習を取り扱う内容に改善する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:20	12:20	13:20	17:00
11月12日(月)	両コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義	講義2 部会別講義	昼食・休憩	講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方	部会別演習
				学校における健康教育に関連する審議の動向  文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 今関 豊一  文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄  栃木県教育委員会 副主幹 森 良一  【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹  江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子  ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント  日本女子体育大学 教授 畑 攻  東京都立足立高等学校校長 薄井 和久  ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動  文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江		①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄  栃木県教育委員会 副主幹 森 良一  【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹  江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子  ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント  日本女子体育大学 教授 畑 攻  東京都立足立高等学校校長 薄井 和久  ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動【いじめ、不登校、発達障害】  京科大学 教授 十一 元三	
				◎目的：学校における健康教育全般の現状と課題について理解する。	◎目的：部会ごとの現状と課題について理解する。	◎目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。		

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月13日(火)	両コース共通	受付	講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方	昼食・休憩	講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方
			①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一  【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子  ◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント  日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校校長 薄井 和久  ◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動  兵庫教育大学 教授 古川 雅文		①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一  【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子  ◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント  日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校校長 薄井 和久  ◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動  福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子 滋賀県教育委員会 指導主事 岩崎 信子  鳥根県教育委員会 指導主事 荊尾 玲子 鎌倉女子大学 教授 門田 美恵子
			◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応の実際を理解する。	◎目的：健康相談活動における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	

第3日目		9:30	12:00	13:00	14:00	15:00	17:00
11月14日(水)	両コース共通	受付	発表：事例研究 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方	昼食・休憩	推進コース	推進コース 閉講式	講義・演習2 研修講師となるために
			①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一  【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子  ◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント  日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校校長 薄井 和久  ◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動  自治医科大学 講師 塩川 広 東京福祉大学 特任教授 鳥山 初江  十文字学園女子大学 講師 松野 智子  ◎目的：メンタルヘルスに関する問題に対する健康相談活動事例を通じて、健康相談活動について理解を深める。				【推進コース：全体講義・演習】  文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 今関 豊一  ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。
			◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	講義・演習2 児童虐待の実態 13:00～15:00 宮城県子ども総合センター 所長 本間 博彰 15:00～17:00 横浜市中央児童相談所 医師担当部長 金井 剛 ◎目的：児童虐待全般の実態を知り、学校における連携・協力等について理解を深める。			

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月15日(木)	専門コース	受付	講義・演習3 健康相談活動における性に関する指導の在り方	昼食・休憩	講義・演習4 健康相談活動における性に関する指導の在り方
			京都大学大学院 准教授 木原 雅子		京都大学大学院 准教授 木原 雅子
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。		

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
11月16日(金)	専門コース	受付	講義・演習5 学校における感染症対策の在り方	昼食・休憩	専門コース 閉講式
			東京大学医学研究所 助教 大沼 圭		
			◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		

## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：専門コース）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成19年11月12日（月）～平成19年11月16日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 109 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数 330人 受講者数 356人 参加率 107.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	74 69.8	32 30.2	0 0.0	0 0.0	2

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○幅広い健康教育について研修させていただくことができ、感謝しております。講義からたくさんの情報を頂き、様々な演習をさせていただいたことで大変充実した5日間がおくれました。何といても他県の方との意見交流、グループ協議、グループ演習はとてもよかったです。</p> <p>○今回この研修に参加して、現状の課題について明確になりました。それだけでなく、児童虐待の現状や対応の仕方、性教育についての効果的な指導法など、本当に良い研修でした。その中でも、他の都道府県の方々と共有して、協働して研修を進められたことが楽しかったです。この研修で学んだことを、しっかりと伝達していこうと思います。</p> <p>○講義については最新の情報を得ることができ有意義でした。しかし演習の時間が少なく、消化不良だったように思います。学校現場に多様な職種が導入されている現状において、改めて養護教諭の専門性とは何か、どのような力をつけていかなければならないか再確認する有意義な研修となりました。</p> <p>○教諭・養護教諭が一緒になって研修できたことは有意義でした。班編成のバランスを考えていただけるとありがたいです。大変勉強になりました。他地区の先生方との情報交換もできました。</p> <p>○他県の方と実践や悩みを交流できたこと、班内で協力して達成感が味わえる研修だったこと、いつも学校では一人だが同じ仲間が時間を共有できたことが良かった。研修を通じて学んだ知識も明日の執務からすぐ活かせる内容が多く、実践力とやる気が高まった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校保健活動の組織マネジメントの演習を取り入れた。</p> <p>○メンタルヘルスへの対応や児童虐待の実態の理解が図られるコマを設定した。</p> <p>○学校保健活動の組織マネジメントの内容の更なる充実を図る。</p> <p>○保健学習だけではなく、保健指導と保健学習を取り扱う内容に改善する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目	9:30	10:00	10:20	11:20	12:20	13:20	17:00
11月12日(月)	両コース共通	受付	開講式	<p>講義1 全体講義</p> <p>学校における健康教育に関連する審議の動向</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 今関 豊一</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：学校における健康教育全般の現状と課題について理解する。</p>	<p>講義2 部会別講義</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】</p> <p>【性教育】 国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄</p> <p>栃木県教育委員会 副主幹 森 良一</p> <p>【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹</p> <p>江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子</p> <p>②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻</p> <p>東京都立足立高等学校長 薄井 和久</p> <p>③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：部会ごとの現状と課題について理解する。</p>	屋食・休憩	<p>講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】</p> <p>【性教育】 国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄</p> <p>栃木県教育委員会 副主幹 森 良一</p> <p>【感染症】 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹</p> <p>江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子</p> <p>②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻</p> <p>東京都立足立高等学校長 薄井 和久</p> <p>③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動【いじめ、不登校、発達障害】</p> <p>京都大学 教授 十一 元三</p> <p>◎目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。</p>
				<p>◎目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。</p>			
11月13日(火)	両コース共通	受付	<p>講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】</p> <p>【性教育】国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一</p> <p>【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子</p> <p>◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を別別に練り上げていく。</p> <p>②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：事前課題を別別に練り上げていく。</p> <p>③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動</p> <p>兵庫教育大学 教授 古川 雅文</p> <p>◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応の実際を理解する。</p>	屋食・休憩	<p>講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】</p> <p>【性教育】国立淡路青少年交流の家所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一</p> <p>【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子</p> <p>◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。</p> <p>②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。</p> <p>③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動</p> <p>福島県立磐城高校 校長 菅原 和子 滋賀県教育委員会 指導主事 岩崎 信子</p> <p>鳥根県教育委員会 指導主事 荊尾 玲子 鎌倉女子大学 教授 門田 美恵子</p> <p>◎目的：健康相談活動における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。</p>		
			<p>◎目的：健康相談活動における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。</p>				
11月14日(水)	両コース共通	受付	<p>発表・事例研究</p> <p>現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方</p> <p>①現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】</p> <p>【性教育】国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 栃木県教育委員会 副主幹 森 良一</p> <p>【感染症】東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 江戸川区立葛西第二中学校長 青木 孝子</p> <p>◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。</p> <p>②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント</p> <p>日本女子体育大学 教授 畑 攻 東京都立足立高等学校長 薄井 和久</p> <p>◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。</p> <p>③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動</p> <p>自治医科大学 講師 塩川 広 東京福祉大学 特任教授 鳥山 初江</p> <p>十文字学園女子大学 講師 松野 智子</p> <p>◎目的：メンタルヘルスに関する問題に対する健康相談活動事例を通じて、健康相談活動について理解を深める。</p>	屋食・休憩	<p>推進コース</p> <p>研修講師となるために</p> <p>【推進コース：全体講義・演習】</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 今関 豊一</p> <p>◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	推進コース閉講式	
			<p>◎目的：メンタルヘルスに関する問題に対する健康相談活動事例を通じて、健康相談活動について理解を深める。</p>		<p>専門コース</p> <p>講義・演習2 児童虐待の実態</p> <p>13:00 ~ 15:00 宮城県子ども総合センター 所長 本間 博彰</p> <p>15:00 ~ 17:00 横浜市中央児童相談所 医師担当部長 金井 剛</p> <p>◎目的：児童虐待全般の実態を知り、学校における連携・協力等について理解を深める。</p>		
11月15日(木)	専門コース	受付	<p>講義・演習3 健康相談活動における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p> <p>◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。</p>	屋食・休憩	<p>講義・演習4 健康相談活動における性に関する指導の在り方</p> <p>京都大学大学院 准教授 木原 雅子</p>		
			<p>◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。</p>				
11月16日(金)	専門コース	受付	<p>講義・演習5 学校における感染症対策の在り方</p> <p>東京大学医科学研究所 助教 大沼 圭</p> <p>◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。</p>	屋食・休憩	<p>研修講師となるために</p> <p>【専門コース：全体講義・演習】</p> <p>文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江</p> <p>◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。</p>	専門閉講式	
			<p>◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。</p>				

## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：推進コース）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成19年12月10日（月）～平成19年12月12日（水）	3日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 71 人 参加率 ※
開 催 場 所	エル・おおさか		

※計画人数 330人 受講者数 356人 参加率 107.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	41 63.1	22 33.8	2 3.1	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○授業づくりにおいて、保健学習を意識して、学習指導要領の内容をしっかりとおさえなければならぬことや、指導と評価の一体化、観点別評価のくみこみ方など、スキル面を学ぶことができた。今後、本校にかえて生徒や職員に対して還元していきたい。</p> <p>○日頃私が保健室を訪ねてきた子どもに対し、どのように接していたか、振り返ることができ、また立場を変えているいろいろな演習を体験することでちがう立場の人の心が少しわかった気がする。また、構内組織、関係機関との連携の大切さを再確認できた研修だった。学んだことを地元で少しでも広げられたらと感じている。</p> <p>○実際、学校に様々な悩みをかかえた子どもが多いので、今後どのように対応していったらいいのか、また学校組織もどう構成したらいいかなど参考になりました。今後、それらを実践できればと考えております。</p> <p>○講義と演習の組み合わせで、理論的にも感性にも腑に落ちるという内容でした。健康相談活動だったので、教諭の参加が少なかったが、サイコドラマにより教諭（教科担任）の考え、気持ちに気付くことができ、幸いだった。生徒（様々なタイプ）の気持ちにも気付くことができ、今後教諭や生徒への配慮をしながら対応することの大切さを強く感じた。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校保健活動の組織マネジメントの演習を取り入れた。</p> <p>○メンタルヘルスへの対応の実態の理解が図られるコマを設定した。</p> <p>○学校保健活動の組織マネジメントの内容の更なる充実を図る。</p> <p>○保健学習だけではなく、保健指導と保健学習を取り扱う内容に改善する。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:20	12:20	13:20	17:00
12月10日	両コース共通	受付	開講式	<b>講義1</b> 全体講義 学校における健康教育に関連する審議の動向 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 今関 豊一 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	<b>講義2</b> 部会別講義 ①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 文部科学省スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	昼食・休憩	<b>講義・演習1-1</b> 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 ①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動【いじめ、不登校、発達障害】 京都大学大学院 教授 十一 元三	◎目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。
				◎目的：学校における健康教育全般の現状と課題について理解する。	◎目的：部会ごとの現状と課題について理解する。			
第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00			
12月11日	両コース共通	受付	<b>講義・演習1-2</b> 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 ①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。 ◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 兵庫教育大学教授 古川 雅文	昼食・休憩	<b>講義・演習1-3</b> 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 ①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 ◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 兵庫大学教授 辻 立世 土佐市立新居小学校養護教諭 中野 靖子 春日井市教育委員会指導員 安藤 節子 群馬県教育委員会指導主事 高橋 慶子	◎目的：健康相談活動における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。		
			◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応の実際を理解する。					
第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00		
12月12日	両コース共通	受付	<b>発表：事例研究</b> 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 ①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 【喫煙・飲酒・薬物乱用】 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 事例研究 大阪人間科学大学教授 原田 正文 鳥取県立白兎養護学校養護教諭 加藤 和代 岩手県立総合教育センター研修主事 佐藤 一也 ◎目的：メンタルヘルスに関する問題に対する健康相談活動事例を通じて、健康相談活動について理解を深める。	昼食・休憩	<b>講義・演習2</b> 研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 今関 豊一 ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	推進コース閉講式		
			◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。					
第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00			
12月13日	専門コース	受付	<b>講義・演習3</b> 健康相談活動における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	昼食・休憩	<b>講義・演習4</b> 健康相談活動における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。		
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。					
第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00		
12月14日	専門コース	受付	<b>講義・演習5</b> 学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所感染症情報センター センター長 岡部 信彦	昼食・休憩	<b>講義・演習6</b> 研修講師となるために 【専門コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	専門閉講式		
			◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。			

## I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：専門コース）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。		
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。		
開 催 期 日	平成19年12月10日（月）～平成19年12月14日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 87 人 参加率 ※
開 催 場 所	エル・おおさか		

※計画人数 330人 受講者数 356人 参加率 107.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	59 72.8	22 27.2	0 0.0	0 0.0	4

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○学校全体で健康教育を推進するためには、校長・教頭・教諭・保健主事等さまざまな職種の方に対する研修や共通理解が必要である。</p> <p>○講義のあと演習という型での研修はとても良かった。明日からすぐに実践に取り組めるものばかりだったと思います。</p> <p>○演習を多くとり入れられており、充実した内容だった。また、他府県の先生方の素晴らしい実践・意気込みに刺激を受けた。ここで学んだことを、実践につなげていきたいと思う。</p> <p>○私は養護教諭ではないので、初めて聞くような内容も多く、これからの生徒の健康教育に生かせると思いました。また感染症対策では、プロの先生の説明が直接聞いて、本当に有意義でした。この領域は、自信を持って各地域で指導者および講師になれます。</p> <p>○最近の情報の内容、すぐ実践に使える内容、今後の執務に意欲をださせてくれる内容でした。他の府県市の養護教諭・教諭の方々と交流できることも自分にとってとても良かったです。ありがとうございました。きちんと学んだことを伝達できるようにしていきたいです。</p> <p>○最新の情報も折りませながら、健康教育に即役立つものから、改めて考えさせられるものまで、いろいろと学ばせていただきよかったですと感謝しています。できることなら、もう少し教諭の立場の方が参加していただけると、校内体制・連携という面がもっと推進していけるように感じました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校保健活動の組織マネジメントの演習を取り入れた。</p> <p>○メンタルヘルスへの対応や児童虐待の実態の理解が図られるコマを設定した。</p> <p>○学校保健活動の組織マネジメントの内容の更なる充実を図る。</p> <p>○保健学習だけではなく、保健指導と保健学習を取り扱う内容に改善する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:20	12:20	13:20	17:00
12月10日	両コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義	講義2 部会別講義	昼食・休憩	講義・演習1-1	部会別演習
				①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江 ◎目的：学校における健康教育全般の現状と課題について理解する。	①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動【いじめ、不登校、発達障害】 京都大学大学院 教授 十一 元三 ◎目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。			

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月11日	両コース共通	受付	講義・演習1-2	講義・演習1-3	昼食・休憩
			①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：事前課題を班別に練り上げていく。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 兵庫教育大学教授 古川 雅文 ◎目的：児童生徒のメンタルヘルスへの対応の実際を理解する。	①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 兵庫大学教授 辻 立世 土佐市立新居小学校養護教諭 中野 靖子 春日井市教育委員会指導員 安藤 節子 群馬県教育委員会指導主事 高橋 慶子 ◎目的：健康相談活動における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	

第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00
12月12日	両コース共通	受付	発表：事例研究	講義・演習2	推進コース 開講式	専門コース
			①現代的課題に対応した保健学習【心の健康】 【心の健康】 兵庫教育大学大学院教授 西岡 伸紀 山梨県教育委員会指導主事 加賀美 猛 【喫煙・飲酒・薬乱】 筑波大学大学院准教授 野津 有司 東京都立桜町高等学校教諭 杉山 正明 ◎目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学教授 畑 攻 鶴田町立水元中央小学校教頭 原 真紀 ◎目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 ③児童生徒のメンタルヘルスへの対応及び健康相談活動 大阪人間科学大学教授 原田 正文 鳥取県立白兎養護学校養護教諭 加藤 和代 岩手県立総合教育センター研修主事 佐藤 一也 ◎目的：メンタルヘルスに関する問題に対する健康相談活動事例を通じて、健康相談活動について理解を深める。	研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 今関 豊一 ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。		

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月13日	専門コース	受付	講義・演習3	昼食・休憩	講義・演習4
			健康相談活動における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子 ◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、健康相談活動における指導の在り方を考える。		健康相談活動における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
12月14日	専門コース	受付	講義・演習5	昼食・休憩	講義・演習6
			学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所感染症情報センター センター長 岡部 信彦 ◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		研修講師となるために 【専門コース：全体講義・演習】 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江 ◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。

## I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校における生活安全、交通安全、災害安全に関し、必要な知識等を修得させるとともに、本研修の内容を踏まえた各地域で行われる研修の講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって学校安全の充実に資することを目的とする。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成19年5月30日（水）～平成19年6月1日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	160	人	受講者数	196	人	参加率	122.5%
開 催 場 所	アイビーホール青学会館（東京都渋谷区）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	69	40.8	94	55.6	6	3.6	0	0.0	12

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会ごとに分かれ、しかも班別の演習形式をとった研修は有意義であり、効果もあった。</li> <li>○講義をもう少し多くしてほしい。</li> <li>○講師の先生方の運営はとてもやりやすかった。</li> <li>○全国の優秀な先生方と研修に参加し、自分では気づかないことを教えていただいた。</li> <li>○成果物を今後の教育活動に生かしていきたい。</li> <li>○抽象より具体、最終的に何についてどのような様式でつくりあげるのかを、はじめに明確にしておくよかった。</li> <li>○参加型を取り入れた研修を工夫していただきありがたかった。自分たちでプログラムを作りあげるとい研修で、プログラムの必要性を認識することもできた。</li> <li>○第1日目の講義をふまえて演習が企画されており、参加型での研修ができてよかったと思います。</li> <li>○講義形式で聞いてばかりの研修でなく、グループで討議する時間が多く、印象深い研修になった。</li> <li>○安全に対する再認識ができた。防犯教育の重要性ー管理と教育の両面からとらえる「安全」「安心」できる学校づくりは、学校経営の大きな柱である。</li> <li>○どの講演もわかりやすい内容だった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○班別で協議した内容を最終日にコースごとに発表するコマを新たに設定した。</li> <li>○指導案や研修プログラムの作成中、作成状況に応じて適宜講師の講義を織り交ぜて、知識を習得させたり、協議を深めるようにした。</li> <li>○初日の知識伝達に関する内容のコマを増やす。</li> <li>○災害安全コースを一つの部会にし、新潟中越沖地震と兵庫県の震災の両方について学ぶことができるように配慮した講師を設定する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（食育推進指導者コース）		
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。		
受講対象	本研修の参加者は、本研修受講後に各地域で食に関する指導についての研修の企画立案・実施、当該研修での講師等の活動を行うことが予定される者で、下記のいずれかに該当する者とする。 ア都道府県、指定都市、中核市教育委員会の食に関する指導を担当する者（指導主事、学校栄養職員経験者等） イ都道府県、指定都市、中核市教育委員会の教育センターにおいて食に関する指導についての研修等を担当する指導主事等 ウ校長、教諭、学校栄養職員で各地域の食に関する指導についての研修の講師等の活動が予定されている者 エその他上記ア～ウに準ずる者		
開催期日	平成19年6月19日（火）～平成19年6月22日（金）	4日間	
受講人数	計画人数	※ 人	受講者数 104 人 参加率 ※
開催場所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数 170人 受講者数 192人 参加率 112.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	75 75.8	23 23.2	1 1.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○栄養教諭の育成と食育推進事業を通じた地域づくりに取り組んでいます。いずれの指導も知識・技術を身につけるために、努力を積み重ねておりました。今回の研修において、よく検討された内容と講師の方々から指導を受けることができ、大変良い機会を得させて頂いたことに感謝しております。</p> <p>○研修内容については、食に関する指導にかかる全体的な計画の作成についての、内容と必要性を理解することができた。また、グループワークで作成した、教材横断的に追及する「食に関する指導」のカリキュラムモデルは、指導主事の先生を中心に検討し、一枚の掲示物に仕上げた時、教科との関連を実感でき、グループ内の討議の中でさまざまなことを学ぶことができた。さらに指導案の検討では、他校の方たちの指導案を見せていただき大変参考になったとともに、グループで指導案を作成することで、指導案作りを、これだけじっくりと勉強できたことは貴重な体験だった。</p> <p>○たくさんのお話を学ぶことができ、本当に良かったと思っています。こんな機会を与えて下さったことに感謝します。給食の大切さ、栄養職員の力の大きさを改めて感じる事ができ、一緒に食育を推進していかなければならないと強く思いました。戻ったら他の職員に是非還元させていただきます。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校全体で取り組む食に関する指導にかかる指導計画の作成や各教科における指導のポイントの理解が図られるよう工夫した。</p> <p>○食に関する指導にかかる学校全体の指導計画については、現場のニーズを研修に反映出来るよう工夫する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 食育指導者養成研修（食育推進指導者コース）

6月19日（火）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付	開講式 オリエンテーション	講義1 「栄養教諭の職務」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 田中延子	昼食	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 熊本県教育庁義務教育課 参事 守田 真里子	休	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかか る全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>								

6月20日（水）	9:50	10:00	11:30	12:30	14:50	15:00	17:00	
	受付	協議 「食育を推進するにあたって の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	休	講義2 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 東京純心女子大学 新富 副学長	休	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の 検討」 各教科等において、講義・演習		
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>								

6月21日（木）	8:30	11:30	12:30	14:30	17:00
	受付	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	休	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>					

6月22日（金）	8:30	12:00	13:00	14:30
	受付	講義・演習5 「食に関する指導の模擬授業」 特別活動 東京純心女子大学 新富 副学長 野芥小学校 天野 裕久	休	講義・演習6 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>				
閉講式				

各教科等を担当する講師

- 特別活動  
東京純心女子大学副学長 新富 康央  
福岡市立野芥小学校教頭 天野 裕二  
生活・総合的な学習の時間  
国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村 学  
姫路市教育研究所 指導主事 中島 輝久  
体育・保健体育  
国立教育政策研究所 教育課程調査官 今関 豊一

## I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修（栄養教諭コース）		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実にための指導者の養成を目的とした研修を行う。		
受 講 対 象	栄養教諭であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者		
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月23日（木）	4日間	
受 講 人 数	計画人数	※ 人	受講者数 88 人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター		

※計画人数 170人 受講者数 192人 参加率 112.9%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	68 77.3	20 22.7	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○全国の栄養教諭とともに、この研修を受けることができたことは、とても素晴らしい体験だった。栄養教諭としての自分の立場や、目指すところを自覚することができた。</p> <p>○教科との関連という部分では、4月から栄養教諭となった中で最も苦しいところでした。考えの道筋、方策の道策を示していただき、方向性が見えてきたように思います。</p> <p>○カリキュラムの編成など取り組まなければならない課題と、研修内容が一致しとても参考になりました。アプローチの仕方など、よく分ったように思います。</p> <p>○自分自身の資質の向上が図れたと思う。また常に向上心を持って取り組む他県の栄養教諭に刺激され、自分自身今後の業務に前向きに取り組んでいきたいと思う。</p> <p>○演習が多く取り入れられていたので、とてもよかったと思います。講師の先生からの助言・指導が何度も入り、とても参考になりました。</p> <p>○給食時の指導、毎日の積み重ね（計画的）が、食の教育を深める上でウェイトが大きいことが分り、計画的に指導するようにしていきたいと思います。</p> <p>○学校・家庭・地域と連携し成果を出していくとともに、栄養教諭としてリーダーシップを発揮していきたい。</p> <p>○今までの食に関する指導計画を見直し、今回の模擬授業での栄養教諭の関わり方で、正しい食教育のあり方を学んだので、教職員全体へ返して理解を深めたい。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○学校全体で取り組む食に関する指導にかかる指導計画の作成や各教科における指導のポイントの理解が図られるよう工夫した。</p> <p>○食に関する指導にかかる学校全体の指導計画については、現場のニーズを研修に反映出来るよう工夫する。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 食育指導者養成研修（栄養教諭コース）

8月20日（月）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	16:10	16:20	17:00
	開講式	テオリシオン	講義「栄養教諭の職務」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中 延子	昼食	講義・演習「学校給食管理の在り方」 松江市立八雲小学校 栄養教諭 長島 美保子	休	講義・演習「個別指導に活用できる力 「ウェンディング技法について」」 徳島文理大学 教授 島 治伸	休	講義・演習「学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也	17:00
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>										
8月21日（火）	10:00	10:10	11:30	12:30	14:00	14:10	16:10	16:20	17:00	
	受付	講義・演習「給食指導の在り方」 富山県教育長スポーツ・保健課 指導主事 太田 裕美子	昼食	協賛「食育を推進するにあたっての現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中 延子	休	講義「各教科等における食に関する指導のポイント」 理科 国研 田代調査官	休	講義・演習「各教科における食に関する指導のポイント」 家庭・家庭技術・家庭 国研 岡調査官	講義・演習「各教科における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	17:00
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>										
8月22日（水）	8:30	11:30	12:30	13:00	14:30	17:00				
	受付	講義・演習「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	昼食	講義・演習「各教科における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	休	17:00				
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>										
8月23日（木）	8:30	12:00	13:00	14:30	17:00					
	受付	講義・演習「食に関する指導の模擬授業」 理科 国研 田代調査官 墨田区教育委員会 村山 総括指導主事	家庭技術・家庭 群馬県総合教育センター 伏見指導主事	社会 水戸市立第一中学校 介川校長	講義・演習「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也	閉講式				
<b>会場 教員研修センター（つくば）</b>										

各教科等を担当する講師

- 社会 水戸市立第一中学校校長 介川 文雄
- 理科 国立教育政策研究所 教育課程調査官 田代 直幸
- 墨田区教育委員会 総括指導主事 村山 哲哉
- 家庭・技術家庭 国立教育政策研究所 教育課程調査官 岡 陽子
- 群馬県総合教育センター 指導主事 伏見 和枝

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1：学校評価と学校運営）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	18	4	0	0	0
		81.8	18.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○期待していた以上に多くの事を得ることができました。また、他県の団員の先生方とも交流でき、よかったです。</p> <p>○今年度からテーマ別に研修することになり、自分の中でも課題を焦点化して、研修に参加することができたのは大変有意義であった。また、シニアアドバイザーの先生から適時アドバイスを受けることができたこともありがたかった。</p> <p>○事後研修会では、海外で研修したことを見直し、検討し、共有することができました。特に課題についての理解が深まり、還元する方途について他の方のプレゼンを参考に具体化することができたことが大きな収穫となりました。</p> <p>○実際の海外での教育現場を目にし、現地の教職員、子供たちと触れ合うことのできるこの研修は大きな意義があったと思います。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2：学校評価と学校運営）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	22	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17	4	0	0	0
		81.0	19.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○事前研修・海外研修・事後研修の流れが一本筋が通っていて、大変勉強になりました。</p> <p>○テーマに沿った学校および教育関連施設等、様々なタイプの機関を訪問させていただけたという点では大変良かったのですが、一カ所に滞在する時間が短く、あわただしい感じもした。</p> <p>○シニアアドバイザーからの講義などで研修の概要は理解できたが、訪問先の機関の情報が少なかつた。</p> <p>○他県の先生と意見交換を行うことができ大変良かった。</p> <p>○訪問先の学校の受け入れ体制がよく整っていて、有意義な研修ができました。</p> <p>○現地で記録をまとめる時間と場所があると良かった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-3：学校評価と学校運営）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	19 82.6	4 17.4	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○テーマを設定し、事前のレクチャーを受けての研修は、短時間の派遣研修を有効にする方法として大変よかった。事前のモチベーションを高めることが重要で、課題を整理して出発できたのが現地での理解を深めた。いつも教える立場なので、学ぶ立場になって大学の先生からの講義を受けられたのはとても嬉しかったです。また、現地で訪問の後、シニアアドバイザーからのミーティングは更に内容を深めることができ、ありがたい時間でした。</p> <p>○訪問先での確かな説明を受けることができ、訪問先の教育事情、取組の具体的な内容がよく理解できた。それを受け、日本の教育との比較の中で、今後われわれがめざしていくべき方向が明確になった。</p> <p>○州教育委員会、郡教育委員会、各学校とそれぞれの立場、実態等を見ることができ、勉強となりました。</p> <p>○校種別の研修の方が訪問先の事例も増えるとは思いますが、今回の研修では違う校種の先生と話ができて参考となるが多かった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-4：学校評価と学校運営）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)					12日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	22	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13	7	1	0	0
		61.9	33.3	4.8	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○学校評価に特化した研修で目的は果たしたが、授業の見学をもう少し多くして欲しかった。</p> <p>○アメリカの教育、学校経営と日本を比較し、日本の教育について考える良い機会となった。研修したことを広げていくことが、自分のこれからの役目だと思う。</p> <p>○「学校評価と学校運営」という視察団としての明確なテーマを決めて研修できたことは非常に良かった。目的がはっきりとしており、質問内容もぶれることがなかった。</p> <p>○団全員で訪問を行うという形ばかりではなく、校種別や個人の課題別に分かれて訪問を行い研修を深めるという手法を取り入れても良かったのではないかと。</p> <p>○現地の教育委員会の訪問は、教育評価の在り方やそれに対しての学校区の取り組み、各学校の具体的な取り組み等、現在のアメリカの教育事情を理解する上で大変参考になりました。</p> <p>○訪問先が、小・中・高校、教育省といろいろ含まれており、大変有意義でした。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1：キャリア教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)					12日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	21	95.5	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○訪問先の受入も連絡が十分に取れており、受入れも丁寧だった。</p> <p>○質問事項等について事前に訪問先に届いており、回答も十分であった。</p> <p>○シニアアドバイザーの細部にわたる情報提供や現地での説明等により、短い期間ではあったが、集中的に充実した調査・研究が行えた。</p> <p>○計画的、意図的に設定がなされていた訪問先ではあったが、調査項目に対する調査をより深めるために、一ヵ所における訪問時間をもう少し確保し、充実した質疑応答の時間が欲しかった。</p> <p>○2カ国を訪問したので、比較研究することができてよかった。日程的にはきついですが、2カ国をパックにするのは有効性があると思った。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-2：キャリア教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)					10日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	21	1	0	0	0
		95.5	4.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○午前・午後とも研修日程が詰まっていたので、まとめる時間を作って欲しい。</li> <li>○日程との関係で、1日中講義を聞く日が2日あった。学校現場をもっとゆっくり見られるとありがたいと思います。</li> <li>○キャリア教育の在り方について、日頃持っていた疑問について解決の方向性が見えたように思います。</li> <li>○テーマについて教育施設は勿論のこと、様々なレベルの小・中・高・大学と視察できれば、なお有難いと感じた。全体的に満足できる内容で感謝いたします。</li> <li>○学校訪問については、もう少し長い時間滞在し、生徒や教師と話ができる時間がもっと欲しいと感じました。</li> <li>○シニアアドバイザーを中心に、日本とイギリスのキャリア教育について十分学ぶことができ、大変すばらしい研修であった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</li> <li>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</li> <li>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：小学校英語）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	6	1	0	0
		68.2	27.3	4.5	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○学校訪問の時間がもう少し長ければ、子どもたちと交流できたり、様子がよりつかめたりするのではないかと思います。</p> <p>○現地の学校に実際に行って、授業を見せていただくのが大変勉強になりました。また、時間をとって質問等をさせていただくことができ、現場の声を聞くことができ良かったです。</p> <p>○今回は小学校の英語ということで、学校訪問は小学校だけであったが、実際に訪問してみると、「中学校との連携はどうなっているのか」「高校はどうか」ということが気になった。できれば、小学校だけでなく中学校も訪問すると、さらに研修は深まると感じた。</p> <p>○時間的に余裕があるので、もう少し研修・見学地が多くても良いかなと思います。しかし余裕があるからこそ、他のメンバーといろいろな課題について話し合うことができたかもしれません。研修を通じて知り合えた仲間が一番の財産だと思います。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1：国語力・読解力）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	26	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	21	4	0	0	0
		84.0	16.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○今回から課題別の派遣団になったので、団員が目的意識を明確にして研修することができ、充実した研修であった。特にシニアアドバイザーの先生の指導の下に訪問先も決定したので、内容も密度の濃いものとなった。</p> <p>○事前にイギリスの国語教育事情に関する本を予備知識として読んでいきましたが、本を読んでいたことと実際の視察先での調査（質疑応答）での違いを感じ、やはり現地に来て、実際に自分で体験することの価値を強く感じました。もちろん数日間の中の体験ですので、つかみきれないことの方が数多く残っていますが、これを帰国後の自分の課題として、実践にうつしていきたいと考えています。また、同じ団の先生方と交流し、国語教育に関することや教師としての姿勢等、さまざまな面で大きな刺激を得ることができ、これからの自分の教師としての取り組みに生かさなければと考えます。</p> <p>○学校訪問はとても具体的な研修の場になったが、もっと相手校の先生と話し合う時間があるとよかった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり(137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-2：国語力・読解力）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	16	1	0	0	1
		94.1	5.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○シニアアドバイザーに同行していただいたことで、必要な指導助言をタイムリーにさせていただくことができ大変良かった。</p> <p>○海外に実際に行き、その現場を自分の目で見ることにより、日本の教育システムのすばらしさや弱点についても見えてきて、本当に良い研修ができた。</p> <p>○訪問先は先進のものを学ぶということで、代表的学校が選ばれているのだろうが、一般的なクラスの学校も一校含まれているとよい。</p> <p>○もう少しゆっくり見学、意見交換の時間が欲しかった。</p> <p>○事後研修会では、積極的に課題意識を持って取り組み有意義であった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-3：国語力・読解力）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	27	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	22	2	0	0	0
		91.7	8.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○小学校を3校訪問できたのはよかったが、中・高の訪問が施設見学のみだったのが残念でした。</p> <p>○教育課題に基づいたテーマを明確にしての研修だった点（アドバイザーの先生がいてくださったことや訪問先の選定も含めて）も、焦点化されてよかったです。可能なら、現地の先生方との交流会や子どもたちと触れ合う時間が持てればと思います。</p> <p>○長期の研修で、しかも教育関連の施設を訪問し説明を聞くことは、個人の旅行ではできません。今回の研修では団としてのテーマに加え、個人で調べたいことも学ぶことができました。また、他県の先生方や大学の方などと、教育について語り合い、よい仲間ができました。教育についても学べましたが、その他の財産も得ることができたと思っています。</p> <p>○現地での学校訪問では、日頃子供たちと接している先生方と意見交換をすることが多く、その成果を日本の子供たちに返すことができると思う。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。（1.0日→1.5日）</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1：伝統・文化の教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)					12日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	23	95.8	1	4.2	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○学校訪問では先生方や学生達と話し合いの場がもてたことにより、教育に対する北米の現状や先生方の声を直接お聞きすることができた点がとても有意義でした。</p> <p>○アメリカの幼稚園から大学までの学校や美術館等の教育文化施設を訪問し、アメリカの多民族教育や文化教育について研修することができ、大変有意義な研修となりました。</p> <p>○学校訪問について、小・中・高・大と全ての校種を見ることができ大変有意義でした。</p> <p>○アメリカ派遣の場合、「伝統・文化の教育」の視点からは東部と西部の地域の比較もしてみたかった。</p> <p>○個人では決して見ることで見えない授業風景等を見ることができ、今後の参考となった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2：伝統・文化の教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)					12日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	13	5	1	0	0
		68.4	26.3	5.3	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○少し学校訪問数が少なかったように思えるが、研修全体を通して考えるとこのテーマについて結論を得ることができたし、自分なりの解釈をすることができた。</p> <p>○公立の学校が1校訪問できなくなってしまったことが残念でした。伝統文化の教育といったテーマで美術館でのレクチャーは大変有意義でしたが、やはり教師なのでもっと学校での教育に関わるお話を聞くことができたらという思いがありました。</p> <p>○現地の児童・生徒と触れ合うチャンスがもっと欲しかった。</p> <p>○2カ所を訪問したが、それぞれを比較でき研修を深めることができた。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-3：伝統・文化の教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11	6	0	0	0
		64.7	35.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○訪問先機関の受け入れ体制は十分であり、対応や説明もとてもいいであった。訪問先機関でもう少し調査してみたかったが、移動時間等の関係で、訪問先機関で長時間を費やすことはできなかった。できれば訪問先機関での時間を増やしてほしい。</p> <p>○訪問した学校・保育園が学校行事の関係で、自分たちが見たかった授業の様子をあまり参観できなかったことが非常に残念でした。</p> <p>○日本人補習学校を訪問したことで、日本人の目から見たスウェーデン教育についての話を聞くことができ有意義だった。</p> <p>○異文化に触れ、その国の教育事情を生々の声で聞くことができたことは大変貴重な経験であった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-1：心身の健康教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	22	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	14	3	0	0	0
		82.4	17.6	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○テーマに基づき、非常に充実したプログラムであったと思います。ただ、訪問先によっては質問の時間等に差があり、用意した内容を十分に確認できないことがありました。</p> <p>○とても有意義な研修ができました。他県の先生方とのつながりができたことも大きな収穫です。</p> <p>○今回の研修では、体育教育を含め学ぶことが多かったが、特別支援教育についてももう少し深く調査できるとよかった。</p> <p>○時間にゆとりがあれば、現地で研修成果の情報交換し、情報の共有化ができたと思う。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-2：心身の健康教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				12日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	8	0	0	0
		65.2	34.8	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○コペンハーゲンの学校ばかりでなく、オーデンセの学校も見せていただき大変勉強になりました。同じ国でもいろいろな面で異なることがわかりよかったです。お手本になるようなすばらしい学校ばかりでなく、移民が多く教育の大変なオーデンセの国民学校を研修させていただき大変参考になりました。</p> <p>○シニアアドバイザーの先生の助言が一分野に偏っていたような気がしました。</p> <p>○事前・事後ともに丁寧な指導・内容があり、海外研修期間中もちろん、大変有意義な研修となりました。</p> <p>○日本での教育課題を解決するため、海外の先進的な取り組みについて研修し、実践に役立てることは大変有意義なことだと思う。</p> <p>○海外の教育について、資料や書類のみでは読み取れない教育現場の実情、教職員の対応や考えについて等、実際に現地へ赴くことにより得られたものが大きかった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (G-1:生徒指導、在り方・生き方指導)							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	(137ページ参照)				10日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開催場所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	18	4	0	0	0
		81.8	18.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○シニアアドバイザーからの講義を事前に受けて概要をつかみ、研修に臨むことができた。また、シニアアドバイザーからの案内で、今回の研修につながるピアサポート学会の研修に参加し事前に内容に少しふれることもできたので、帰国して内容を整理していく上で理解の手助けとなった。</li> <li>○海外派遣というせっかくの機会であるので、学校だけでなく教育委員会など公的な機関との意見交換の機会もほしかった。</li> <li>○事前研修で予備知識をしっかりとって研修に臨め、研修でのポイントもはっきりしていた。また、ワークショップによる体験を通じた活動は、より具体的に内容が実感でき良かった。</li> <li>○他県の先生との情報交換及びネットワークを広げることができ、これからの教育活動に役立てていきたいと思えます。</li> <li>○参加者の話し合いの時間を海外での研修中にももっと設けてもらいたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</li> <li>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</li> <li>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (G-2:生徒指導、在り方・生き方指導)						
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開催期日	(137ページ参照)			11日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	20人	参加率	※
開催場所	(137ページ参照)						

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	15	93.8	1	6.3	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○今回の海外研修プログラムは、団ごとにテーマを設ける方法であったので、事前研修・海外研修・事後研修と一貫してそのテーマ追求のための研修ができ、単に個人テーマではない良さがありました。研修を始める前の自分自身と研修終了後の自分自身を比べた時、充実感とともに研修で得た知識、それから学び取った事柄を持っていることに大きな成果を感じている。</p> <p>○訪問先での教育機関では、どの訪問先でも数多くの資料によるプレゼンテーションがあり、十分な研修ができた。</p> <p>○訪問先の学校がモデル校や比較的裕福な地域の学校ばかりだったので、一般的な学校も見てみたかった。</p> <p>○オーストラリアの学校制度が日本人にとって分かりにくいものだったが、じっくり研修できたため、はっきりとイメージできるようになった。そのため、プラス面マイナス面の比較ができ、日本にとっても取り入れることができそうなものがたくさんあった。</p> <p>○事後研修での研修成果還元のためのグループワークはとても有意義でした。小グループで話す中で今後の実践につながる貴重なお話をたくさんいただきました。とてもよい企画でした。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (G-3:生徒指導、在り方・生き方指導)				
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ				
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。				
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者				
開 催 期 日	(137ページ参照)			12日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	23 人 参加率 ※
開 催 場 所	(137ページ参照)				

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17 81.0	4 19.0	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○シニアアドバイザーから、事前調査(班の調査テーマ、個人の研修テーマなどに関する情報収集など)の大切さ、視察訪問時の記録の取り方のコツなど、事前研修会以後も出発までの心構えとして貴重な助言をしていただき、団員全員が問題意識を持って視察訪問に望むことができた。シニアアドバイザーに感謝したい。</p> <p>○1つの訪問先でもう少しじっくりと調査できれば有意義であった。</p> <p>○事後研修では、グループ及び個人で、アメリカの教育や自校の問題について話し合え、とても良かったです。何度も話すことで、自分の中でもどんどん整理され、自校でも利用できること、自校が変わっていくべきことも深まりました。全国区、異校種での交流は、本当に有意義です。</p> <p>○研修本来の目的とは別に、現地の学校や教育機関を訪問することにより、アメリカの生徒指導や人格教育を肌で感じ取れたと思う。それも今後の教員生活のために役立てることが可能だと思った。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1：学校等間の連携）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	14	82.4	3	17.6	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○訪問先機関や学校等に事前に、訪問の主旨や質問事項を伝えておいたので、研修もスムーズに行うことができました。</p> <p>○訪問先の学校、機関すべて丁寧に対応してくださり、団の課題について理解した上で説明や返答をしていただきました。</p> <p>○団としてのテーマ（教育課題）をはっきりとをもって派遣するというコンセプトは、とても意義深く、派遣先での調査活動や団としての活動のまとまりに大変役立ったと感じます。目標を明確に持てたことで、個人研究のテーマを含めて、意欲的に調査し結果を出すことができたと思います。</p> <p>○自国を離れて、他の国の教育・文化に触れることはとても有意義だと改めて感じました。教員として視野が広がりました。</p> <p>○研修テーマは「学校等間の連携」でしたが、小・中・高の連携だけではなく、読解力の課題や地域と学校の連携など、多方面で大変勉強になりました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-2：学校等間の連携）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	(137ページ参照)				10日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開催場所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	7	7	0	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学校の比較ができるよう、各校種複数校訪問が望ましかった。実際（日本でいう小2校、中1校、高1校）→（小2校、中2校、高2校）となるようあと1日ほしい。</li> <li>○学校等間の連携という課題の解決のヒントが得られるかどうか不安であったが、日本の制度や向かおうとしている方向の正しさを改めて感じる事ができたし、ヒントも得られたように思う。</li> <li>○事後研修会は、団員それぞれがまとめたものを持ち寄り、成果について研修できたことは短時間ではありましたが意義がありました。また、シニアアドバイザーの先生の助言をいただけたことでよりよい方向性を考えることができました。</li> <li>○訪問先国・機関の選定や訪問内容については大いに満足しているが、派遣の途中でそれまでの調査の方向や内容の検討を行う時間が確保されていればと思いました。そうすれば、後半の訪問でそれらを生かしたのではないかと思います。</li> <li>○これまで知識としてだけ知っていたことを自分で見たり聞いたりすることで、深く実感することができた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</li> <li>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</li> <li>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。（1.0日→1.5日）</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1：理数系教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6	11	4	0	0
		28.6	52.4	19.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○ブルガリアの教員の方に直接会って話を聞くことができ、大変有意義であった。更に、教育省の方の話も興味深かった。子どもたちのもっている才能をできるだけ伸ばしてあげることが教育だと自信をもって話してくださった。教育制度等が異なる日本で、私たちができることは限られるが、情熱をもち続けたいと思える研修であった。</p> <p>○「海外の先進的取り組みを視察する」という意味では概ね有意義であったと思うが、理科の授業参観や理科教員との懇談がほとんどなかったことを考えると、理科教師としての海外研修は不満であったと言える。</p> <p>○派遣先での教員のストライキのため、実際の授業を参観できませんでした。</p> <p>○事後研修会では研修成果還元の方法や内容について、いろいろな考えを出し合うことができよかったと思います。自分自身の実践に生かしていきたいと思います。グループごとに討議することで、いろいろな方法が出ました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2：理数系教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11	6	0	0	0
		64.7	35.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○授業参観を1時間通して行い、全体研修の中で学校概要などじっくりと伺える時間を確保できるようにするために、1日1校ぐらいのゆとりのある日程を組むことができると、さらに深く学校の様子を知ることができたと思います。</p> <p>○シニアアドバイザーの先生からは、事前研修から海外派遣研修の間、アメリカの理数教育の実情からアメリカの生活の細かな実情まで詳しく教えていただくことができました。</p> <p>○書籍やインターネット等で情報を得ることはできますが、やはり実際に自分の目で耳で学ぶことに勝るものはないと強く感じました。またグループで研修することにより、その場で討論することもでき、大変有意義でした。</p> <p>○現地を訪れ、理数系教育に力を入れている小・中・高各校を訪問し児童生徒に確かな力をつけるための思い切った方策や手だてをとって教育に取り組んでいる姿が見られとても参考になりました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-3：理数系教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	5	1	0	0
		66.7	27.8	5.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○異なる校種タイプを1日1校ペースで訪問できたことは、調査上、見る観点、質問事項を精選でき有意義であった。従来の研修と異なる自覚を持って団員が参加できたので、これは事前説明で趣旨が理解してもらえた成果と思う。</p> <p>○フィンランドの秋休みの時間に当たり、直前に日程変更がなされた。</p> <p>○限られた条件の中ではありましたが、大変すばらしい研修でした。ただ少し残念だったのは、“理数系教育”がテーマではあったのですが、シニアアドバイザーの先生のご専門の関係もあって、かなり数学のイメージが強い研修設定になっていたことです。理科の授業ももう少し見てみたいと思いました。</p> <p>○今回のフィンランドは、PISAの結果後、いくつもの視察団が行っているのを受け入れる方も慣れすぎているかもしれない。もう少し近隣の国も含めて移動しての視察を入れてほしかった。</p> <p>○事後研修会は、団長先生、シニアアドバイザーの先生から、適切な情報をいただいて、研修がより深まりました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1：安全に関する教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	(137ページ参照)				11日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開 催 場 所	(137ページ参照)							

※全体計画人数500人、受講者数539人、参加率107.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6	10	0	0	0
		37.5	62.5	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○海外派遣研修は、海外の先進的な取組を学ぶ良い機会であるとともに、短い時間であるが、1つの目的で集合した団員が心を一つにして行動でき、団員につながりができたことは大変有意義であったと考える。</p> <p>○海外の教育事情について、実感として把握することができ、将来の教育のあり方を模索している自分にとって非常に有意義な研修でした。同時に、日本の教育制度の素晴らしさや良さを再認識することもできました。</p> <p>○事後研修会では、研修内容を再度理解し、還元方法について協議をしたことによって自分だけでは気づかなかった視点を見出すことができました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○研修に必要な経費の低廉化を進めることとする。</p> <p>○研修プログラム内容について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。</p> <p>○事前研修会における協議時間等の延長を行うこととする。(1.0日→1.5日)</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (137ページ参照)

## 平成19年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

テーマ等	派遣団名	参加人数	派遣国	派遣期間	事前研修会	事後研修会
学校評価と 学校運営	A-1	24	イギリス	11/5 ~ 11/15	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
	A-2	22	オランダ、 ドイツ	10/30 ~ 11/10	名古屋 8/9,10	名古屋 2/14,15
	A-3	24	アメリカ	11/5 ~ 11/16	名古屋 8/9,10	名古屋 1/24,25
	A-4	22	アメリカ	10/16 ~ 10/27	福岡 8/20,21	福岡 2/14,15
キャリア教育	B-1	25	デンマーク、 フィンランド	9/9 ~ 9/20	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
	B-2	23	イギリス	9/22 ~ 10/1	福岡 8/20,21	福岡 2/14,15
小学校英語	C-1	25	スペイン	9/24 ~ 10/5	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
国語力・読解力	D-1	26	イギリス	10/11 ~ 10/22	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
	D-2	19	カナダ	11/14 ~ 11/25	松山 8/7	愛媛 2/8
	D-3	27	フィンランド	11/13 ~ 11/24	福岡 8/20,21	福岡 2/14,15
伝統・文化 の教育	E-1	25	アメリカ	9/20 ~ 10/1	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
	E-2	24	イギリス	11/13 ~ 11/24	名古屋 8/9,10	名古屋 1/24,25
	E-3	20	スウェーデン	11/11 ~ 11/22	福岡 8/20,21	福岡 2/27,28
心身の 健康教育	F-1	22	ニュージーランド	9/10 ~ 9/21	渋谷 8/2,3	つくば 2/14,15
	F-2	25	デンマーク	10/22 ~ 11/2	八重洲 8/27,28	つくば 1/30,31
生徒指導、 在り方・生き方指導	G-1	24	イギリス	11/13 ~ 11/22	渋谷 8/2,3	つくば 1/17,18
	G-2	20	オーストラリア	9/19 ~ 9/29	名古屋 8/9,10	名古屋 1/31,2/1
	G-3	23	アメリカ	10/29 ~ 11/9	福岡 8/20,21	福岡 2/14,15
学校等間の 連携	H-1	20	ニュージーランド	10/13 ~ 10/23	渋谷 8/2,3	つくば 2/12,13
	H-2	16	アメリカ	10/16 ~ 10/25	名古屋 8/9,10	名古屋 2/7,8
理数系教育	I-1	24	ブルガリア	10/21 ~ 10/31	渋谷 8/2,3	つくば 1/31,2/1
	I-2	19	アメリカ	9/20 ~ 9/30	名古屋 8/9,10	名古屋 2/7,8
	I-3	21	フィンランド	10/10 ~ 10/20	福岡 8/20,21	福岡 2/14,15
安全に関する 教育	J-1	19	ニュージーランド	10/13 ~ 10/23	渋谷 8/2,3	つくば 1/24,25
計	24団	539				

## I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員。						
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）					-	
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	88	参加率	88.0%
開 催 場 所	岩手大学 他（次のページのとおり）						

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	56	74.7	19	25.3	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○研究内容そのものだけでなく、学校との連携により、若い先生へのアドバイスの仕方、客観的に生徒の見方、指導のあり方を考えるいい機会になった。</p> <p>○専門的な知識や実験等経験できる事は有意義である。</p> <p>○実際に現場に戻って授業を行うのに、今までとは違った見方や気づかなかった観点到目を向けて指導に当たることができるようになった。</p> <p>○研修先との結びつきが、研究後も持続し、教科指導に役立てている。</p> <p>○豊富な書物、最新の情報が入手できる環境の中で、じっくりと取り組むことができた。また、新たなヒューマンネットワークを築くことができた。</p> <p>○技術は日々進化を続けているが、学校現場にいと新しい技術や知識の習得が難しい現状がある。しかし、今回の研究で授業に活用できる技術をはじめ、大学生とともに研究する中で改めて自分の生徒に身につけさせるべき力を知ることができた。</p> <p>○現役の最高の技能を持った方々に指導してもらった。本を読んで得る知識とは異なり、体で覚える感覚を知ることができた。自分が指導する側になってもこの経験が活かせるように思う。</p> <p>○自らの技術力向上の取組を生徒の技術向上の手法として活かすことができる。研修先の先生方の指導方法をアレンジし、生徒の指導に活かすことが可能。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

○実地経費の1/2について派遣者負担としている。
--------------------------

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 産業・理科教育教員派遣研修 受講者一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	派遣先	派遣時期	期間
1	岩手県	1	岩手県立紫波総合高等学校	国立大学法人 岩手大学	H19.7.1 ~ H19.9.28	3ヶ月
2	宮城県	3	富谷町立成田中学校	国立大学法人 東北大学	H19.9.1 ~ H20.2.29	6ヶ月
3			宮城県石巻工業高等学校	国立大学法人 東北大学	H19.9.1 ~ H20.2.29	6ヶ月
4			宮城県白石工業高等学校	国立大学法人 東北大学	H19.9.1 ~ H20.2.29	6ヶ月
5	秋田県	2	横手市立増田中学校	国立大学法人 秋田大学	H19.5.1 ~ H19.7.31	3ヶ月
6			能代市立能代東中学校	国立大学法人 秋田大学	H19.7.1 ~ H19.12.31	6ヶ月
7	福島県	6	福島県立塙工業高等学校	国立大学法人 東京工業大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
8			福島県立岩瀬農業高等学校	独立行政法人 家畜改良センター	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
9			福島県立会津工業高等学校	公立大学法人 会津大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
10			福島県立喜多方高等学校	国立大学法人 福島大学	H19.7.1 ~ H19.12.27	6ヶ月
11			福島県立岩瀬農業高等学校	国立大学法人 福島大学	H19.7.1 ~ H19.12.28	6ヶ月
12			福島県郡山市立大槻中学校	国立大学法人 福島大学	H19.7.2 ~ H19.12.27	6ヶ月
13	栃木県	17	矢板市立東小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
14			矢板市立片岡中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
15			那須塩原市立共栄小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
16			鹿沼市立北犬飼中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
17			小山市立間々田東小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
18			那須塩原市日新中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
19			下野市立南河内中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
20			壬生町立藤井小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
21			さくら市立氏家中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
22			栃木県立鹿沼東高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
23			栃木県立佐野女子高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
24			栃木県立鹿沼農業高等学校	株式会社清水造園	H20.1.1 ~ H20.3.31	3ヶ月
25			栃木県立宇都宮工業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
26			栃木県立栃木商業高等学校	学校法人 大原学園	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
27			栃木県立栃木商業高等学校	大原簿記専門学校	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
28			栃木県立小山城南高等学校	白鷗大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
29			栃木県立真岡北陵高等学校	宇都宮短期大学	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
30	群馬県	2	群馬県立前橋商業高等学校	群馬社会福祉大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
31			群馬県立太田高等養護学校	群馬社会福祉大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
32	神奈川県	3	神奈川県立平塚農業高等学校	東京農業大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
33			神奈川県立神奈川総合産業高等学校	国立大学法人 東京工業大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
34			神奈川県立大清水高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
35	石川県	2	石川県立金沢商業高等学校	金沢星稷大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
36			石川県立羽咋工業高等学校	金沢学院大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
37	長野県	3	長野県木曾高等学校	国立大学法人 信州大学	H19.5.1 ~ H20.3.31	11ヶ月
38			長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H19.5.1 ~ H20.3.31	11ヶ月
39			長野県松本工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H19.5.1 ~ H20.2.29	10ヶ月
40	愛知県	5	愛知県立渥美農業高等学校	愛知みなみ農業協同組合	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
41			愛知県立春日井商業高等学校	ブレーションコンピューター株式会社	H19.4.16 ~ H19.9.30	6ヶ月
42			愛知県立緑丘商業高等学校	愛知学院大学	H19.9.1 ~ H19.11.30	3ヶ月
43			愛知県立刈谷工業高等学校	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	H19.5.7 ~ H19.7.31	3ヶ月
44			愛知県立熱田高等学校	国立大学法人 名古屋大学	H19.6.1 ~ H19.11.30	6ヶ月
45	三重県	1	三重県立四日市商業高等学校	国立大学法人 三重大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月

46	大阪府	1	大阪府立西野田工科高等学校	国立大学法人 京都大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
47	奈良県	1	奈良市立一条高等学校	国立大学法人 奈良女子大学	H19.5.1 ~ H20.3.31	11ヶ月
48	和歌山県	1	和歌山県神島高等学校	国立大学法人 和歌山大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
49	島根県	2	島根県立出雲商業高等学校	国立大学法人 島根大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
50			島根県立益田工業高等学校	国立大学法人 島根大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
51	岡山県	3	岡山県立勝間田高等学校	国立大学法人 岡山大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
52			岡山県立津山工業高等学校	国立大学法人 岡山大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
53			岡山県立岡山東商業高等学校	国立大学法人 岡山大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
54	山口県	5	山口市立大殿中学校	国立大学法人 山口大学	H20.1.4 ~ H20.3.31	3ヶ月
55			山口県立宇部養護学校	国立大学法人 山口大学	H19.11.1 ~ H20.1.31	3ヶ月
56			山口県立田布施農業高等学校大島分校	国立大学法人 山口大学	H19.5.1 ~ H19.7.31	3ヶ月
57			山口県立萩商業高等学校	国立大学法人 山口大学	H19.10.1 ~ H19.12.28	3ヶ月
58			山口県宇部市立藤山中学校	有限会社 鳳山堂	H19.8.1 ~ H19.10.31	3ヶ月
59	香川県	2	香川県立飯山高等学校	香川短期大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
60			香川県立坂出商業高等学校	徳島文理大学	H19.7.1 ~ H19.9.30	3ヶ月
61	高知県	4	高知県立伊野商業高等学校	学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス専門学校	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
62			高知県立伊野商業高等学校	学校法人日翔学園 高知開成専門学校	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
63			高知県立高知農業高等学校	富山県立中央植物園 (財団法人 花と緑の銀行)	H19.4.1 ~ H19.9.30	6ヶ月
64			高知県立高知農業高等学校	高知県農業技術センター	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
65	福岡県	2	福岡県立浮羽究真館 高等学校	香蘭女子短期大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
66			福岡県立東鷹高等学校	国立大学法人 九州大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
67	佐賀県	5	佐賀県立佐賀農業高等学校	中村調理製菓専門学校	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
68			佐賀県立高志館高等学校	国立大学法人 佐賀大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
69			佐賀県立鳥栖工業高等学校	独立行政法人 産業技術総合研究所	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
70			佐賀県立有田工業高等学校	国立大学法人 佐賀大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
71			上峰町立上峰中学校	国立大学法人 佐賀大学	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
72	熊本県	5	美里町立砥用中学校	国立大学法人 熊本大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
73			菊池市立七城小学校	国立大学法人 熊本大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
74			熊本県立矢部高等学校	九州東海大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
75			熊本県立鹿本農業高等学校	学校法人 常盤学園 常盤家政調理師専門学校	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
76			熊本県立玉名工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	H19.10.1 ~ H20.3.31	6ヶ月
77	大分県	2	中津市大幡小学校	国立大学法人 九州工業大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
78			大分県立佐伯豊南高等学校	国立大学法人 大分大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
79	宮崎県	1	宮崎県立都城工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H19.10.1 ~ H19.12.31	3ヶ月
80	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H19.5.1 ~ H19.12.31	8ヶ月
81	横浜市	7	横浜市立鶴見工業高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
82			横浜市立南瀬谷中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
83			横浜市立仲尾台中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
84			横浜市本牧南小学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
85			横浜市立新吉田小学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
86			横浜市立浜中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
87			横浜市立朝比奈小学校	国立大学法人 横浜国立大学	H19.6.2 ~ H19.12.8	7ヶ月
88	大阪市	1	大阪市立市岡商業高等学校	関西大学	H19.4.1 ~ H20.3.31	12ヶ月
合計		88				

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-1） 生物活用に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	東京都立農産高等学校							

\* 全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	15	83.3	3	16.7	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○来年度より本校で導入予定である「生物活用」について大変勉強になった。特にインタープリテーション法や園芸療法、動物の活用において参考になった。</p> <p>○生産主体の授業が多かったので、生産以外の部分の取組みを知ることができ、良かった。</p> <p>○「生物活用」という科目の奥深さをしっかり認識できました。</p> <p>○「生物活用」についての知識、交流プログラムの作業分析や、実施までの方法等、大変勉強になった。また評価方法についても、今後、実際に「生物活用」を授業展開するにあたり参考になった。</p> <p>○交流活動は以前から行われていましたが、生物活用の授業として交流活動を実施する上での目的やプログラム、評価等理解できました。このような授業計画、評価等は生物活用の授業で根幹となるもので多くの先生方が知る必要があると感じました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 全国農業高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日 (月)	受付：集合	開講式 オリエンテーション	講義・生物 活用 の意 義と動向	昼休み	自己紹介・交流プログラム紹介	生物活用 ・事例発表	諸 連 絡		
31日 (火)	交流活動の進め方・演習 (活動開拓・目標設定 ・準備実施・反省)	講義・作 業の分析 と効果	講義と演習 ファシリテーション 法とは	昼休み	講義 対象者の 評価	事例発表イン タープリテー ション法	諸 連 絡		
8月1日 (水)	幼児・児童 との園芸活 動	高齢者・障 害者 と行 う園芸	高齢者・障 害者 に 対 す る 園 芸 シ ュ ミ レ ー シ ョ ン	昼休み	高齢者・障 害者 に 対 す る 園 芸 シ ュ ミ レ ー シ ョ ン	プロ グ ラ ミ ン グ 演 習	諸 連 絡		
2日 (木)	生徒の評価 ・観 点 別 評 価	生物活用 の 評 価 の 具 体 例	移動動物 園・動物 の活用	昼休み	バイオセラ ピーの今後 の可能性	障害者の 農業就労 の流れ	プロ グ ラ ミ ン グ 演 習 発 表	諸 連 絡	
3日 (金)	生物活用・新しい授業 展開の可能性	閉講式							

実施会場：東京都立農産高等学校

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-2） バイオテクノロジーに関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	13	人	参加率	52.0%
開 催 場 所	農林水産省農林水産技術会議室事務局筑波農林交流センター							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10	2	0	0	0
		76.9	15.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○基本的な知識に限らず、関連した多くの知識を得ることができました。生徒の興味・関心を引き出す良い授業ができるように気を引き締めて頑張りたいと思います。</p> <p>○私にとってはとても難しい内容だったが、大学生になった気持ちで、講義や実験を受けさせていただいた。指導者の方の丁寧な説明で、今までわからなかった事が理解でき嬉しかった。また、多くの受講者と様々な交流が出来たことは大きな収穫でもある。今回の研修内容を少しでも現場で生かしていきたい。</p> <p>○現場に戻り、すぐに実践しなければならぬ状況にありましたので、大変助かりました。どのような質問にも即、わかりやすく対応していただきまして、ありがとうございました。</p> <p>○有意義な研修を受けることができました。5日間ありがとうございました。私自身の農業教育の取り組む方向性が見えることができました。</p> <p>○実験実習と講義の割合がちょうどよく有意義でした。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 (財)バイオインダストリー協会

日 時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7/30(月)	受付 JBA 島津理化 0.5h	開講式 財団法人バイオインダストリー協会 堀 友繁 1.5h	講演 (バイオテクノロジーを巡る動向) 自己紹介 JBA 島津理化 0.5h	昼休み	バイオテクノロジーに関する講義				
					講義 1 (演題: BSEについて) 独立行政法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 動物衛生研究所 毛利資郎氏 2h	講義 2 (演題: 鳥インフルエンザについて) 独立行政法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 動物衛生研究所 塚本健司氏 2h			
7/31(火)	講義 3 DNA抽出 講師 (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大氏 1h	実習 1 DNA抽出 指導者 同左 2h		昼休み	講義 4 遺伝子組換え 指導者 同左 2h	実習 2 遺伝子組換え 指導者 同左 1h	講義 5 PCR 指導者 同左 1h	実習 3 遺伝子組換え 指導者 同左 LB培地作製 1h	
		実習 4 DNA抽出/DNA乾燥/DNA溶解 2h							
8/1(水)	講義 6 電気泳動 講師 同左 1h	実習 5 遺伝子組換え 講師 (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大氏 大腸菌の形質転換 3h		昼休み	講義 5 PCR 指導者 同左 1h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	講義 4 DNA抽出/DNA濃度測定/DNA濃度調整/PCR 3h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	
		実習 6 電気泳動 講師 同左 1h							
8/2(木)	講義 6 電気泳動 講師 同左 1h	実習 6 電気泳動 講師 同左 2h		昼休み	講義 5 PCR 指導者 同左 1h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	講義 4 DNA抽出/DNA濃度測定/DNA濃度調整/PCR 3h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	
		施設見学 農林団地内							
8/3(金)	動物衛生研究所、リサーチギャラリー 他 3h	情報交換会及び質疑応答 講演 閉 講 式 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査 官 添野龍雄氏 2h		昼休み	講義 5 PCR 指導者 同左 1h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	講義 4 DNA抽出/DNA濃度測定/DNA濃度調整/PCR 3h	実習 5 PCR 指導者 同左 2h	
		講演 閉 講 式 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査 官 添野龍雄氏 2h							

実施会場: 農林水産省農林水産技術会議事務局筑波農林交流センター

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B－1） ものづくりに関する講義及び実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月24日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	27	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	ものづくり大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答				
人数(人)	割合(%)	17	63.0	10	37.0	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○ものづくり大学の各分野の先生方は企業や研究所等での経験が豊富なスペシャリストの方々に講義等の内容はとても刺激を受けるものばかりでした。今回は機械系の分野に関する研修を積むことができ、大変参考になりました。終わってみれば5日間はあっという間でしたが、この研修の成果を現場で活かせるよう取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>○学科の枠にとらわれず、実際に現場・実習に結びつけた講習会であったため、大変有意義な研修となった。交流を深められたことで他校の状況など知ることが出来た。今後、この研修をどの様に生かしていくかを考えていきたい。</p> <p>○今回、初めてこの研修に参加させて頂き、この研修の意義を深々と体験することができました。まず、ものづくり大学のすばらしい施設と熱心な先生方、そして、熱心にもものづくりに取り組む学生さんたち、また、技能検定に取り組む社会人の方々、まさしく、「ものづくりの拠点」としての役割を十二分に発揮されているという感想です。私も、学校に帰り、今回の研修報告をまとめて、県教委並びに校長に報告したいと存じます。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

教科名・研修番号【工業：B-1】

団体名 ものつくり大学

9:30	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	15:00	17:00	17:30	19:30
8月20日(月)	受付 会場 A2010	開講式	講演「工業教育の現状と課題」 文科省 池守 滋	休憩	休憩	「ドラッカー経営思想の神髄」 講演 (上田名誉教授) 「A2010」	「新時代のものづくりに求められる人物の育成」 講義 (宮本) 「A2010」	休憩	講師と学生との情報交換会 (学生会館)
8月21日(火)	製造学科施設見学 (市川・藤澤・高橋)	「先端製造技術の概論」 講義 (神谷教務長)	「A2010」	休憩	休憩	「創造プロジェクト授業の狙いと成果」 講義 (東江) 「A2010」	同左 学生発表 「A2010」		
8月22日(水)	①ものづくりのためのCAE技術と演習 (野村)	「M2090」	「M2070」	休憩	休憩	⑤最近の制御理論及び実習 (ビチャイ) 「M2072」			
	②最新CAD/CAMの理論と実習 (藤澤)	「M2070」	「M2070」	休憩	休憩	⑥塑性加工の理論及び実習 (市川) 「M1020」			
	③高度計測理論及び実習 (高橋)	「M1090」	「M1090」	休憩	休憩	⑦ホログラムの理論及び実習 (平谷 定員5人) 「M2010」			
	④数値制御プログラミングの基礎と炭酸ガスレーザー加工演習 (東江)	「M1060」	「M1060」	休憩	休憩	同左 「M2010」			
8月23日(木)	建設学科施設見学 (飛内・坂口・澤本)	「建築物の新しい構工法」 講義 (坂口学科長)	「A2010」	休憩	休憩	「高強度・高流動コンクリートの技術」 講義・実習 (澤本・大塚) 「A2010 B1090 C1050」			
8月24日(金)	「歴史的建造物の保存・技術」 講義 (横山)	「A2010」	「A2010」	休憩	閉講式	「建設先端材料の利用技術」 講義 (北條)			

\* 22日については、午前と午後のコースを希望により組み合わせてクラス分けを行い実施する。\* 研修実施場所 ものつくり大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B－2） 知財教育に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	20	人	参加率	66.7%
開 催 場 所	社団法人 発明協会							

\* 全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	5	0	0	1
		70.6	29.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○全体として、国の動向や具体的実践例など知ることができ、とても有意義な研修でした。今後、是非、この研修を継続して欲しいと思います。私もこの研修で学んだことを県、学校に広げていきたいと思ひます。</p> <p>○「特許」といえば、企業の開発担当やごく一部の人が日々考えて生み出す特別なものというイメージがありました。しかし今回の研修で「知財教育」という観点から勉強させていただいて、日本の工業のみならず、日本国民が今後世界の中でこれまでと同様、又それ以上に幸せな生活を送るためにいかに大切なものかということを考えさせられました。</p> <p>○とても勉強になった。国の政策である「知財立国日本」であるので、今後、授業で取り組んでいきたいと思ひ。</p> <p>○知的財産については、校内で全く、触れた事がなかったので、工業教育において、知財教育の重要性を感じられた。今後、研修内容を授業で実践していきたい。また、他県の先生とのコミュニケーションをとり活用させていきたい。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度「産業・情報技術等指導者養成研修」

日 程 表

(工業：B-2)

(敬称略)

講義日		時間	科 目	講 師	
月	日 (曜日)			氏 名	肩 書
8月	6日 (月)	9:30~10:00	受付	-	-
		10:00~10:30	開講式・オリエンテーション	池守 滋	文部科学省 初等中等教育局 参事官付 教科調査官
		10:30~11:30	工業高校の知財教育について	池守 滋	文部科学省 初等中等教育局 参事官付 教科調査官
		11:30~12:30	知財立国における 知財人材教育のあり方	中川 健朗	内閣官房知的財産戦略 推進事務局 参事官
		13:30~16:30	日常生活における知財とその権利	田中 義敏	東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 技術経営専攻 准教授
	7日 (火)	9:30~12:30	工業高校における成功事例	内藤 善文	愛媛県立今治工業高等学校 教諭
		13:30~16:30	工業高校での知財教育の指導方法	内藤 善文	愛媛県立今治工業高等学校 教諭
	8日 (水)	9:30~12:30	発明発掘の方法	太田 公廣	埼玉大学 総合研究機構 地域共同 研究センター 教授
				角田 敦	埼玉大学 総合研究機構 地域共同 研究センター 客員教授
		13:30~16:30	企業と知的財産	徳田 佳昭	パナソニックモバイルコミュニケー ションズ(株) 知的財産権センター 所長
	9日 (木)	9:30~12:30	特許庁見学		
		13:30~16:30	研究討議	籠原 裕明	福岡県立小倉工業高等学校 校長
	10日 (金)	9:30~12:30	研究討議 (発表とまとめ)	籠原 裕明	福岡県立小倉工業高等学校 校長
		13:30~14:00	閉講式	池守 滋	文部科学省 初等中等教育局 参事官付 教科調査官

(注) 講義時間

全日講義 ・ 午前9時30分~午後4時30分 (昼休み12時30分~1時30分)

(午前と午後に各々途中15分の休憩)

午前講義 ・ 午前9時30分~午後12時30分 (途中15分の休憩)

午後講義 ・ 午後1時30分~午後4時30分 (途中15分の休憩)

研修会場 社団法人 発明協会 7階研修ルーム

東京都港区虎ノ門2-9-14

TEL03-3502-5439

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業：C-1） 新商品開発と起業に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	45	人	参加率	112.5%
開 催 場 所	千葉商科大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	25	19	0	0	1
		56.8	43.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○多方面における分野の講師の方々に実践的な講話を聞け、大変刺激を受けました。授業で直接教える内容だけでなく、アンテナを広げて、情報を収集し、研修、研鑽を積む必要性を強く感じた5日間でした。研修期間中、大学内のパソコンを自由に使えたことは大変助かりました。</p> <p>○商品やマーケティングに関する研修では県レベルではほとんど実施されないため、大変有意義でしたし勉強になりました。</p> <p>○5日間、とても内容の濃い研修内容でした。商品開発するうえでの流通の視点、商品研究を実習を通して、そして実際の工場に見学にいき、その工程、そして起業教育、ユーザーに対してどうそれを生かした新商品を開発していくかと流れにそって研修を受けることができました。授業において学んだことをすぐにでも実践していきたいと強く思いました。</p> <p>○今から必要とされる探究型の教育活動を取り組ませていく際に、その導入として実際に使うことのできる実験実習を体験できたり、生徒に考えさせる授業の実践例を知ることができたのが大変有意義でした。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(商業, C-1)

貴団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日 (月)			受開 付講 式	(講義)「変革の 時代におけるビ ジネス教育」	昼休み	(講義) 「業態別小売業の成長が もたらす流通革新」	(講義) 商品開発の 演習課題説明		懇 親 会
7月31日 (火)		(実習) 「商品に関する実習」 ①、②、③		昼休み	(実習) 「商品に関する実習」 ②、③、①		(実習) 「商品に関する実習」 ③、①、②		
8月1日 (水)		(見学と講義) 「マブチモーター (株) における 商品開発とマーケティング」		昼休み 移動		(見学と講義) サッポロビール千葉工場			
8月2日 (木)	(講義) 「商業高校における起業家教育と ケースメソッドについて」			昼休み	(講義) 「ユーザーの声を活かした 商品企画の実践」				
8月3日 (金)		(講義) 「コーセーの ブランドマーケティング」		昼休み	意見交換会	閉 講 式			

実施会場： 千葉商科大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D－1） 沿岸域の環境保全に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	14	人	参加率	93.3%
開 催 場 所	国立大学法人 東京海洋大学							

※全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	3	10	0	0	1
		23.1	76.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○講義形式も必要であると思うが、もう少しフィールドワークがあってもよかったのではないかと感じた。（5日間の日数が確保できるのであれば、1日はフィールドワークでもよかった。）日頃接している人と海のつながりを別の面から見ることができ、遊魚等に対する意識が変わった気がする。</p> <p>○今年度から学校設定科目「フィッシング」を立ち上げ授業を行っている。授業展開をどのように行うべきか迷っていたが、良いヒントとなった。今後の授業に役立てたい。</p> <p>○海の釣り、内水面の釣りを問わず大変勉強になりました。</p> <p>○技術を身に付けることができる実習主体が良かったと思います。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号) 沿岸域の環境安全に関する講義と実習, 水産 D-1 団体名 社団法人 全日本釣り団体協議会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月6日 (月)	開講	オリエンテーション B, Q, S, H	制度と指導 範囲 A	昼休	歴史・文化	理論II 港湾海域 技術 B	理論I 用具と用品 C	気象・海象・安全	D
8月7日 (火)	理論II 淡水止水域 技術 E	理論II 淡水流水域 技術 F	理論II 擬餌技法 G	昼休	理論II 砂浜海域 技術 H	理論II 沖合い海域 技術 J	理論II	磯海域技術 K	
8月8日 (水)	関連法規 L	基礎知識 テスト A, Q, S, H	応用I 用品と環境 保全 Q	昼休	遊漁船の 現状と課題 L	記録保存 技術I M	記録保存技術II 実習 N(a, b)		
8月9日 (木)	応用II 擬餌技術実習 F, G (a, b)	応用III 擬餌技法 P	昼休	見 学	見 学 ↓ (環境対応製品の製造見学) (株) マルキュー工場 A, S, a, b				
8月10日 (金)	応用IV 沿岸域技術 R	行政指導 動向 S	(研究協議) 環境・安全について A, C, F, Q, R, S, H (b)	終了					

実施会場：東京海洋大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D-2） 魚病に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月23日（月）～平成19年7月27日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	15	人	受講者数	9	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	日本獣医生命科学大学							

\* 全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数 (人)	割合 (%)	7	1	1	0	0
		77.8	11.1	11.1	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○研修内容について、初心者も経験者も十把一絡げにやることは有益ではない。高いお金をかけて研修をするのだから、事前にアンケートを取るなどして受講者のニーズに合った研修を行って欲しい。</p> <p>○事前アンケート等で要望なども取り入れてはどうかと思います。多くの知見を得ることができた。大変勉強になった。</p> <p>○講義については最新の知見が得られ意義があった。</p> <p>○魚病を起こす前に環境面を整備する予防が大切であることを改めて考えさせられた。</p> <p>○水産用医薬品の取り扱いについて詳しく説明がなされ勉強になった。</p> <p>○真菌のことはあまり知識がなかったので意義があった。</p> <p>○コイヘルペスを例に日本における防疫等について考える機会となった。</p> <p>○他校の状況について話し合い大変勉強になった。</p> <p>○施設管理等について詳しい説明があり大変勉強となった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

委託団体名 全国水産高等学校長協会

水産 D-2

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月23日 (月)	受 付 開 講 式 所 管 事 項 説 明	(講義①) 魚の健康管理・検査	昼休み	(実習①) 魚病診断技術Ⅰ (採血・血球観察・解剖など)					
7月24日 (火)		(講義②) 水産用医薬品の使用について							
7月25日 (水)	(講義④) 淡水魚及び海水魚の病気	(研究協議) 水産高校の現場における魚病教育	昼休み	(実習④) 魚病診断技術Ⅲ (最近の分離培養)					
7月26日 (木)	(実習⑤) ミズカビの観察法Ⅱ								
7月27日 (金)	(見学)葛西水族園 水族館における魚病問題	閉講 式							

\* 7月27日 (金) 集合場所、集合時間 葛西水族園 9:15

実施場所 日本獣生命科学大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-1） フードビジネス及びファッションビジネス等に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	22	人	参加率	73.3%
開 催 場 所	家庭クラブ会館 ほか							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	4	0	0	0
		68.2	18.2	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○最も新しい内容を取り上げて頂き、こんなことが出来るのだと大変勉強になりました。この内容を今後どう生かすか考えて行きたいと思います。</p> <p>○5日間大変有意義な研修となりました。実際の現場の先生の発表や専門の講師による研修等、学校に戻り、すぐ授業に生かせる内容も多く、また世の中の新しい情報等も知ることができ、大変良かったと思います。このような研修にもっと多くの人が参加できるようなことを考えていただくと良いと思います。また、共同で実習する内容等があり、他県の先生方のコミュニケーションもでき、輪が広がったように思います。</p> <p>○専門科目を指導するうえで、特に現状を把握し指導していくためにとても有意義な研修でした。また、研修の講師の先生方もすばらしく興味・関心を引き出して下さる魅力ある先生方でした。5日間という長く思えた期間もあっという間に終了し、実習や演習という体験を通した研修は得るものがたくさんありました。いろいろありがとうございました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭 E-1)

全国高等学校長協会家庭部会

日 時	9:00	9:20	10:00	10:50	11:00	12:30	13:30	14:00	15:00	15:10	16:00	16:40	会 場	
8月6日 (月) 第1日目	受付	【開講式】 (講義) 「家庭科の動向」 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	休憩	(講義・演習Ⅰ) 「ファッションビジネス」 科目の指導方法の工夫 (事例発表) 岐阜県立大垣桜高等学校 教諭 柴田 幸美	昼休 み	(講義) 「ファッションビジネス」 指導方法の工夫 (事例発表) 三重県立相可高等学校 教諭 奥田 清子	休憩	(講義・演習Ⅱ) 「フードビジネス」の 指導方法の工夫 (事例発表) 三重県立相可高等学校 教諭 奥田 清子	15:00	15:10	(研究協議) 「専門性を深める 効果的な指導について」 (グループごとに協議) 文部科学省 教育課程調査官 望月 昌代	16:00	16:40	家庭クラブ 会館
8月7日 (火) 第2日目	(受付)	(講義) 「フードビジネス概論(1)」 講師 (株)食生活プランニング代表取締役 食育アカデミー校長 藤原 勝子	休憩	(講義) 「フードビジネス概論(2)」 講師 食生活プランニング代表取締役 食育アカデミー校長 藤原 勝子	昼休 み	(演習) 「惣菜ビジネスにおけるメニュー開発の実際」 講師 (株)食生活プランニング代表取締役 食育アカデミー校長 フードビジネス・コーディネーター 藤原 勝子 浅尾 貴子	15:00	(演習)	15:10	(演習)	16:00	16:40	家庭クラブ 会館	
8月8日 (水) 第3日目	(受付)	(実習) 「開発メニューの調理」 講師 (株)食生活プランニング代表取締役 食育アカデミー校長 フードビジネス・コーディネーター 藤原 勝子 浅尾 貴子	昼休 み	(実習)	15:00	(演習)	15:10	(演習)	16:00	16:40	千代田区 富士見 区民会館			
8月9日 (木) 第4日目	(受付)	(講義) 「ファッションビジネス」 講師 文化服装学院 講師 澤谷 目童	休憩	(講義) 「ファッションディスプレイ」 講師 文化服装学院 教授 小林 良子	昼休 み	(実習) 「ファッションディスプレイ」 ディスプレイ実習 講師 文化服装学院 教授 小林 良子	15:00	(実習)	15:10	(見学) 「ファッションタウン見学」(新宿) 講師 文化服装学院 教授 小林 良子 助手 宇野 明美 井守 あさみ 17:30解散予定	16:00	16:40	文化服装 学院	
8月10日 (金) 第5日目	(受付)	(講義) 「ファッションショー企画(1)」 講師 文化服装学院 教授 徳永 郁代	休憩	(講義・演習) 「ファッションショー企画(2)」 講師 文化服装学院 教授 徳永 郁代 講師 夏目 幸恵	昼休 み	(講義) 「家庭科の専門性を高めるために」 元新潟県立新潟向陽高等学校 校長 国際トータルファッション専門学校 校長 国際調理製菓専門学校 非常勤講師 長谷川 かよ子	15:00	(講義)	15:10	【講評・閉講式】 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	16:00	16:40	<午前> 文化服装 学院 <午後> 家庭クラブ 会館	

実施会場：家庭クラブ会館、千代田区富士見区民会館、文化服装学院

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-2） 乳幼児理解及び子育て理論等に関する知識と技術							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	19	人	参加率	76.0%
開 催 場 所	国立大学法人 お茶の水女子大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	16	94.1	1	5.9	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○今回のこのような研修に参加させていただき、大変有意義でした。各先生方のお話も、今後の授業に生かしていきたいですし、各都県からお越しの先生方と情報交換することができ、得るものも多かったです。</p> <p>○研修の内容は大変すばらしく、有意義かつ充実したものでした。</p> <p>○これだけの時期を費やし、一つのテーマについて深く勉強したことは初めてと思えるくらい私にとって意義がありました。高校生へ保育を教えていくことを深く研究していきたいと実感しています。</p> <p>○5日間を通して何より印象に残っているのはスタッフの先生方が生き生きとそして笑顔で、ユーモアがあり、細やかな気遣いあり、でよく動かれていた姿です。同じ女性として、とても刺激を受け、また家庭科教師として、どうあるべきか手さぐり状態から抜け出せないでいた私にとって、道しるべができました。</p> <p>○全国から優秀な先生方が参加なさっており、自分自身大いに刺激になった5日間でした。出席させていただきましてありがとうございました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭, E-2)

貴団体名：お茶の水女子大学

日 時	9:30	10	15	11	30	12	30	13	30	14	30	15	16	30	17
7月30日 (月)	受付	開講式	(講義) 「新たな家庭教育に向けて」	(演習) 「新たな家庭教育に向 もたち:LD, ADHD, 自閉症 等の支援」	(講演) 「家庭教育における 保育教育の課題」	昼休み	(講義・演習) 「子ども発達のキーワー ド」	(講義) 「生涯発達と子育て」							懇親 記念 写真
7月31日 (火)	(講義) 「発達の気になる子どもたち: LD, ADHD, 自閉症等の理解」	(演習) 「発達の気になる子ども たち:LD, ADHD, 自閉症 等の支援」		昼休み	(講義) 「思春期・青年期の危機 と少年非行:親は、教師 は何かできるか」	(講義) 「崩壊していく家族:児童虐待」									
8月1日 (水)	(講義) 「父親の育児参加」	(演習) 「地域子育て支援・親と の交流方法」		昼休み	(演習) 「地域子育て支援・親との 交流方法」										
8月2日 (木)	(実習) 「乳幼児保育の観察」その1			昼休み	(講義) 「子どもへのまなざしと 保育理解」	(実習) 「乳幼児保育の観察」その2									
8月3日 (金)	(実習) 「幼児期の遊び」			昼休み	総括:全体協議 「乳幼児理解の ための学習指導 の新たな創造」	閉講 式									

実施会場：お茶の水女子大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F-1） 看護の各領域における教授法・教育評価に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	14	人	参加率	70.0%
開 催 場 所	北里大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	8	6	0	0	0
		57.1	42.9	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○最先端医療・看護が行われている北里大学において教育、医療、看護の現状、動向を学習できた事は大変有意義でした。大学の先生から少人数の受講生のためにわかりやすい講義をして頂き、有難かったです。</p> <p>○講師の先生方が最新の動向について詳しく講義して下さい、有意義な5日間を過ごすことが出来て感謝しています。沢山の資料を配布して頂き、今後の教育活動の参考資料として有効活用させていただきます。</p> <p>○貴重な研修でした。是非、今後の授業等に活かしていきたいと思えます。</p> <p>○新しいことを学ぶことができた。資料等もたくさん用意していただき、又、パワーポイントの作り方等勉強になりました。</p> <p>○看護を取り巻く様々な課題をテーマに講義頂き、大変勉強になりました。ありがとうございます。</p> <p>○最新の看護・医療の動向について詳しく学ぶことが出来た。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

看護：F-1

	9:30	11:00	13:00	13:30	14:00	16:30
1日目 8月6日 (月)				受付	開校式	これからの看護教育(情報交換を含む) 北里大学看護キャリア開発・研究センター長 高橋真理先生
2日目 8月7日 (火)	看護の動向 北里大学東病院 看護部長 田中彰子先生	12:30 フィジカル・イグザミネーション 北里大学看護学部教授 矢那瀬信雄先生			看護キャリア開発支援 神奈川県看護協会研修課認定教育班 野地金子先生	
3日目 8月8日 (水)	看護診断；NANDA-NIC-NOC 北里大学看護学部 教授 黒田裕子先生				医療・看護情報システムと情報分析演習 北里大学看護学部 看護学科長 松木悠紀雄先生	
4日目 8月9日 (木)	リスク・マネージメント 北里病院看護部 別府千恵先生	病院環境の管理 北里大学病院環境 整備課 課長代理 座間弘和先生		施設見学 北里大学病院救命救急センター 北里大学病院教育科長 猪又克子先生 北里大学東病院精神神経疾患治療センター 北里大学東病院教育科長 石井か代先生		
5日目 8月10日 (金)	看護技術の教育と評価(ディスカッションを含む) 北里大学看護学部准教授 城戸滋里先生			看護教育の動向 国立教育政策研究所 大橋泰久先生	閉校式	
9:30	11:00	12:00	13:00	14:00	14:30	

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F－2） 看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	13	人	参加率	52.0%
開 催 場 所	学校法人 藍野学院 中央図書館							

\* 全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	6 46.2	7 53.8	0 0.0	0 0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○精神科関連の講義が多くあったが、じっくり学習することで看護の本質・視点を見つめ直せたよい機会になった。</p> <p>○精神科の領域に偏りすぎているように感じた。しかしながら、超一流の先生方の最近の研究成果等について教えていただき、今後、地元に戻ってからも伝達していきたいと思えます。</p> <p>○全ての講座について専門性深く興味をもって受講できました。学校の多忙さに忘れていた看護教育の原点を見つめ直す機会となりました。これを今後の教育に生かしていかなければならないと決意しました。</p> <p>○特に看護教員のあり方等は自分自身の授業が授業に対する思いなどに影響があり、とても勉強になりました。</p> <p>○臨床現場での事例など興味深く聴かせていただきました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 19 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号) 看護 F-2

団体名 全国看護高等学校長協会

月 日	9	9:30	10	11	12	12:30	13	13:30	14	15	16	16:30	17
7月30日 (月)			(開講式) 看護教育における国の動向 高等学校の看護教育				昼休み		(講義) 睡眠障害の患者の取り扱い方 無呼吸症候群の患者の看護				
7月31日 (火)			(講義) 老年期の患者の特質				昼休み		(講義) P T S D の小児の取り扱い				
8月1日 (水)			(講義) 看護師に関する医事法制				昼休み		(講義) 看護教育者をどう教育するか				
8月2日 (木)			(講義) 看護師の社会参加の問題点				昼休み		(講義) 思春期の心と向き合う	(施設見学) 医療法人 恒昭会 藍野病院			
8月3日 (金)			(講義) 精神科看護の今後のかかわり方	(施設見学) 医療法人 恒昭会 藍野花園病院			昼休み		(カンファレンス)	閉 講 式			

実施会場： 藍野学院 中央図書館

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-1） リッチメディアの処理技術に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月24日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	14	人	参加率	70.0%
開 催 場 所	株式会社 内田洋行							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	11	3	0	0	0
		78.6	21.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○最新ソフトウェアを使用しての研修で多くの内容を学習・研究できて良かったです。特にプレミア・プロ、DVDオーサリングの研修が私にとって今後役に立ちます。他の内容も習得・指導できるよう頑張っていきたい。</p> <p>○研修内容も非常に濃く密度の高い研修だった。内田洋行の方々や講師の先生も親切で丁寧に対応していただけたのでありがたく感じた。</p> <p>○3D画像についてこんなに本格的に学ぶ機会が今までなく勉強になりました。</p> <p>○マルチメディアに対応した最新の技術を学習できた事と一番に生徒に対して使え、考え方を学習するのに最適かと考えました。</p> <p>○動画は大変とっつきにくい分野であったが、説明が分かりやすく、思ったより簡単にできたのがうれしかった。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者育成研修日程

(情報, G-1)

社団法人 全国工業高等学校長協会

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月20日	月		受付	(講義) 文部科学省	昼休み		(実習)3D設計データの作成			会場最新 施設見学	懇親会
8月21日	火			(実習)3D設計データの 作成	昼休み		(実習)3D設計データの作成			最新 技術等 紹介	
8月22日	水			(実習)デジタル画像の編 集、グラフィックの作成	昼休み		(実習)デジタル画像の編集、グラフィックの作成			最新 技術等 紹介	
8月23日	木			(実習) デジタルビデオデー タの編集	昼休み		(実習) デジタルビデオデータの編集			成果 物作 成	懇親会
8月24日	金			(実習) デジタルビデオデー タの編集	昼休み		(実習)DVDオーサリングツールによるDVD作成			閉 講 式	

実施場所:株式会社 内田洋行 潮見オフィス 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15 TEL:03-56734-6397 FAX:03-5634-4088

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-2） LANの利用に関する知識と技術							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月23日（月）～平成19年7月27日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	30	人	参加率	150.0%
開 催 場 所	千葉商科大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	18	9	1	0	1
		64.3	32.1	3.6	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○幅広く情報に関する研修を行って大変有意義でした。全国の先生達と交流を深められた事は今後の大きな財産となりました。今後とも是非このような研修に参加したいと思います。</p> <p>○5日間という短い日程ではあったが、システム開発とネットワーク構築の内容は充実していた。しかし理解しきれない所もあったので1つの内容をじっくり研修しても良かったと思う。</p> <p>○5日間の講義・実習を通して、様々なアプリケーションの操作技術、インストール方法等勉強することができました。まだまだ、自分の知らないことが多く、今後とも勉強を続けていかななくては、と気持ちを新たに持つことができました。</p> <p>○多くの先生方のご指導のおかげで、今回の研修は、大変有意義なものになり感謝いたします。学校に戻って活用できることがとても多く、実践に実際に生かしていけたらと思います。また、普段ふれていない新しい知識も多く得られ、この5日間は勉強になりました。</p> <p>○研修内容も良かったですが、それ以上に全国で頑張ってみえる多くの先生と話し、講習を受ける中で、がんばらないといけない、という思いをあらためて持つことができました。人間関係や横のつながりが大切だということですが、本当にそのように思いました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-2)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月23日 (月)	開講式 (実習)	(講義) システム開発実習 ガイダンス	システム開発実 法1 (VBA)	(講義、実習) システム開発技	昼休み	(講義、実習) システム開発技法2 (ACCESS)			
7月24日 (火)	システム開発演習1 (実習)				昼休み	(実習) システム開発演習2			
7月25日 (水)	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ) 1			昼休み	(実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ) 2			(講義) 教育実践 報告	
7月26日 (木)	(実習) システム開発演習3		(講義) ネットワークセ キュリティー		昼休み	(講義、実習) E-Learningを利用し た検定指導(IC3)	(講義、実習) IT事業の展望 (Web関連)		
7月27日 (金)	(講義、実習) シミュレーション(E-commerce)		昼休み	(実習) システム開発	結果発表	移動	(講義) 文部科学省教科調 査官講話		閉講式

実施会場：千葉商科大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉：H-1） 社会福祉援助技術等に関する講義と演習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月24日（火）～平成19年7月27日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	23	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	ルーテル学院大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	16	7	0	0	0
		69.6	30.4	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○「直感」と「体感」を使い今までにはない講義、演習を楽しく受講させていただきました。「体感」することの難しさ、楽しさを生徒たちに伝えられるよう研鑽していきたいと思っております。お忙しい中、御指導いただき、ありがとうございました。</p> <p>○高校生という発達段階に専門分野だけでなく、一般生徒にもぜひ学ばせたい内容だと思いました。</p> <p>○内容、テキストともに非常に良かった。4日間で力と元気を与えていただきました。講師の先生方、参加者の先生方との出会いに感謝します。</p> <p>○理論的に物事を考える大切さがわかった。</p> <p>○社会福祉の奥深さを体験できました。ありがとうございました。</p> <p>○得るものが多く、今回の研修内容を早く実践につなげていきたい気持ちで一杯です。</p> <p>○他県の福祉科教員との情報交換や最新の援助技術の知識を得る機会があったとともに、福山和女先生の講義は興味深く、大変有意義でした。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度産業・情報技術等指導者養成講習日程

(教科名：福祉 講習番号：H-1)

委託団体名：全国福祉科高等学校長会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月24日(火)		開講式 社会福祉援助活動の必要性と対人援助技術の意義 社会福祉援助活動の役割 —ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロ—				講義 対人援助技術と専門職の倫理 今日の振り返り			
7月25日(水)		人の観察と理解/支援の原則を実践に活用する技術 講義と演習 昨日の振り返り 観察のツール、事実を見ることが、観察記録、理解の枠組み、 支援の原則を実践に活用する技術			昼 休 み	講義と演習 電話での問い合わせやインターネット時に使う技術 ロールプレイング 今日の振り返り			
7月26日(木)		人を理解するための技術/ニーズ・アセスメントの技術 講義と演習 昨日の振り返り 人を理解するための技術 面接でのコミュニケーション・スキル				講義と演習 ニーズ・アセスメントの技術 ニーズの六側面を把握する 今日の振り返り			
7月27日(金)		効果的にカンファレンスを行なうための技術/授業計画作成 講義と演習 効果的にカンファレンスを行なうための技術 出席依頼の仕方と参加・参画				講義と演習 授業計画書について 研修の振り返り			閉講式

実施場所：ルーテル学院大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（福祉：H-2） 介護技術等に関する講義と演習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月24日（火）～平成19年7月27日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	東奥学園高等学校							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	17	3	0	0	0
		85.0	15.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○講師の先生の講義は理論的であり、現場での実体験や数多くの実例をあげてお話くださったので、とてもわかりやすかった。また、実技演習では講師の先生方がとても丁寧に教えてくださったので技術を身に付けることができた。</p> <p>○講義では、事例を多く用いて、詳しく説明していただき、大変興味深く研修することができました。また、演習においてもポイントをおさえることができました。ここで学習した内容を今後とのかみ砕いて生徒に還元していくのが大きな課題です。4日間ありがとうございました。</p> <p>○斬新な介護技術の方法を教えていただき勉強になった。講師の先生がとても熱心に熱意をもって教えてくださり、意欲をもって取り組むことができた。とても有意義な4日間だった。</p> <p>○様々な事例等により、科学的根拠のしっかりとした介護技術を学べ、大変有意義だった。「食べる」「立つ」「歩く」等、そこまでいくための過程を重要視しなければ「できる」ことも「できない」ままの生活を送る残念なことになってしまう。側にいる人によって大きく人生が変わるのだということが分かった。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名 全国福祉高等学校長会

(教科名, 研修番号)

教科: 福祉 研修番号: H-2

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月24日 (火)	受付	開講式	講義と演習 「日本の高齢社会の特徴とケアについて」 (日常動作を観察する)	講義と演習 「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術の概論と基本技術」 (復返る、起き上がる、立つ…等)					
			講義と演習 「食べる喜び・生きる力」 ～食べる姿勢、食事と脳の関わり～	講義と演習 「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の実践技術 (麻痺のある人のケア等)					
7月25日 (水)			講義と演習 「口腔ケア・洗髪・排泄の基本知識と実践技術」	講義と演習 「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の実践技術 (移動・移乗の技術)					
			演習 「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の実践技術 (全介助→部分介助→自立に向けた技術)	講義と演習 「ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術」の実践技術 (衣服の着脱)					
7月26日 (木)				昼休み					
7月27日 (金)									
					閉講式				

実施会場: 東奥学園高等学校

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：I-1-1） 技術教育と材料加工に関する講義と実習（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成20年2月18日（月）～平成20年2月22日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	15	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	国立大学法人 宮城教育大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	14	93.3	1	6.7	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○即教材として活用できるものや、理解的なこと、また自分自身の技量・技術を伸ばすもの多岐にわたり、大変有意義な内容であった。</p> <p>○現場にいと、なかなか教材研究をする時間がないのが事実です。たいへん新鮮な気持ちで取り組むことができた。</p> <p>○時期的にも新しい学習指導要領の内容を考える時であり、タイムリーな研修であった。研修スタイルも同じ悩みや考えをもつ先生方と集中して交流ができ、とても有意義であった。</p> <p>○今度の新学習指導要領に向けて、どのような内容に変更になるのか、またどのような授業を展開していけばよいのか等、いろいろ考えさせられるよい研修であった。研修内容も現場で役立つものばかりで大変有意義であった。</p> <p>○学習指導要領の改訂を前に、先取りした研修内容に大変勉強になりました。1つ1つの講義・実習内容が現場に生きるもので興味深く活動できました。これからの技術科指導に役立てたいと思います。</p> <p>○大変有意義でした。まず、上野調査官から新学習指導要領における技・家科の考え方を全国ではじめて伺うことができました。ものづくりの教材・教具も素晴らしいものを紹介していただきました。県に帰り、できるだけ伝えていきたいと考えます。5日間大変ありがとうございました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-1-1)

団体名 宮城教育大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
2月18日 (月)	受付 9:00～	開講式 9:30～ 9:50	(講義) これからの技術・ 家庭科の教育	(講義) 加工材料として の木材	昼休み	(実習) 木工具・木工機 械の調整法	(実習) かんなの調整 (刃研ぎ、 下端の調整) 刃研ぎ治具の製作			
2月19日 (火)	(講義) 新しいものづくり 教育	(実習) 教材と技術科教 材と技術科教 射出成型実験			昼休み	(実習) 材料取り	(実習) 木工製品の製作 (鉛筆立て)			
2月20日 (水)	(講義) 失敗しない栽培 の授業-作物・品 種の選択-	(実習) 葉菜類の栽培管理のコツ			昼休み	(実習) 新しい栽培学習 教材 1 (水耕栽 培)	(実習) 新しい栽培学習教材 2 (組織培養)			
2月21日 (木)	(講義) エネルギー変換機 構について	(講義) エネルギー変換機 ロペラの評価方法と 演示実験			昼休み	(実習) 評価装置の製作	(実習) 評価されたプロペラを 使った風上に向かって 走る車の製作			
2月22日 (金)	(講義) CR 回路の基礎	(実習) Cの充電・放電実験 (電源回路および 時間制御回路への 応用)			昼休み	(講義) 電気自動車の構 造設計法	(実習) 乾電池自動車の製作		閉講式 16:20～ 16:40	

実施会場：宮城教育大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：I-1-2） 技術教育と材料加工に関する講義と実習（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月24日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	12	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	国立大学法人 島根大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	11	91.7	1	8.3	0	0.0	0	0.0	0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○人的環境・物的環境が整い、系統立ったプログラムに関心するとともに、参加させてもらいよかったと感謝している。全国の同僚とネットワークができ、心強い思いがした。技術科教師と同じ時間実習し、話し合える時間が過ごせ幸せだった。地元に戻って実践の幅を広げるとともに地域のレベルアップに微力ながら貢献したい。</p> <p>○授業実践、教科経営に生かせる内容であり、なおかつ、時間をかけてみっちり取り組むことができ、スキルアップにつながったと思う。中身の濃い5日間であったと思う。</p> <p>○技術教育についての知識や指導方法を深め、高めることができた。また、各地方の中学校の様子や課題などを交流することができた。</p> <p>○授業実践で役立つ講義・演習が中心でとても有意義でした。内容だけでなく西日本各地の先生方と交流が図れ、横のつながりも出来たように思います。スキルアップの出来た研修でした。是非、島根で再度研修をお願いしたい。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

# 平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

委託団体名：国立大学法人 島根大学

(教科名, 研修番号) 技術, I-1-2

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8/20 (月)	受付 開校式 及び ガイダ ンス	(講義) 本講座 の活用 法 (上野)	(講義) これからの技術 ・家庭科技術分 野の在り方 (上野)		昼休み	(講義・実習) 木材切削機構と2枚刃 平かんなの調整(1) (山下) (秋葉 (助手) :2H)	(講義・実習) 木材切削機構と2枚刃 平かんなの調整(2) (山下)		
8/21 (火)	(講義・実習) 木材鋸断機構とのこ ぎりによる材料取り (木取り) (山下)		(講義・実習) かんかけずりに よる部品加工 (山下)		昼休み	(講義・実習) 教育用小型木工機械による機械加工製作実習と 安全な使用方法(1)			
8/22 (水)	(講義・実習) 教育用小型木工機械 による機械加工製作 実習と安全な使用法 (2) (山下)		(講義・実習) プラスチックに よる製作実習(1) プラスチックの 1.5H こぎりびき加工 (大谷)		昼休み	(講義・実習) プラスチックによる製作実習(2) プラスチックの面接着 (大谷 : 4H) (秋葉 (助手) : 13~15時の2H)			
8/23 (木)	(講義・実習) プラスチックによる製作実習(3) プラスチックの研削・研磨・穴開け		(大谷 : 3H)		昼休み	(講義・実習) プラスチックによる製 作実習(4) プラスチックのねじ切 り・組み立て (大谷 : 2H) (秋葉 (助手) : 2H)	(講義・実習) エネルギー変換技術の学習 内容と指導法 (1) (田口 : 2H)		
8/24 (金)	(講義・実習) エネルギー変換技術の学習内容と 指導法 (2)		(田口 : 3H)		昼休み	(講義・実習) ものづくり学習技能診断と観点別絶対評 価	(長澤)		閉講式

実施会場：島根大学教育学部木材加工実習室

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：I-2-1） 情報とコンピュータ1（題材開発（制御、動画作成）等）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年9月10日（月）～平成19年9月14日（金）	5日間						
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	12	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	国立大学法人 宮城教育大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だ った	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	12	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○研修の内容、講義をされる先生方全て丁寧で分かりやすく、現場にあっているものを提供していただきました。</p> <p>○非常に熱心に講義をしていただき、教えていただいた先生方にまずは感謝です。日頃は日常の業務におわれ、なかなか新しいことを学べなかったが、今日学んだことを活かし、今後の教育活動にはげみたいと思った。</p> <p>○今回の研修で、多くの情報を得ることができました。今後、自分の実践に生かしていきたいと思えます。また、さらにそれを多くの先生方に伝えられたらと思えます。大学の先生方にもいろいろ相談にのっていただけて感謝しています。</p> <p>○限られた期間の中で、盛りだくさんの内容で追いつくのが精一杯でしたが、すべてが自分にとって学ぶところがありました。ふだんの教育現場では、時間の制約等でできないことがたくさんできてとてもよかったです。先生方をはじめ、学生のみなさまにあらためて感謝申し上げます。</p> <p>○学校では、生徒指導、校務分掌、授業と毎日忙しい日々です。このように一週間、教科の研修ができたことは、大変勉強になりました。また、大学の先生方が熱心に指導していただき教育に対する姿勢も学ぶことができました。学校にもどりましたら、自分自身、もう少し視野を広げ、日々研修していきたいと思えます。本当にお世話になり、ありがとうございました。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, 1-2-1)

団体名 宮城教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
9月10日 (月)	受付 [9:00-9:30] 開講式 [9:30-9:50]	(講義(実習含))コンピュータの基礎1(ソフトウェア活用環境の整備) [10:00-11:30]	(講義(実習含))コンピュータの基礎2(ソフトウェア活用環境の整備) [10:00-11:30]	(講義(実習含))コンピュータの基礎2(周辺装置の活用) [11:40-12:40]	昼休み	(講義(実習含))コンピュータの構造1(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み) [13:20-15:20]	(講義(実習含))コンピュータの構造2(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み) [13:20-15:20]	(講義(実習含))インターネットの活用1(新しい情報発信の方法) [15:30-17:00]	
9月11日 (火)	(講義(実習含))コンピュータの構造2(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み) [9:00-10:30]	(講義(実習含))コンピュータの構造3(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み) [10:40-12:10]	(講義(実習含))コンピュータの構造3(ワンチップマイコンから学ぶコンピュータの仕組み) [10:40-12:10]	昼休み	昼休み	(講義)PCのハードウェア構成と設定 [13:00-14:30]	(実習)PCの自作組立実習 [14:40-17:10]		
9月12日 (水)	(講義)コンピュータデザイン1 [9:00-10:30]	(実習)コンピュータデザイン2 [10:40-12:10]	(実習)コンピュータデザイン2 [10:40-12:10]	昼休み	昼休み	(講義)著作権の基礎 [13:00-14:30]	(講義)教育現場の事例からみた著作権 [14:40-16:10]		
9月13日 (木)	(講義)マルチメディアコンテンツ概論(もの作り支援としてのデジタルコンテンツのありかた) [9:00-10:30]	(実習)マルチメディアコンテンツ作成実習(もの作り支援としてのデジタルコンテンツの作成) [10:40-12:10]	(実習)マルチメディアコンテンツ作成実習(もの作り支援としてのデジタルコンテンツの作成) [10:40-12:10]	昼休み	昼休み	(講義(実習含))LANによる情報活用 [13:00-15:30]	(講義(実習含))コンピュータ制御1(ロボット制御) [15:40-17:10]		
9月14日 (金)	(講義(実習含))ロボットとセンサ [9:00-10:30]	(講義(実習含))ロボット制御2(ロボットとセンサ) [9:00-10:30]	(講義(実習含))ロボット制御3(オリジナルロボットの製作とその授業での活用) [10:40-12:10]	昼休み	昼休み	(講義(実習含))インターネットの活用2(ネットワークセキュリティ) [13:00-14:30]	(講義・協議)中学校における情報教育の位置づけ [14:40-15:10]	閉講式 [15:10-15:30]	

実施会場： 宮城教育大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：I-2-2） 情報とコンピュータ2（ネットワークと計測制御等）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年8月6日（月）～平成19年8月10日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	22	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	国立大学法人 鳴門教育大学							

※全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答				
人数 (人)	割合 (%)	14	66.7	7	33.3	0	0.0	0	0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○幅広い内容を研修でき有意義だった。 ○新しい教材のヒントが見つけた。 ○技術の目指していることがわかった。 ○各県の様子が多少なりともわかった。 ○制御関係の教具などを作ることができた。 ○最新の状況がわかった。 ○自分が今までにしたかった内容の研修ができてよかった。今後さらに勉強していきたい。 ○最新の考え方、不変の考え方を教えていただいたことはとてもよかったです。 ○上野調査官からの教育や中央の現況がわかり今後の方向性を考えていくために大変ためになった。 ○菊地先生からの計算機の変遷やパソコン作りはとても興味深く受講できました。 ○伊藤先生からのプログラミングや制御も楽しく、たくさんの参考になる授業アイデアもいただきました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。 ○研修内容について見直し。</p>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号) 技術 I - 2 - 2

団体名 鳴門教育大学

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成19年 8月6日(月)		開講式	これからの技術・家庭 (技術分野)		昼休み	計算機器の変遷	計算機教材の開発		
8月7日(火)	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	昼休み	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク		
8月8日(水)	情報メディアを用いた情報表現	情報メディアを用いた情報表現	情報メディアを用いた情報表現	昼休み	情報メディアを用いた情報表現	情報メディアを用いた情報表現	情報メディアを用いた情報表現		
8月9日(木)	プログラムによる計測と制御	プログラムによる計測と制御	プログラムによる計測と制御	昼休み	プログラムによる計測と制御	プログラムによる計測と制御	プログラムによる計測と制御		
8月10日(金)	情報技術教育の捉え方	情報技術教育の捉え方	情報技術教育ディスカッション	昼休み	情報技術教育ディスカッション	情報技術教育ディスカッション	閉講式		

実施会場： 鳴門教育大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：J-1） 食に関する指導の講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月3日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	31	人	参加率	124.0%
開 催 場 所	大妻女子大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答			
人数 (人)	割合 (%)	25	80.6	6	19.4	0	0.0	0	0.0

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○専門性が高く、最新のデータに基づく講義はとても有意義であった。即実践にというものだけでなく、自分自身の知識、教養を深められたことが特に意義深かった。</p> <p>○単発的な研修が多い中で、こうしてまとまった日程を設定していただき、内容の濃い研修ができるのはとてもありがたいことです。「食」について知らなかった事にも触れることができ大きな収穫を得たような気がします。帰省したら多くの先生方にも報告と資料提供などを行う予定です。これからも家庭科教育に邁進していきたいと思えます。充実した研修機会を与えていただき、どうもありがとうございました。</p> <p>○5日間を通して大変興味を持てる講義内容や演習・実習・実験で良い研修の機会となった。いろいろな新しい流れや情報を知ることができ、また情報交換等することができて大変有意義だった。</p> <p>○専門的な知識・理解が深まり、勉強になりました。</p> <p>○現場で、授業での活用が可能なものがあり参考になりました。</p> <p>○最新の専門的な内容について学習できただけでなく、他県の先生方の様々な実践、現状の様々な実践、現状、苦労話・・・等多くの情報を得ることができ、有意義に過ごすことができました。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成19年度 産業・情報指導者養成研修日程**  
(大妻女子大学)

**家庭：J-1**

日程/時間	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
7月30日 (月)		受付	開講式 10:00 挨拶(開) 10:12 ガイダンス 10:22 事務連絡 ガイダンス	(講義) 「これからの学校教育と技術・家庭科教育」 (担当) 岡 陽子 (文部科学省初等中等教育局教科調査官) 652教室 10:30-12:00	昼食	(講義) 「中学校技術・家庭の食に関する指導の充実」 (担当) 岡 陽子 (文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告) 「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 (担当) 菊野享子(埼玉県行田市立行田中学校) 朝倉京子(石川県小松市立安宅中学校) 30分×2人、質疑応答30分 652教室 13:00-16:00			
7月31日 (火)	(講義) 健康と食生活1 「食育と野菜」 池上幸江(大妻女子大学) 652教室 9:00-10:25	休憩十分	(講義) 健康と食生活2 「骨の健康と食生活」 青江誠一郎(大妻女子大学) 652教室 10:35-12:00	昼食	(講義・演習) 「実践的な態度を育てる技術・家庭科での食に関する指導」 (担当) 石井克枝(千葉大学) 652教室 13:00-16:00				
8月1日 (水)	(講義) 食の現代的問題1 「米食文化：風土と歴史」 井上榮(大妻女子大学) 652教室 9:00-10:25	休憩十分	(講義) 食の現代的問題2 「食の安全性と食品の選択」 菅家祐輔(大妻女子大学) 652教室 10:35-12:00	昼食	(実習) 「健康志向に対応したアイスクリームの製造」 渡辺雄二(大妻女子大学) 846実習室 13:00-16:00				
8月2日 (木)	(講義) 食の現代的問題3 「肥満と痩せの栄養管理」 中西靖子(大妻女子大学) 652教室 9:00-10:25	休憩十分	4 (講義・演習) 食の現代的問題 「食事摂取基準の中学校における指導や活用方法について」 彦坂合子(大妻女子大学) 652教室 10:35-12:00	昼食	(実験) 「食品の調理性-粉と鶏卵について」 市川朝子(大妻女子大学) 632実習室 13:00-16:00				
8月3日 (金)	(実習) 「日常食の調理-食品と調理性」 下村道子(大妻女子大学) 632実習室 9:00-12:00		昼食	(ディスカッション) 「実践的な態度を育てる技術・家庭科での食に関する指導」指導案発表 (担当) 石井克枝(千葉大学) 652教室 13:00-14:30	閉講式 14:40 挨拶(大妻女子) 修了証授与 14:55 事務連絡 (大妻女子大学) 15:00 閉会(同)				

実施会場：大妻女子大学

## I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：J-2） 幼児理解に関する講義と実習							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	○都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ○高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成19年7月23日（月）～平成19年7月26日（木）	4日間						
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	12	人	参加率	48.0%
開 催 場 所	国立大学法人 東京学芸大学							

\*全体計画人数495人、受講者数405人、参加率81.8%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義だった	おおむね有意義だった	あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答
人数(人)	割合(%)	7 63.6	4 36.4	0 0.0	0 0.0	1

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○普段限られた地域の先生方としか交流する機会が持てなかったり、ひとつの内容についてじっくり研修する時間がないのでよい機会でした。大学の研究者としての視点、附属学校の様子、他県の先生方の実践と大変参考になりました。</p> <p>○日常の職務を離れ、大変に密度の濃い4日間を過ごすことができました。全国からこられた先生方からは抱える悩みや課題は場所が異なっても共通することであると実感として感じる事ができました。また講師の先生方からは自分の視点を改める様々なお話を聴くことができ貴重な時間となりました。また保育園では忙しい中温かく迎えていただき異年齢保育の様子をゆっくり観察する良い機会となりました。</p> <p>○4日間を通して感じたことは、日頃教えることに終始しがちな自分に新しい風、考え方を吹き込んでもらったという感じである。実践事例がいちばんありがたいように思いがちだが、授業を創る上では、幼児理解やこれからの方向性、現状の問題点を知ることも同じくらい重要であり今後の基盤となるものだと感じた。</p>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名 家庭， 研修番号 J-2)

		団体名 国立大学法人 東京学芸大学											
日 時	9	10	10:30	11	12	13	14	15	16	17			
7月23日(月)		受付	開講式 ガイダンス	(講義)「家庭科の指導と評価」 (担当) 岡 陽子 (文部科学省初等中等教育局教科調査官) (会場) 総合教育学系 研究棟3号館			(講義)「幼児理解Ⅰ」 現代社会における家族・保育の問題についての理解を深める (担当) 田村 毅 (東京学芸大学教授) (会場) 総合教育学系研究棟3号館		(講義)「保育観察Ⅰ」 保育観察に必要な予備知識を学ぶ (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育学系研究棟3号館				
7月24日(火)		(実習)「保育観察Ⅱ」 約5名ごとに5グループ分かれ、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 小金井市立保育園 5園					(演習)「保育観察Ⅲ」 グループディスカッション (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) 他5名 (会場) 総合教育学系研究棟3号館		(講義)「保育体験学習指導法」 幼児と中学生が関わるために保育者側から見た保育体験学習 (担当) 井口眞美 (東京学芸大学附属幼稚園教諭) (会場) 総合教育学系研究棟3号館				
7月25日(水)		(実習)「保育観察Ⅳ」 約5名ごとに5グループ分かれ、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 小金井市立保育園 5園					(演習)「保育学習Ⅰ」 パネルディスカッションの形態で、保育体験学習の場となる幼稚園・保育園の意識や、講習参加者の実践例等について話し合う。 (担当) 金田利子 (白梅学園大学教授) 伊藤葉子 (千葉大学准教授) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育学系研究棟 3号館						
7月26日(木)		(講義)「幼児理解Ⅱ」 保育学習に必要な、幼児理解について学ぶ (担当) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育学系研究棟3号館					(演習)「保育学習Ⅱ」 保育体験を中核にすえた家庭科授業を検討し、保育学習の課題を話し合う (担当) 阿部睦子 (東京学芸大学附属竹早中学校教員) 金子京子 (さいたま市立大谷場中学校教員) 妹尾理子 (香川大学准教授) 望月一枝 (秋田大学教授) 倉持清美 (東京学芸大学准教授) (会場) 総合教育学系研究棟 3号館						閉講式

実施会場： 国立大学法人 東京学芸大学

## I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業） 農業及び農業教育に関する講義等							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成19年8月20日（月）～平成19年8月28日（火）	7日間						
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	29	人	参加率	96.7%
開 催 場 所	国立大学法人 宇都宮大学							

\*全体計画人数60人、受講者数44人、参加率73.3%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	15	14	0	0	0
		51.7	48.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○普段、自分の知っている分野以外の知識や技術を学び得ることができたので、大変有意義に過ごすことができました。意見とすれば、全体的に各協議・演習とも、もう少し時間をかけ深い部分までできればいいと思いました。</p> <p>○講義はもちろんだが、実験、実習がある事で、より深く理解することができました。</p> <p>○約1週間長い間ありがとうございました。専門的な学習が多くとても勉強になりました。また、農業教育の現場で働く立場として外での実習等を多くしていただいていたと思います。</p> <p>○興味、関心を抱く内容で楽しく勉強することができました。</p> <p>○7日間お世話になりました。講習で学んだことを学校現場で生かしていこうと思います。</p> <p>○実習授業のスペシャリストとなる為には幅広い専門知識や技術を身に付けなくてはならないので、貴学での講義は大変有意義でした。実習や実験が入っていたのが理解しやすく良かったです。</p> <p>○日常生活し、勤務している時にまず体験、経験出来ないことを今回させて頂きました。実習的な授業も多く取り入れていただき、身をもって知ることができたと感じます。先生方の用意された資料もありがたく思います。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業教育実習助手研修日程

(農業)

大学名 国立大学法人 宇都宮大学

日・時	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
8月20日 (月)		開講式・ オリエテーション	農学部長 特別講演	昼休み	(講義) 2-① 「食品廃棄物の 再生利用」 宇田 靖	休憩	(講義・実験) 2-② 「食品廃棄物に含まれ る有用成分」宇田 靖	
8月21日 (火)	(講義) 2-③ 「生理活性物質」 飯郷 雅之	休憩	(講義) 1-① 「戦後日本農業60年の 歩み」大栗 行昭	昼休み	(講義) 3-① 「水田環境の修復」 水谷 正一	休憩	(講義・実習) 3-② 「水田環境の修復現場 実習」水谷 正一	
8月22日※ (水)	(講義) 3-③ 「森林資源の計測」 松英 恵吾	休憩	(講義・実習) 3-④ 「森林資源の計測実習」 松英恵吾・飯塚和也	昼休み	(講義) 3-⑤ 「森林環境学」 小金澤 正昭	休憩	(講義・実習) 3-⑥ 「森林環境学」 小金澤正昭・飯塚和也	
8月23日 (木)	(講義) 1-② 「農作業改善のための 空間デザイン」 八巻 良和	休憩	(講義) 1-③ 「植物の相互作用が農業 の生産に果たす役割」 八巻 良和	昼休み	(講義) 2-④ 「雑草生理生態学」 小笠原 勝	休憩	(講義・実験) 2-⑤ 「植物ホルモロン」 小笠原 勝	
8月24日※ (金)	(講義) 3-⑦ 「バイオマス資源 リサイクル」 岩淵 和則	休憩	(講義) 1-④ 「動物育種学」 福井 えみ子	昼休み	(講義) 1-⑤ 「家畜の人工繁殖 技術概論」 長尾 慶和	休憩	(講義・実習) 1-⑥ 「家畜の人工繁殖 技術実習」 長尾 慶和	
8月25日(土)	休 日							
8月26日(日)	休 日							
8月27日 (月)	(講義) 2-⑥ 「植物化学生態学」 米山 弘一	休憩	(講義) 3-⑧ 「環境に優しい害虫防除」 村井 保	昼休み	(講義) 2-⑦ 「木材の細胞壁構造と 構造成分」阿部 善作	休憩	(講義・実験) 2-⑧ 「木材製品の検査」 阿部 善作	
8月28日 (火)	(講義) 1-⑦ 「植物病理学Ⅰ」 夏秋 知英	休憩	(講義) 1-⑧ 「植物病理学Ⅱ」 夏秋 知英	昼休み	(講義) 3-⑨ 「食の安全と重金属」 深見 元弘	休憩	閉講式	

実施会場：国立大学法人 宇都宮大学

教職に関する専門科目 (1単位) 1 農業科教育法 1-①～1-⑧  
 教科に関する専門科目 (1単位) 2 農業と生命科学 2-①～2-⑧  
 教科に関する専門科目 (1単位) 3 農業と環境科学 3-①～3-⑨

※8月21日(火) 大学発 12:30 講義開始 13:00 講義終了 16:15 大学着 16:45 [会場：河内町水田水域]

※8月22日(水) 大学発 8:00 講義開始 9:00 講義終了 16:30 大学着 17:30 [会場：附属演習林]

※8月24日(金) 大学発 8:15 講義開始 9:00 講義終了 16:30 大学着 17:15 [会場：附属農場]

## I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業） 工業及び工業教育に関する講義等							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成19年7月30日（月）～平成19年8月7日（火）	7日間						
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	15	人	参加率	50.0%
開 催 場 所	国立大学法人 八戸工業大学							

\*全体計画人数60人、受講者数44人、参加率73.3%

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		大変有意義 だった	おおむね有意 義だった	あまり意義が なかった	全く無意義だっ た	無 回 答
人数 (人)	割合 (%)	10	5	0	0	0
		66.7	33.3	0.0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

<p>○多くの先生方の講義を受けることができ、それぞれの先生方の考え方や研究内容に触れることができたことが良かったと思う。工業教育を新たな視点から見れるようになったと思う。</p> <p>○研修内容や方法・環境はどれも素晴らしく、これから工業高校で授業を行うにあたっての参考となった。</p> <p>○今回の研修はとても充実しており、中身もとても勉強になりました。これからの授業や指導でいかしていきたいと思えます。</p> <p>○殆どの講義でパワーポイントを用いての講義だったので、とても分かりやすかったです。</p> <p>○この研修を通して他県の先生方と交流を深めることができました。</p> <p>○今回の研修に参加して良かったです。機械・電気電子工学の基礎及び最先端技術の一端を学ぶ事ができ、大変勉強になりました。今後も機会があれば参加したい。</p>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>○実地経費の1/2を派遣者負担としている。</p> <p>○研修内容について見直し。</p>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成19年度産業教育実習助手研修日程

大学名：八戸工業大学

(工業)

日時	第1時限 8:50~10:20	休憩	第2時限 10:30~12:00	昼食	第3時限 12:50~14:20	休憩	第4時限 14:30~16:00
7/30 (月)	開講式		講義①②[工業科指導法] 学習指導要領と教科「工業」について		講義③④[工業科指導法] 学校経営について		講義⑤⑥[工業科指導法] 人材教育に求められているもの
7/31 (火)	講義⑦⑧[工業科指導法] 中等工業教育の意義・歴史・法令		講義⑨⑩[工業科指導法] 教科－工業の内容		講義⑪⑫[工業科指導法] 教育課程・授業設計・教育実習		講義⑬⑭[工業科指導法] 学習理論・教育評価・進路指導
8/1 (水)	講義⑮⑯[工業科指導法] 学校運営・工業高校の展望		講義①②[計測工学] 計測の基礎1		講義③④[計測工学] 計測の基礎2		講義⑤⑥[計測工学] 計測の基礎3
8/2 (木)	講義⑦⑧[計測工学] 計測の基礎4		講義⑨⑩[計測工学] 測定法1		講義⑪⑫[計測工学] 測定法2		講義⑬⑭[計測工学] 測定法3
8/3 (金)	講義⑮⑯[計測工学] 測定法4		講義①②[電気電子工学概論] 電気機器・モーター1		講義③④[電気電子工学概論] 電力・エネルギー1		講義⑤⑥[電気電子工学概論] 電力・エネルギー2
8/6 (月)	講義⑦⑧[電気電子工学概論] 電気機器・モーター2		講義⑨⑩[電気電子工学概論] 通信・電磁波		講義⑪⑫[電気電子工学概論] ロボット・制御		講義⑬⑭[電気電子工学概論] 通信・携帯電話
8/7 (火)	講義⑮⑯[電気電子工学概論] 宇宙・原子力		閉講式				
8/31 (金)	レポート提出日						

実施会場：八戸工業大学